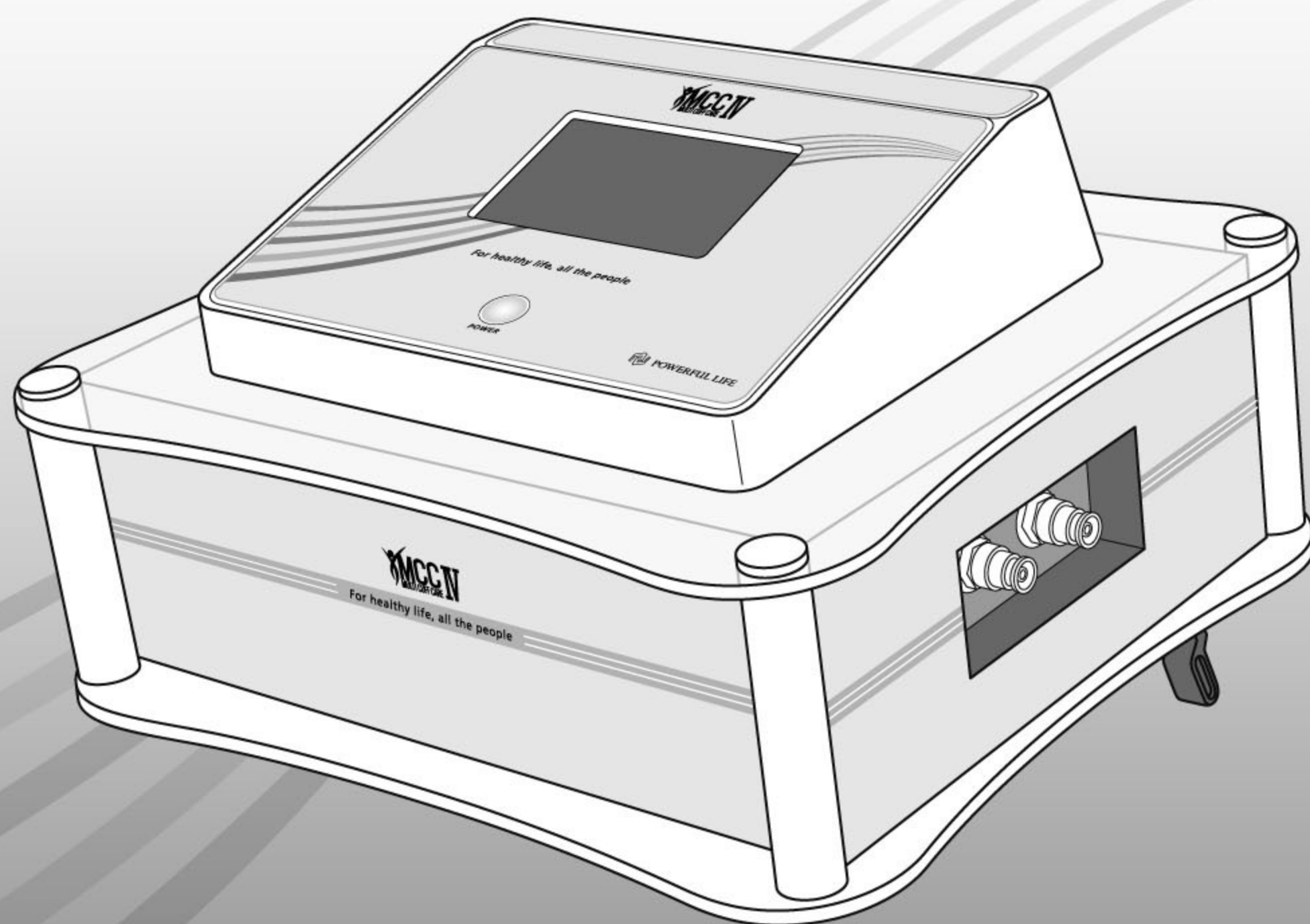




MCCIV MULTI CUFF CARE IV

マルチカフケア4 (MCCIV)

取扱説明書



CARE & TRAINING

目次

安全にお使いいただくために	2
はじめに	14
・ RICとは	14
・ MCTレーニングとは	14
6つのプログラム	15
構成品	16
・ 使用カフ一覧表<モード・プログラム別>	18
各部の名称とはたらき	20
・ 操作画面	22
・ モードを切り替えるには	23
・ 初期化について	26
RICモードで使用する	27
・ 下肢リックオートモードで使用する	27
・ 上肢リックマニュアルモードで使用する	36
・ リックマニュアルオルタネートモードで使用する	45
トレーニングモードで使用する	50
・ リックオートトレーニングモードの操作	50
・ MCトレーニングモードの操作	50
・ トレーニング用カフを巻く	58
・ トレーニングをする	66
お手入れ方法	68
・ お手入れと保管	68
・ 廃棄する	69
困ったときは	70
・ 故障かな?と思ったら	70
・ よくあるご質問	72
仕様・保証書	74
・ 仕様	74
・ 保証規定	75
・ 保証書	76

安全にお使い いただくために
はじめに
6つのプログラム
構成品
各部の名称と はたらき
RICモードで 使用する
トレーニングモード で使用する
お手入れ方法
困ったときは
仕様・保証書

安全にお使いいただくために

人への危害、財産の損害を防止するために必ずお守りいただきたい内容を記載しています。ご使用前に、「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、正しく使用してください。

表示の種類

表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。



この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。



この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示の種類

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です)



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」です。

危険

〈一般的な注意事項〉



次のような医用電気機器とは併用しないでください。
事故や医用電気機器の誤作動をまねき、身体に著しい障害をもたらす
おそれがあります。

- 人工心肺などの生命維持用医用電気機器
 - 心電計などの装着型医用電気機器
- ※ペースメーカー、インスリンポンプは可能ですが、医師と相談のうえ
使用してください。

警告

〈症状について〉



- 取扱説明書の内容を理解できない方、または操作できない方は、使用
しないでください。事故やけがの原因になります。
取扱説明書の内容で不明点がある場合は、お買い上げの代理店または
巻末の連絡先までご連絡いただければ、スタッフがご説明いたします。



- 以下の項目にあてはまる方は、使用しないでください。
- 意識を失ったり、めまいを起こして身体のバランスを崩したことがあ
り、それが完治していない方
- トレーニングモードで使用する場合次のような方には使用しないでください。
- 骨や関節に損傷や変形があり、運動によりその症状が悪化する可能性
の高い方



- 次のような部位にはカフを巻かないでください。
- 腕や脚、腰以外の部位(首、脚など)
 - 関節部(ひじ、ひざなど)
 - マッサージなど圧迫することを医師から禁止されている部位
 - 金属、プラスチック、シリコンなどを埋め込んである部位
- ※人工血管、カテーテルなどは禁止です。
※骨折手術、人工関節は可能です。



次のような部位には使用しないでください。

- 骨や筋肉の手術を受けて7日以内の部位
- 感染(化膿、蜂窩織炎)、炎症、重度の皮膚炎のある部位
- 重度の血行障害や知覚障害のある部位
- 受傷後5日以内の創傷、骨折、捻挫、肉ばなれなどがある部位
- 浮腫み(むくみ)や腫れが最近悪化している部位 静脈血栓症
- 上記以外でも、取扱説明書で指定している部位以外には使用しないでください。



以下の場合には使用しないでください。

- 現在症状が不安定なとき
- 重度の持病のある方
- 心臓に重度の障害のある方
- 重度の高血圧の方
- ペースメーカーなどの体内植込み型医用電気機器を使用している方
- 悪性腫瘍のある方
- 妊娠中や、出産直後
- 発熱しているとき
- 安静を必要とするとき
- 著しく体調がすぐれないとき
- 風邪や胃腸炎などの急性症状のあるとき
- 強いめまい、強いふらつき、全身の震えなどの症状があるとき
- 上記以外に特に身体の異常を感じているとき



次のような方に対して、片腕1分以内(インターバル30秒以上、5セット以下)のRICモードで使用することは可能です。
それ以上のRICモードでの使用、あるいはトレーニングモードでの使用は、必ず医師にご相談のうえ使用してください。

- 現在、急性期あるいは重度の高血圧・心臓病・糖尿病・肝臓病・腎臓病・脳梗塞・脳出血その他持病などの病気で、医師の治療を受けている方
- 手術や内視鏡カテーテルの治療を受けて間もない方
- 生理中の方 出血が増える可能性があります。



次のような方には、必ず信頼できる方が付き添って使用してください。

- ご高齢または幼齢などで、監督が必要な方
- 身体に重度の障害をお持ちの方



次のような場合は、ただちに使用を中断してください。
そのまま使用を続けると、症状の悪化につながるおそれがあります。
使用を中止しても改善しないときは医師に相談してください。

- 使用中や使用後に不快感、肌荒れ、発疹、赤み、炎症などの異常があらわれた場合
- 一定期間使用しても効果がみられない場合

〈使用範囲の確認〉

- カフを巻くことが可能で、禁止事項に該当しない場合基本的すべての人に対して片腕1分以内(インターバル30秒以上、5セット以下)のRICモードで使用することは可能です。

〈電源について〉



- 電極部に金属を接触させないでください。感電のおそれがあります。
- 変圧器を用いた使用はしないでください。故障や感電の原因になります。
- 電源コードや電源プラグが傷んだ状態、またはコンセントの差し込みが緩いときなどは使用しないでください。感電、ショート、発火の原因になります。
- 電源コードを本体に巻きつけたり、スタンドで踏んだりしないでください。また、電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。コードが破損し、火災や感電の原因になります。
- 電源プラグ、電源コードを破損するようなことはしないでください。傷つけたり、加工したり、熱機器に近付いたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたりしないでください。感電、ショートによる発火、火災の原因になります。



- コンセントや配線器具の定格を守って使用してください。

〈一般的な注意事項〉



- お子様だけで使用させたり、お子様やペットの手の届くところで使わないでください。また、お子様やペットを本体の周辺で遊ばせたり、本体の上に載せたり、座らせたりしないでください。事故やけがの原因になります。
- 本体を布団やコタツの中に入れて使用しないでください。
- 浴室、サウナ、プールなど湿度の高いところでは使用しないでください。
- 濡れた手で操作しないでください。感電や故障の原因になります。
- 食後すぐは本製品を使用しないでください。
食後は30分程度空けて使用してください。体調不良の原因になります。



- 異常、故障時にはただちに使用を中止し、ACアダプターを抜いてください。発煙、発火、感電の原因になります。
- 使用前、使用後は必ず各部品の点検を行ってください。破損、割れ、亀裂、変形、不具合などの異常がある場合は、ただちに使用を中止してください。
- 使用前に、必ずカフなどの布地に破れや汚れがないか確認してください。破れや汚れがある場合、ただちに使用を中止し、修理を依頼してください。



- 製品を分解、改造、修理はしないでください。事故やけがのおそれがあります。
- 機器が故障した場合は、勝手に修理せず、お買い上げの代理店または巻末の連絡先にご連絡ください。
電源コードが破損した場合、危険ですのでコードの交換はお買い上げの代理店または巻末の連絡先に依頼してください。



- トレーニング中、ご本人の過失により、ご本人または他の人に損害を与えた場合、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

注意

〈症状について〉



次のような場合は、ただちに使用を中断してください。

- めまい、吐き気、胸の痛みなど、普段と違う症状を感じたとき
- 緊急時や動作中に異常を感じたときは、強制終了ボタンを押して動作を停止させてください。

〈電源について〉



- 本品から異臭、異音がする場合、または内部に水などの異物が入り込んだ場合は、ただちに電源を切ってください。ショートや故障、発火のおそれがあります。
- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、電源スイッチがオフになっていることを確認してください。故障や感電の原因になります。
- 電源プラグは確実に最後まで差し込んでください。また、電源プラグにピンやごみ、水分を付着させないでください。感電やショート、発火の原因になります。
- 落雷の可能性があるときは、ただちに使用を中止して電源スイッチをオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用後は必ず電源スイッチをオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。お子様やペットのイタズラ等による事故やけがのおそれがあります。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って抜いてください。感電やショートの原因になります。
- ご使用にならないときや長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ほこりや湿気で絶縁劣化し、感電や漏電、火災の原因になります。
- コンセントからACアダプターを抜くときは、ACアダプター本体を持って、製品からアダプタープラグを抜くときは、アダプタープラグを持って抜いてください。



- お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。
- タコ足配線で使用しないでください。火災、感電、誤作動の原因になります。
- 専用のACアダプター(定格のACアダプター)以外では使用しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- ACアダプターのコードを束にしないでください。火災、感電の原因になります。
- ACアダプターのコードの上に物を置かないでください。火災、感電の原因になります。
- 動作中にACアダプターをコンセントから抜いたり、本体からコードを抜いたりしないでください。感電、ショートによる発火、火災の原因になります。

〈使用時間の制限〉



- 取扱説明書に記載している時間、回数の制限を必ず守って使用してください。

〈一般的な注意事項〉



- 取扱説明書の使用方法以外の使い方をしないでください。
- 本体と他の電気製品、美容機器、治療器や電気毛布、コタツなどを併用しないでください。身体に悪い影響を与えたり、体調不良、けがの原因になります。
- 本体や付属品は、水につけたり、水洗いしないでください。感電、ショートによる発火、火災の原因になります。
- 本体を電子レンジなどで温めたり、火気に近付いたりしないでください。事故やけが、感電、破損、汚れなどのおそれがあります。
- 可燃性、支燃性ガスを使用する環境では使用しないでください。火災、故障の原因になります。
- 本体に液体をこぼしたり、濡れた状態で使用しないでください。液体が付着した場合、乾いた布でふき取ってからご使用ください。事故やけが、感電、破損、汚れなどのおそれがあります。



- 強い静電気や電磁波に近付けないでください。
- 不安定な場所に設置しないでください。けがや事故の原因になります。
- 本体の上に乗る、立つ、座るなどの行為はしないでください。
- 衝撃を与えたり、落下させないでください。
- 保管時には、物を上に載せないでください。
- 指定のカフ以外は使用しないでください。
- 事故防止のため、本製品の製造者が販売、あるいは推奨している部品以外は使用しないでください。
- 無人で動作させないでください。
- 同時に2人以上で使用しないでください。
- 加圧中にカフが外れた場合、無理に巻こうとしないでください。
- 使用中は眠らないように注意してください。けがの原因になります。
- 製品の使用中に、手先の技術を要する作業(家事、炊事など)を行わないでください。
- 素肌ではなるべく使用しないようにしてください。
- アクセサリーなどのかたい物をつけて使用しないでください。
- 自動車などの運転中は使用しないでください。
- 飲酒後は使用しないでください。



- 取扱説明書をよく読み、理解してから使用してください。
- ご使用前には取扱説明書にしたがい、すべてのスイッチを順次入れ、機器が正常に動作することを確認めたうえで使用してください。
- 製品が破損したとき、または製品に異常を感じたときは、ただちに使用を中断してください。
- 周囲に人、動物などが近付いてきたときは、ただちに使用を中断してください。
- 異常を感じたときは、ただちに使用を中止し、点検、修理を依頼してください。事故、故障の原因になります。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。
- しばらくご使用にならなかつた後、再びご使用になるときは、必ず取扱説明書をよく読み、機器が正常に動作することを確認してからご使用ください。



- カフは皮膚に密着させてください。巻き方が緩いと、加圧した際にカフが膨らみ、カフと使用部位との接触面が狭くなることで締め付けの痛みが強くなる場合があります。
- 動きやすく、滑りにくい服装で使用してください。
- ポケットの中は空にし、動きを妨げたり屈伸時に身体にぶつかるようなベルト類は外してください。
- 髪の長い方は、髪の毛をまとめてから使用してください。
- 使用時は床を傷つけないため、本体の下に布などを敷いて行ってください。トレーニングの際は、マットなどを敷いて行ってください。
- 周囲に人がいないことを確認して使用してください。事故やけがの原因になります。
- トレーニングは安全な場所で行ってください。階段や車の通る場所でのトレーニングは、危険ですので行わないでください。
- トレーニングの際は、周囲最低1.5m四方には何も無いことを確認してください。トレーニング中は常に周りに注意し、安全な状態で行ってください。
- ご使用前の準備運動、およびご使用後の整理運動を行い、トレーニングはゆっくり行ってください。
- 徐々に身体を慣らすように心がけ、急激に運動量を増やすことは避けてください。
- 過度なトレーニングは避けてください。
- 自然な呼吸を心がけ、トレーニング中に息を止めないでください。
- トレーニングの内容は、年齢、体力、目的などを考慮して、無理のない範囲で行ってください。
- 器具は常に清潔に保ってください。使用後は本体についた汗、ほこり、もしくはその他の汚れを清潔なやわらかい布でふき取り、湿気の少ないところに保管してください。本体に異物が付着したまま使用すると故障およびけがの原因となります。
- 廃棄する場合は、お住まいの地域の行政、自治体の指示にしたがい適切な方法で廃棄してください。
- 他の人に譲渡、貸与するときは、本体とともに取扱説明書を必ずお渡ししてください。



- RICモードで使用する場合、圧を高くし、血流を完全に止めた状態で行ってください。
低い圧で行う、あるいは途中で圧を下げると、血流が完全に止められず腕・脚に血液がたまり、血管の弱いところが破れて内出血する危険性が高くなります。
- RICモードで使用する場合、はじめは短い時間(30秒~1分程度)で行い、慣れてきたら時間を長くしてください。
片腕臥位ならいきなり5分OKですが、はじめから刺激を強くすると、けがのおそれがあります。特に、高齢者には十分注意して使用してください。
- RICモードで使用する場合、カフを巻いた部分の痛みが強くなっていくことがあります。我慢できない痛みを感じたら、強制終了ボタンを押して圧を完全に下げてください。
④ 圧を中途半端に下げることは絶対にやめてください。
通常、時間を空けて再度行うことで身体が慣れ、長く続けることができるようになります。
- トレーニングモードで使用する場合、はじめは低い圧(140~160mmHg)で行い、慣れてきたら圧を上げてください。はじめから刺激を強くすると、けがのおそれがあります。特に、高齢者や骨が弱いと思われる方は、十分注意して使用してください。
- 使用中急に痛みが出たり、痛みが強くなったりしたときはただちに「END」ボタンを押して、圧を完全に下げて中止し、同日は痛みが出た部位への使用を避けてください。決して圧を下げて継続して使用しないでください。
- 使用中に急に痛みが出た場合、肉ばなれを起こしている可能性があります。肉ばなれが起きたときには通常内出血するため、肉ばなれの状態でカフで圧迫したまま使用を続けると、大量に内出血することがあります。
使用中に突然の痛みなどが出たら、「END」ボタンを押して中止し、同日は痛みが出た部位への使用を避けてください。

RICを安全に進めるために



- まずは上肢のRICから始めましょう。
- 下肢の症状でも上肢のRICから始めましょう。
- 上肢のRICの方が当初から長い時間安濃です。
- RICの全身効果で下肢の症状も軽くなるはずですが。
- 下肢の症状が強くて当初から下肢に行いたい場合でも、上肢のRICを併用してください。
- ただし上肢と下肢を同時に行ってはいけません。

〈上肢のRIC〉



- 上肢のRICは「臥位」で行う方が安全です。
- 片上肢のRICを「臥位」で行うときは、いきなり5分で始めても良いです。
(心筋梗塞の急性期の患者さんに対して行ったRICの実験では、片上肢に「臥位」で5分5セットでした)
- ただし、いきなり5分は刺激が強いので、気を付けて行ってください。
- 片上肢のRICを「座位」で行うときは、2分程度から始めてください。
- 両上肢のRICは、必ず「臥位」で行い、2分程度から始めてください。
- 慣れてきたら時間を徐々に(30秒か1分)長くしてください(最長5分)。
- オルタネート機能を使用するなら、両上肢でも片上肢と同じように行えます。
- インターバル時間はRIC時間の半分以上としてください。

〈下肢のRIC〉



- 下肢のRICは迷走神経反射などに特に注意してください。
- 上肢のRICも「臥位」で行う方が安全です。
- 「座位」なら「片下肢」で1分以内から始めてください。
- 「座位」で「両下肢」を行うことは避けてください。
- 「臥位」なら「両下肢」を行ってもよいですが、2分以内から始めてください。
- 「臥位」で「片下肢」なら3分程度以内から始めても良いです。
- 慣れてきたら時間を徐々に(30秒か1分)長くしてください(最長5分)。
- オルタネート機能を使用するなら、両下肢でも片下肢と同じように行えます。
- インターバル時間はRIC時間の半分以上としてください。

はじめに

MCCIVには、RICモード(リックオート・リックマニュアル・リックマニュアルオルタネート)と、トレーニングモード(リックオートトレーニング2・MCトレーニング・マルチカフアジャスト)の6つのプログラムがあります。

RICとは

RICとは、局所的虚血操作(Regional Ischemic Conditioning)と遠隔的虚血操作(Remote Ischemic Conditioning)のことです。

虚血とは、血管の血流を一時的に止めることです。

“局所的虚血操作”とは、ある血管の血流を一時的に止めて開放することで、血流を止めた箇所の血管の血流が改善することを言います。

“遠隔的虚血操作”とは、ある血管の血流を一時的に止めて開放することで、その血管だけでなく、身体全体の血管の血流が改善することを言います。

MCCIVのRICモードでは、自動的に虚血の操作を行うことができます。

MCトレーニングとは

筋肉は、遅筋(ちきん)と速筋(そつきん)の2種類の筋繊維が混ざり合って構成されています。

“遅筋”は、大きな力は発揮できませんが、マラソンなど長い時間運動を続ける際に活躍します。主に有酸素運動時に活動し、遅筋が活動するためには酸素を必要とします。

“速筋”は、瞬間的に大きな力を出す瞬発性に優れた筋肉です。ダッシュや重たいものを持つ、転びそうになって手や脚でバランスを整えるときなど、いざと言うときに力を発揮する筋肉です。普段の生活の中ではあまり使われることはありません。

速筋を鍛えることで、転びにくくなる、下半身が強くなる、筋肉を大きくできるなどの効果があります。

速筋を鍛えるためには、高い負荷でのトレーニングが必要です。また、低酸素状態であれば遅筋の活動は少なく、速筋の活動が多くなります。

MCトレーニングでは、速筋を効率的にトレーニングするために、筋肉を直接圧迫して血流を制限します。幅の狭い複数のカフを平行に連ねて巻くことで、筋肉を均等な強さで圧迫し、早期に確実に筋肉内を低酸素状態にすることが可能です。筋肉を加圧し、低酸素状態にすることで、高い負荷をかけずに速筋のトレーニングを行うことができます。

6つのプログラム

RIC-CUFF

RIC-AUTO リックオート

センサーカフにて脈動を管理することで、駆血できる最小圧力に駆血カフを維持しながら駆血・除圧を設定した時間・回数を行う。

RIC-MAN リックマニュアル

駆血圧力を設定圧力に維持しながら駆血・除圧を設定した時間・回数を行う。

RIC-MAN-ALT リックマニュアルオルタネート

左右のカフを交互に駆血圧力を設定圧力に維持しながら駆血・除圧を設定した時間・回数を行う。

トレーニングカフ

RIC-AUTO-T リックオートトレーニング2

センサーカフにて脈動を管理しながら、駆血できる最小圧力を決定後、センサーカフを決定した駆血圧力まで上げた後、センサーカフ・駆血カフ共に決定した駆血圧力を維持しながら駆血・除圧を設定した時間・回数を行う。

MCT MCトレーニング

駆血圧力を設定圧力に維持し続ける。

Multi Cuff Adjust マルチカフアジャスト

セミナー向けプログラムです。(オプション)
詳細は、お買い上げの代理店または巻末の連絡先までお問い合わせください。

6つのプログラム

構成品

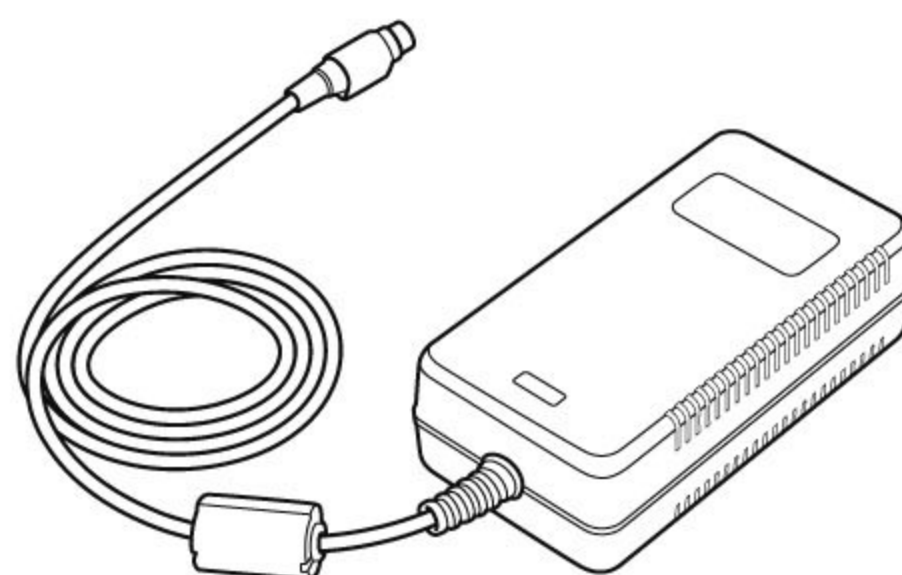
MCCIV 本体機器



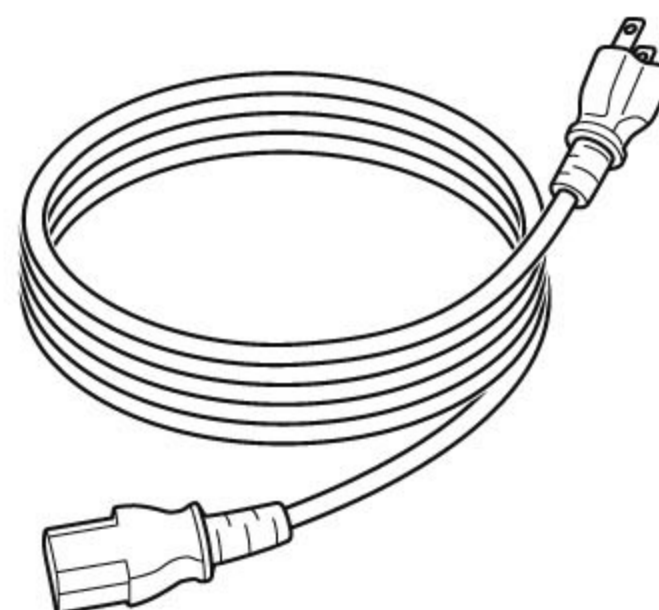
電源

●ACアダプター

AC100V-240V
1.4A MAX 50-60Hz

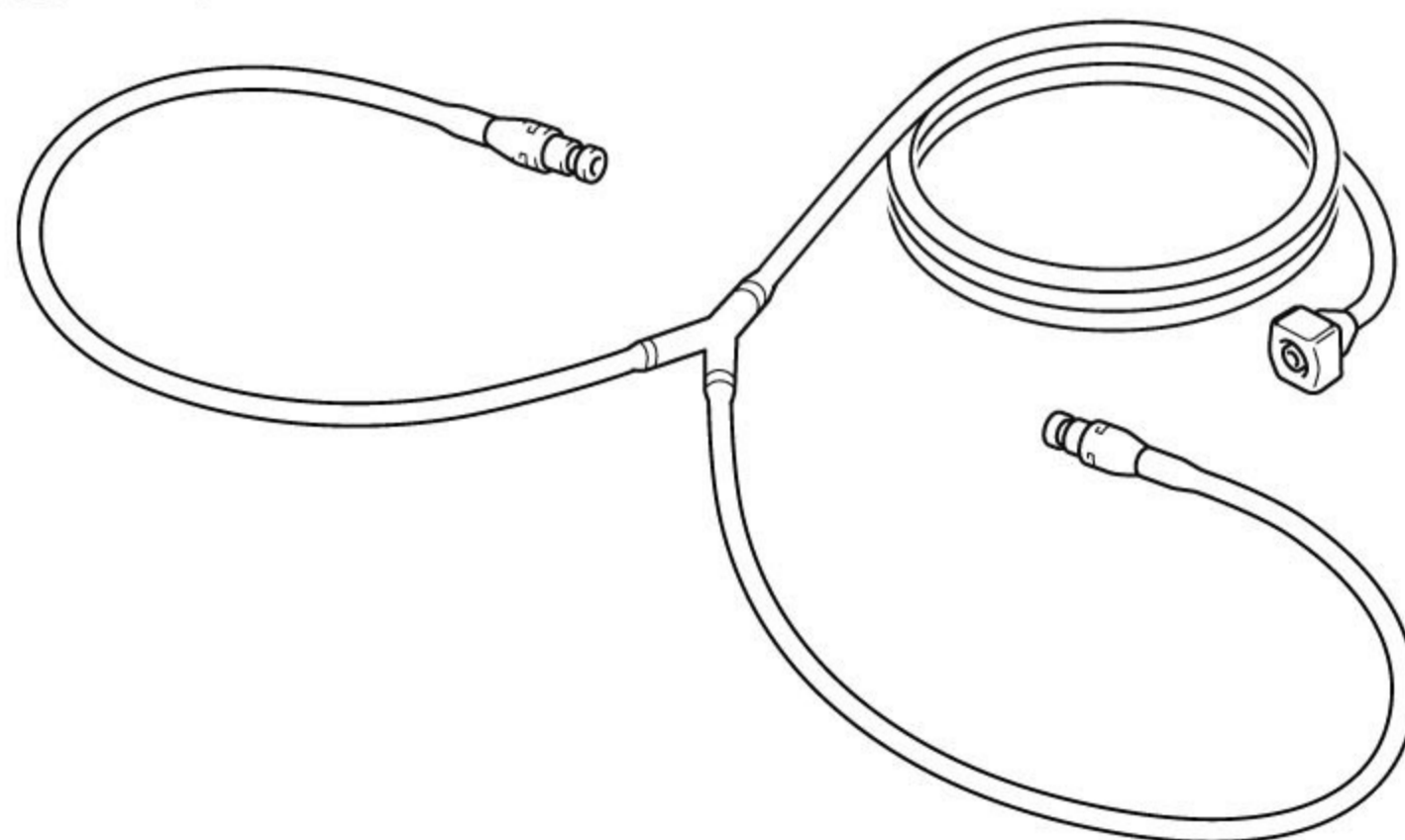


●電源コード



連結チューブ

- RIC/トレーニング用
チューブ(透明)×1本

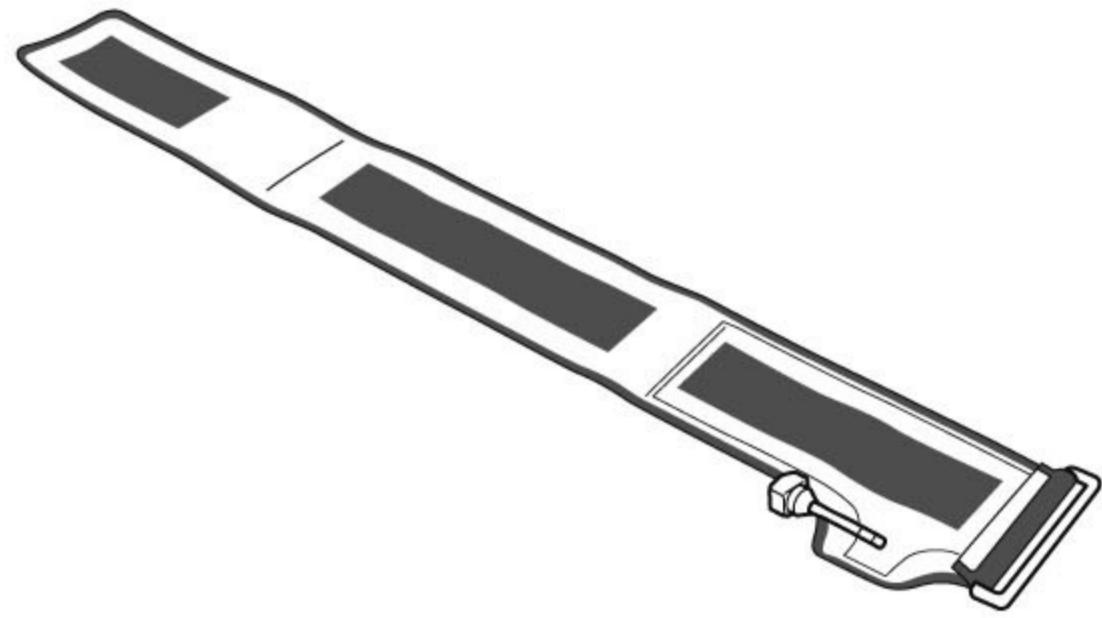


- センサー用チューブ(青)×1本



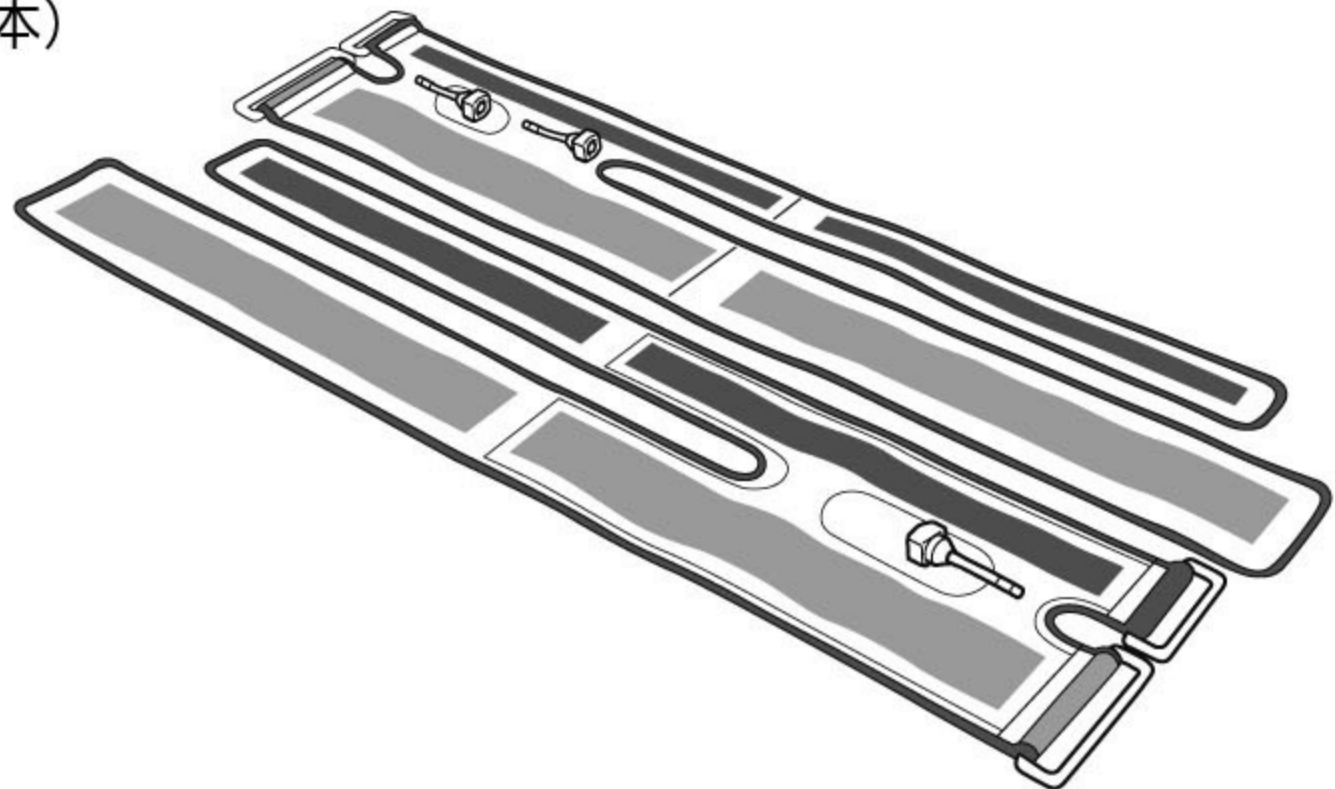
RIC用カフ

- うでRICカフ(1本)



- 脚用2連カフ L.R (2本)

※トレーニング用
カフとしても
使用できます。

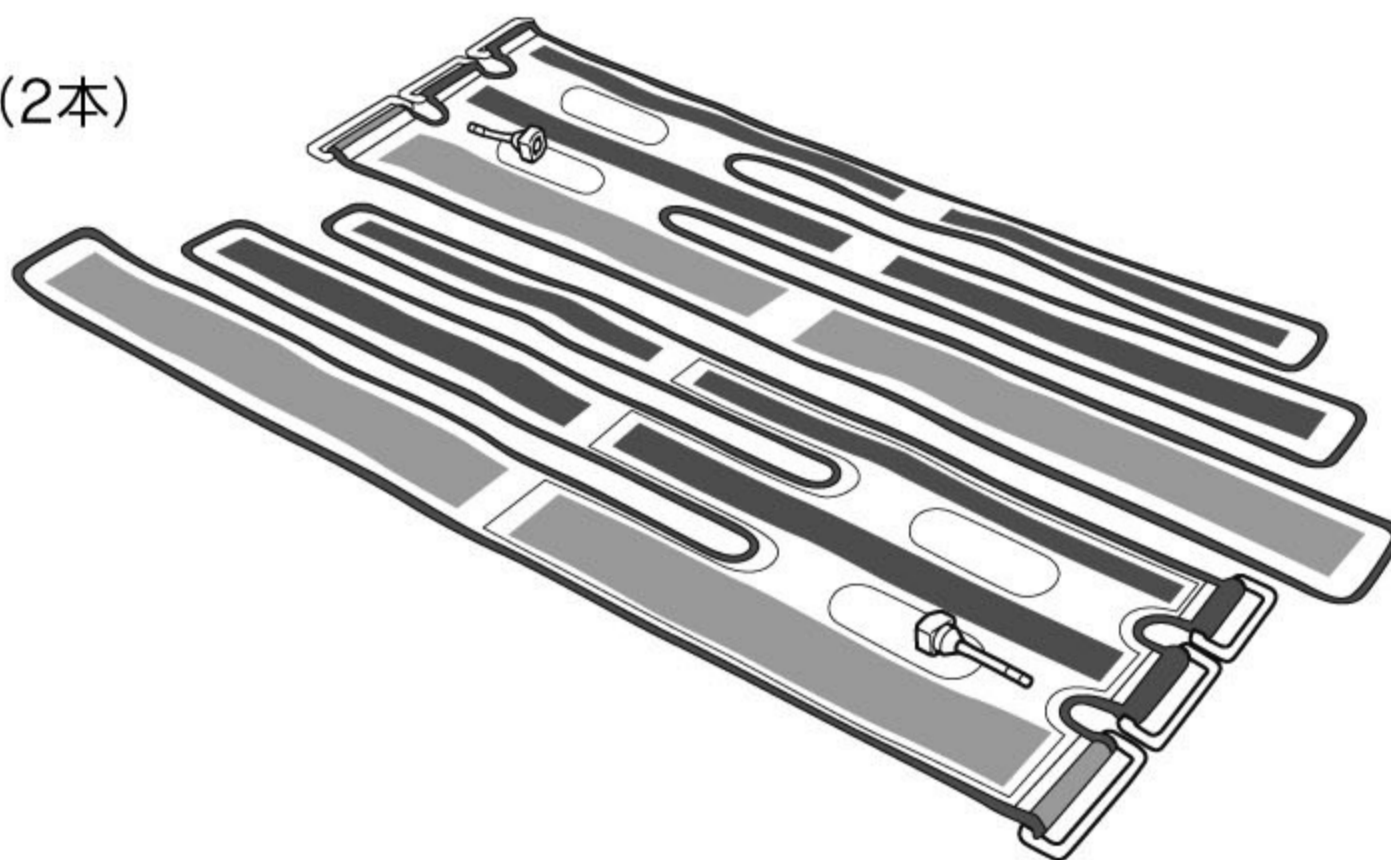


使用カフ一覧表 <モード・プログラム別>

RICモード	
・リックオート	脚用2連カフ L.R
・リックマニュアル	うでRICカフ
・リックマニュアルオルタネート	うでRICカフ /脚用3連カフ L.R / 脚用2連カフ L.R
トレーニングモード	
・リックオートトレーニング	脚用2連カフ L.R
・MCトレーニング ・マルチカフアジャスト	脚用3連カフ L.R / 脚用2連カフ L.R /うで用2連カフ

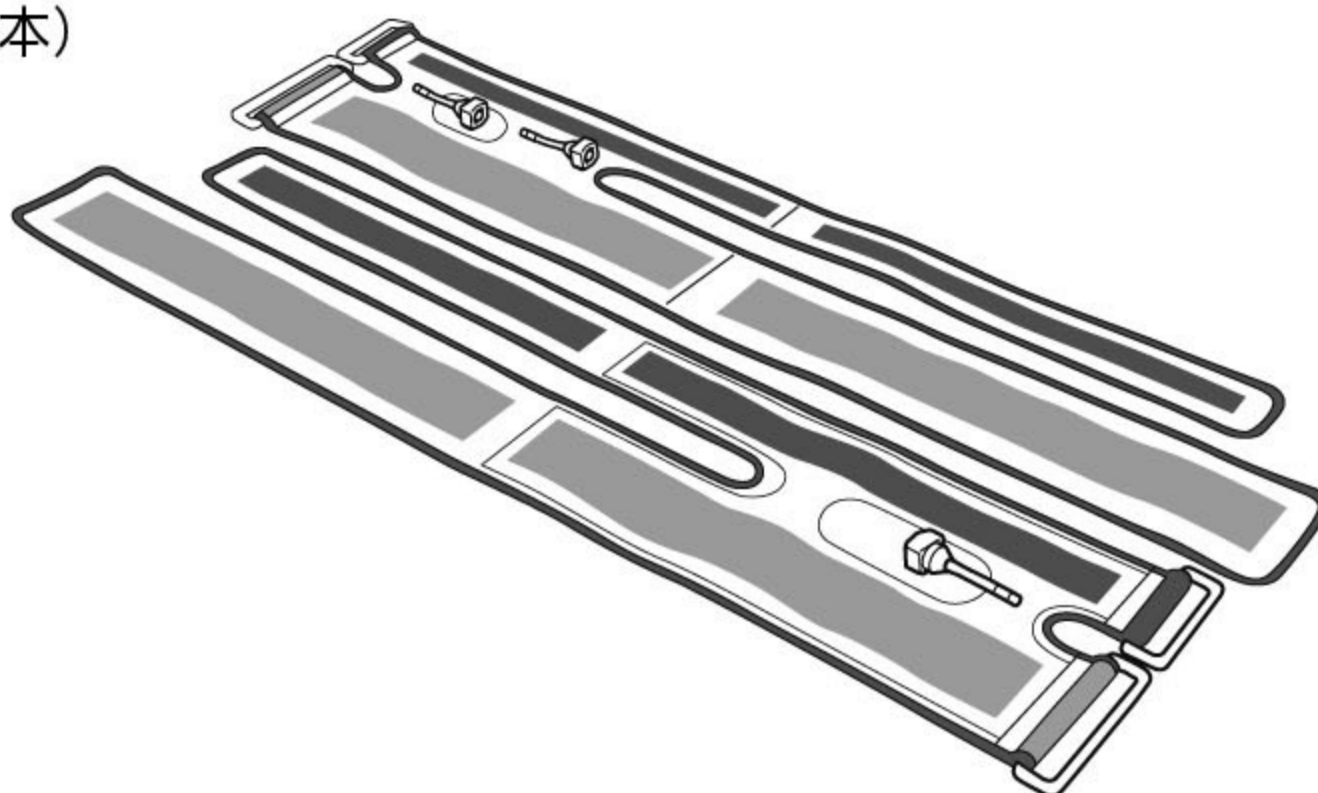
トレーニング用カフ

●脚用3連カフ L.R (2本)

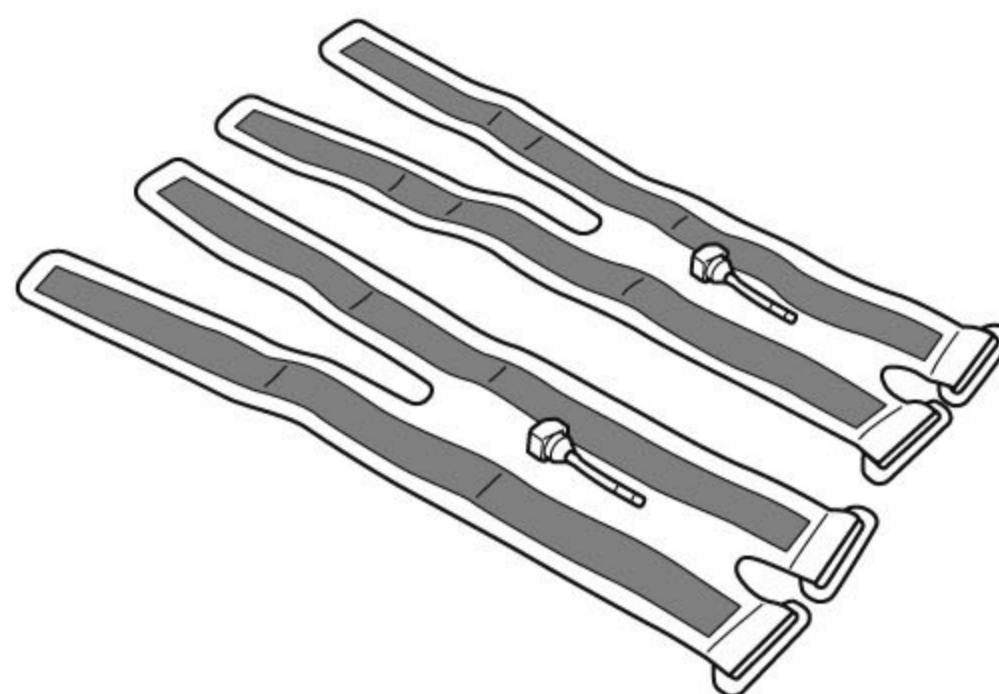


●脚用2連カフ L.R (2本)

※RIC用カフとしても
使用できます。



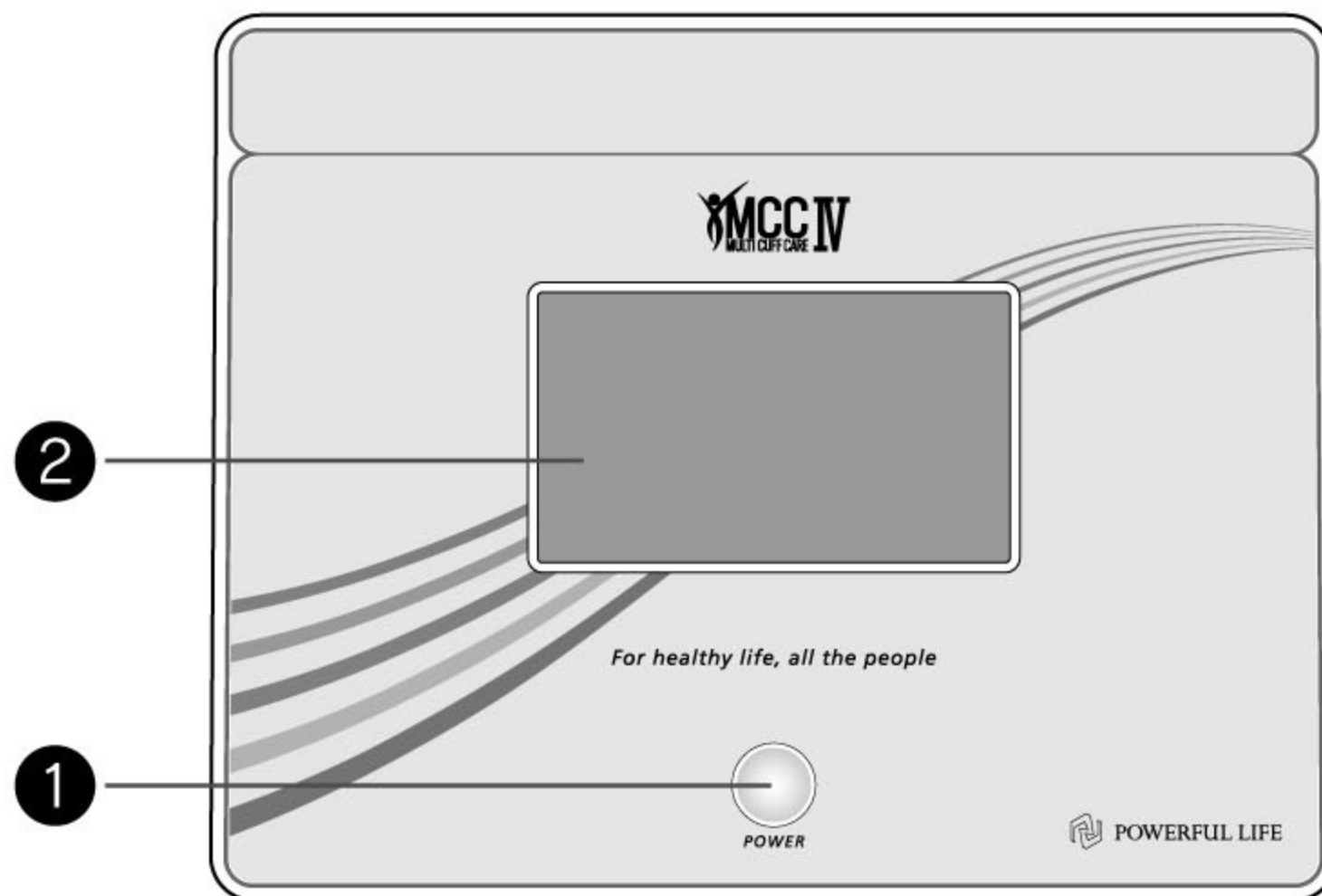
●うで用2連カフ (2本)



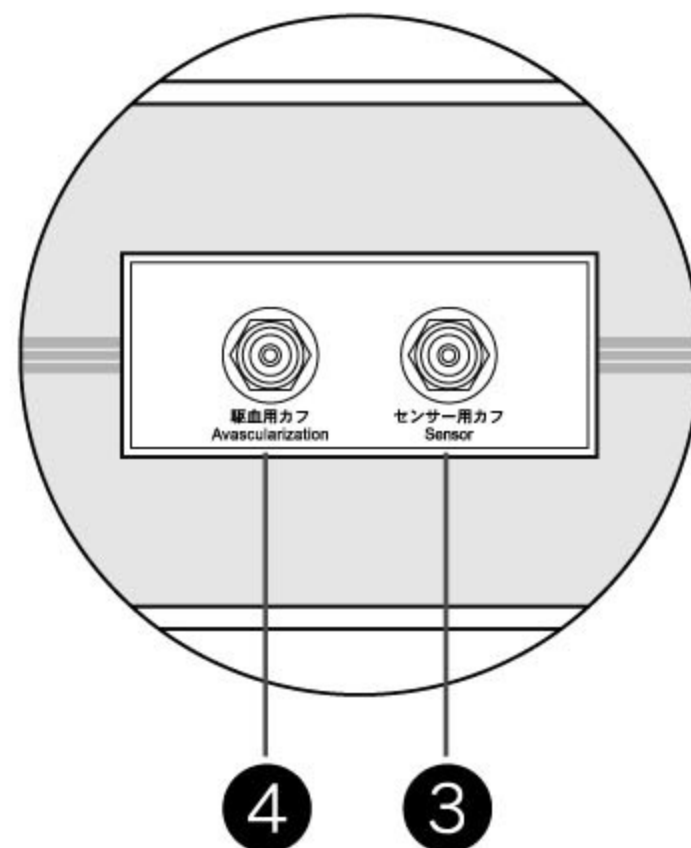
各部の名称とはたらき

本書では、次の名称を使用して説明します。

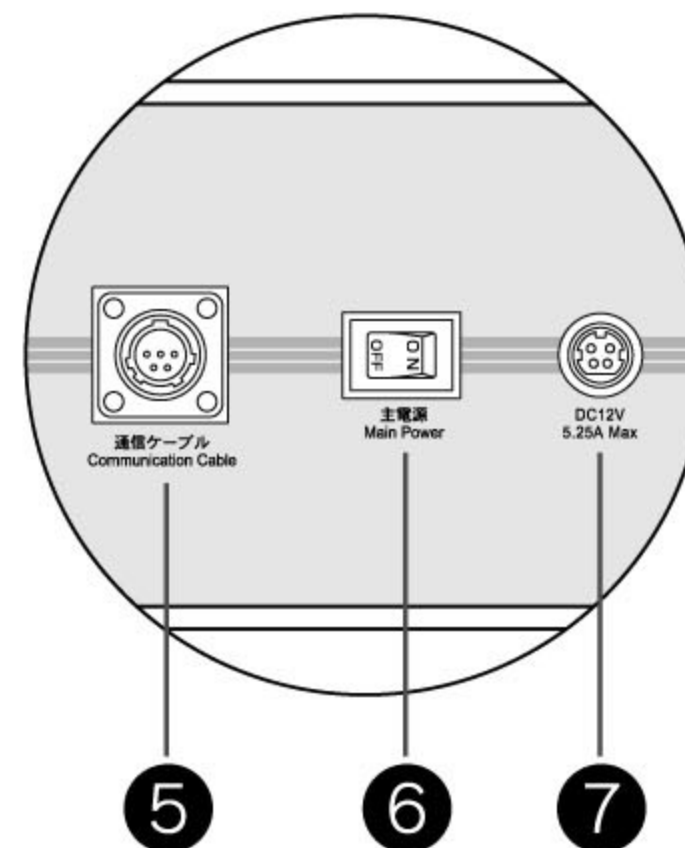
MCCIV 本体機器



〔本体右面〕



〔本体背面〕

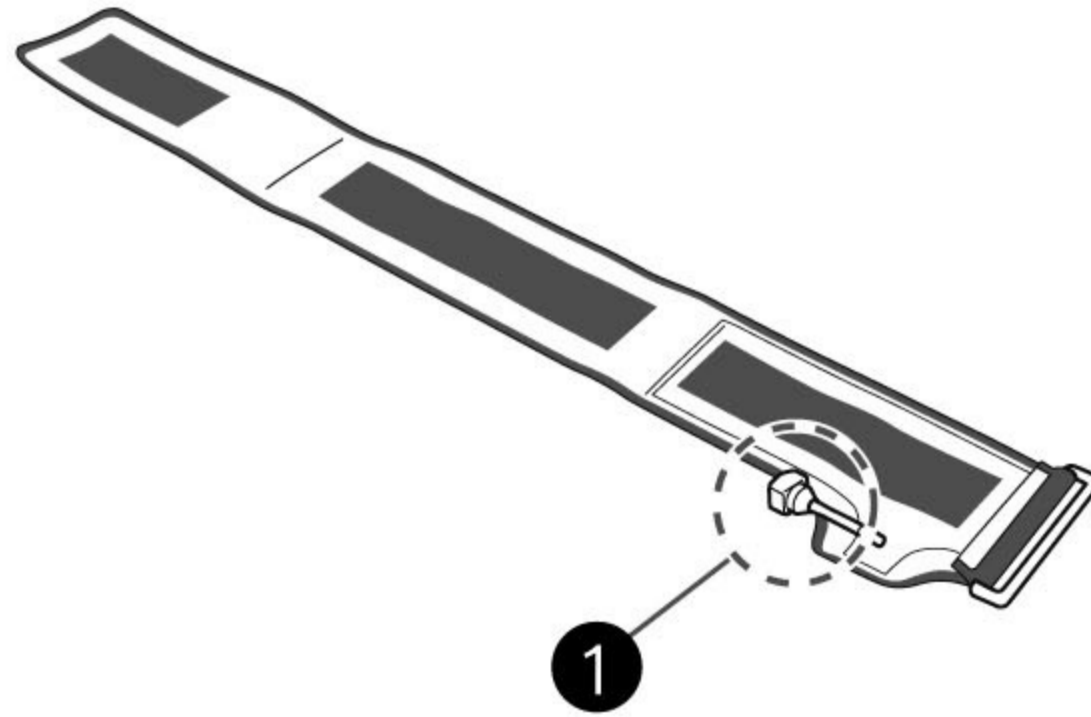


- ① 電源ボタン
- ② 操作画面
- ③ センサー用
チューブコネクタ

- ④ RIC／トレーニング用
チューブコネクタ
- ⑤ 通信ケーブル差し込み口
- ⑥ メインスイッチ
- ⑦ 電源差し込み口

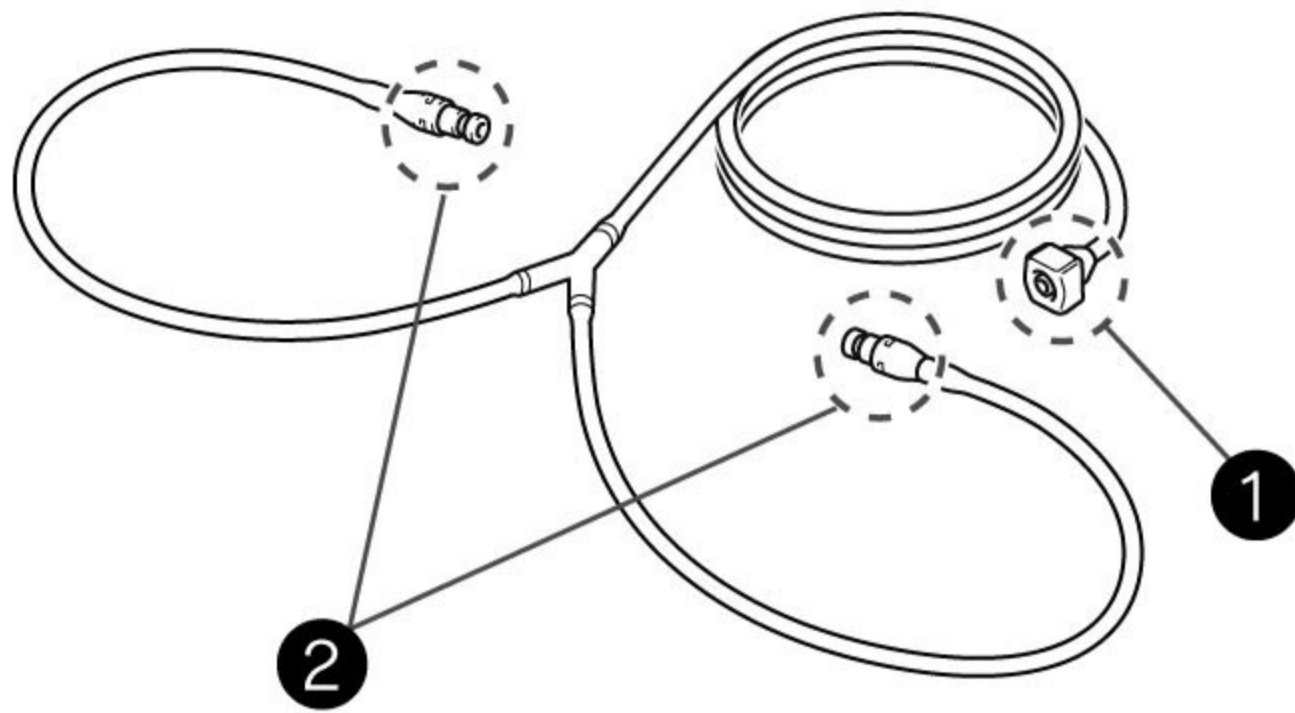
カフ

- ① チューブコネクタ



連結チューブ

- ① 本体側コネクタ
- ② カフ側コネクタ



各部の名称と
はたらき

操作画面

起動画面



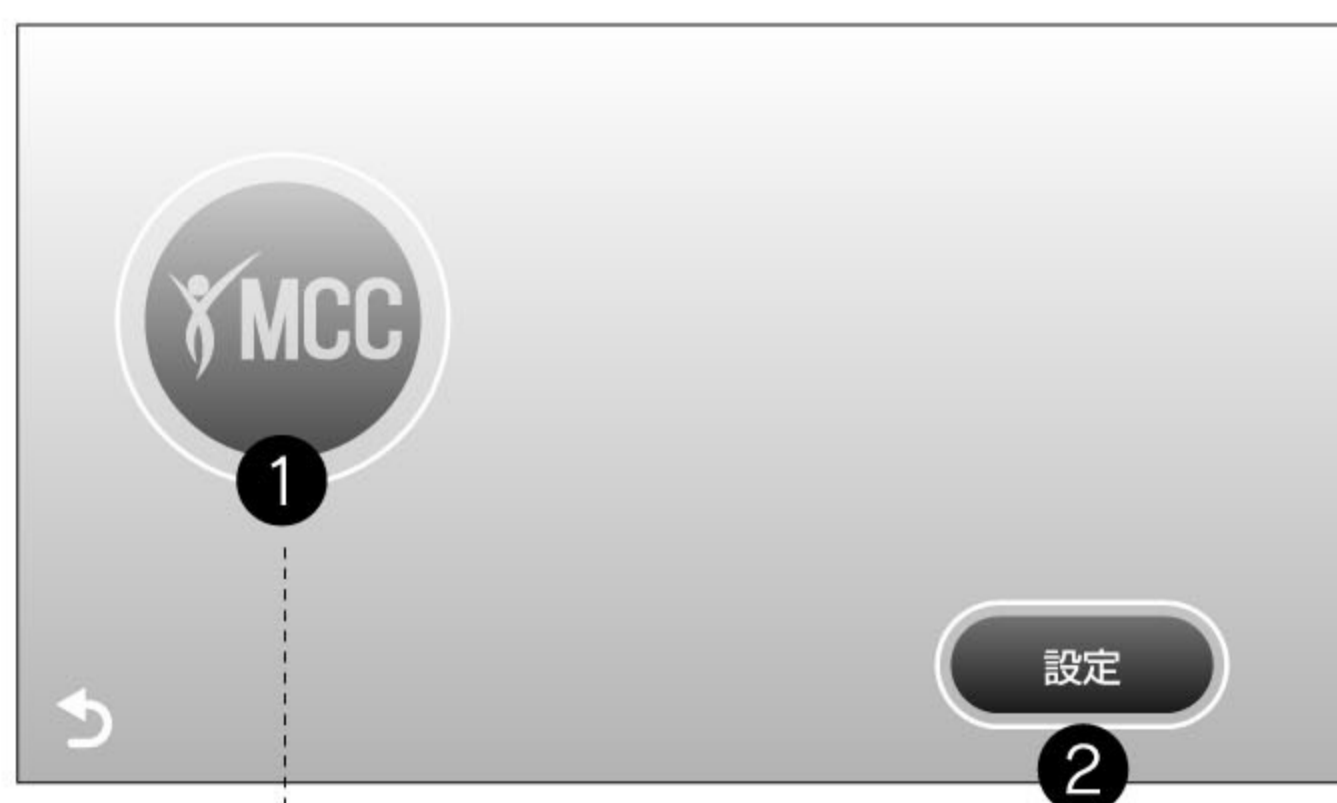
①「起動」ボタン

②「アプリ」ボタン

お手持ちのスマホ・タブレットでも画面の操作ができます。

※詳しい設定は別紙説明書を参照

メイン画面



①「MCC プログラム」ボタン

②「設定」ボタン



モード画面

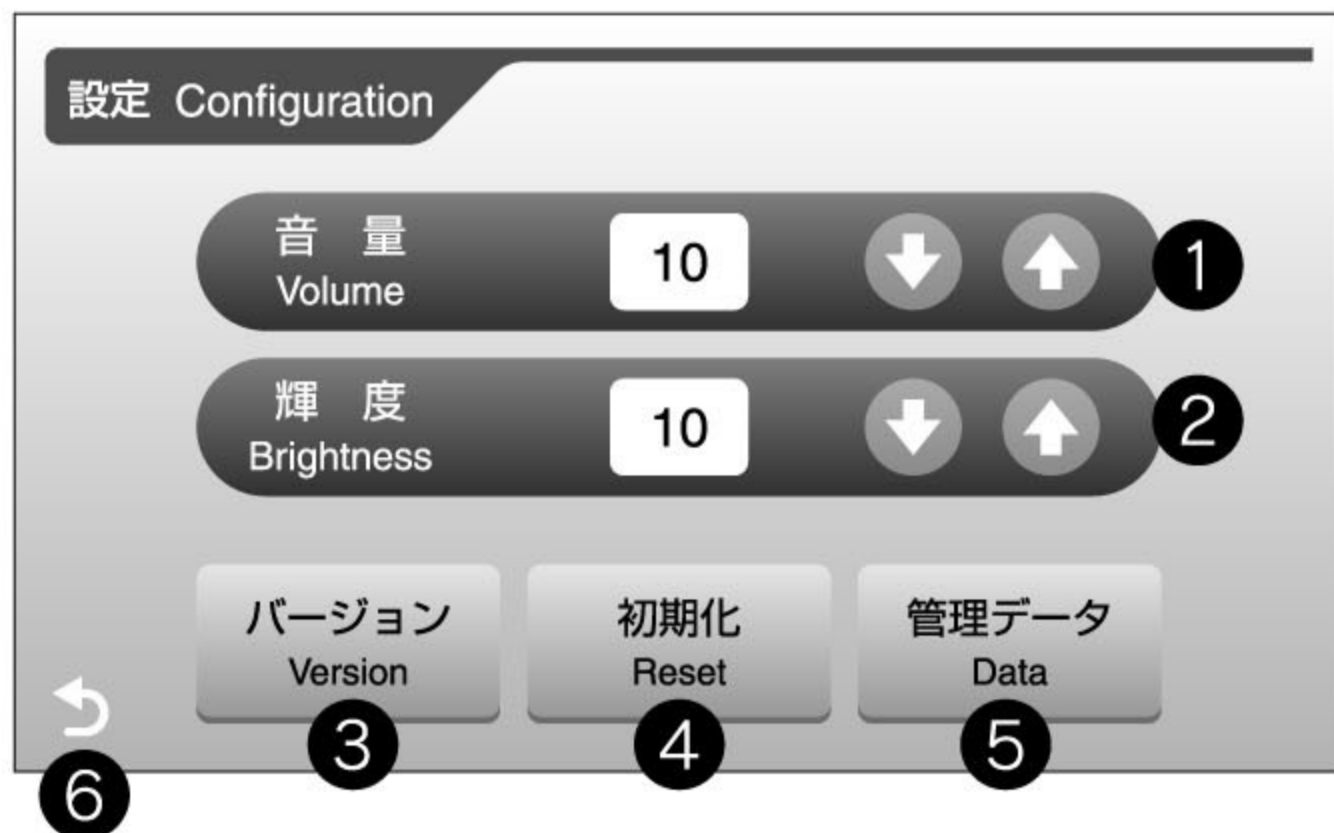
RIC/トレーニングの各モードが表示されます。
※前回使用したモードの設定になっています。




設定画面

音量・輝度・初期化・管理データの設定をします。

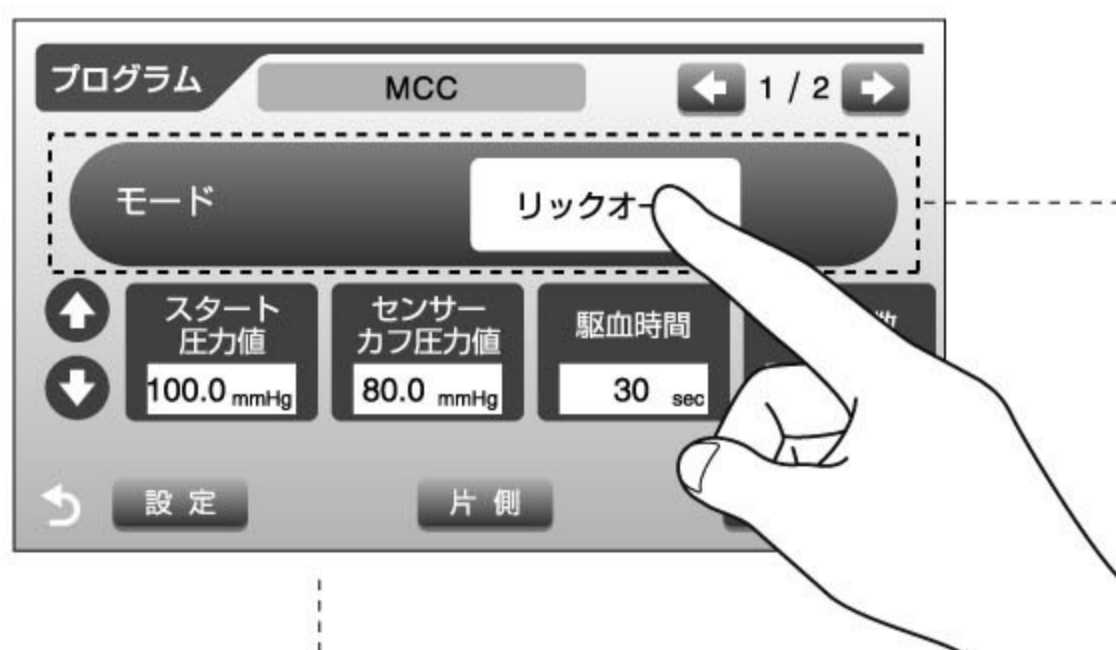
設定画面



- ① 動作音量：音量調整 0~10
0~10の範囲で音量が増減されます。
- ② 液晶画面の輝度：明るさ調整 0~10
0~10の範囲で輝度が増減されます。
- ③ 「バージョン」ボタン
「バージョン」画面に移行します。
- ④ 「初期化」ボタン
「初期化」画面に移行します。
操作は P26を参照
- ⑤ 「管理データ」ボタン
「管理データ」画面に移行します。
- ⑥ 「戻る」ボタン 
前の画面に戻ります。

モードを切り替えるには

モード画面



※モード画面は、前回使用したモードの設定になっています。必要に応じて、随時切り替えてください。

- 「モード」ボタン
「モード切り替え」画面に移行します。

モード切り替え画面



- ① 「リックオート」ボタン
操作は P31~P34を参照
- ② 「リックマニュアル」ボタン
操作は P40~P43を参照
- ③ 「リックマニュアルオルタネート」ボタン
操作は P46~P49を参照
- ④ 「リックオートトレーニング2」ボタン
操作は P50~P51を参照
- ⑤ 「MCトレーニング」ボタン
操作は P52~P55を参照
- ⑥ 「マルチカフアジャスト」ボタン
(オプション)

各モード画面の「設定」ボタンについて

例：「リックオート モード」の画面



- ① 動作音量：音量調整 0~10**
0~10の範囲で音量が増減されます。
- ② 液晶画面の輝度：明るさ調整 0~10**
0~10の範囲で輝度が増減されます。
- ③ 「音楽」ボタン**
「音楽」画面に移行します。
- ④ 「初期化」ボタン**
「初期化」画面に移行します。
- ⑤ 「メンテナンス」ボタン**
「メンテナンス」画面に移行します。
- ⑥ 「戻る」ボタン**
前の画面に戻ります。 



「音楽」ボタンを押すと
「音楽」画面に移行します。



1 ページ

「動作メロディ」 5曲
「終了メロディ」 8曲

2 ページ

「休止メロディ」 5曲
「カフロックメロディ」 8曲

設定画面 / 音楽



- ① 「戻る」ボタン
前の画面に
戻ります。
- ② 「音量」ボタン
音量設定画面に
移行します。
- ③ 「ページ前後」ボタン

「音量」ボタンを押すと、音量設定画面に移行します。



「操作音量」：0～10
「動作音量」：0～10
「終了音量」：0～10
「休止音量」：0～10
「カフロック音量」：0～10

各部の名称と
はたらき

初期化について

- ・製品の動きが悪い・不具合が起きた等には、初期化が有効です。

●システム自体の不具合の場合

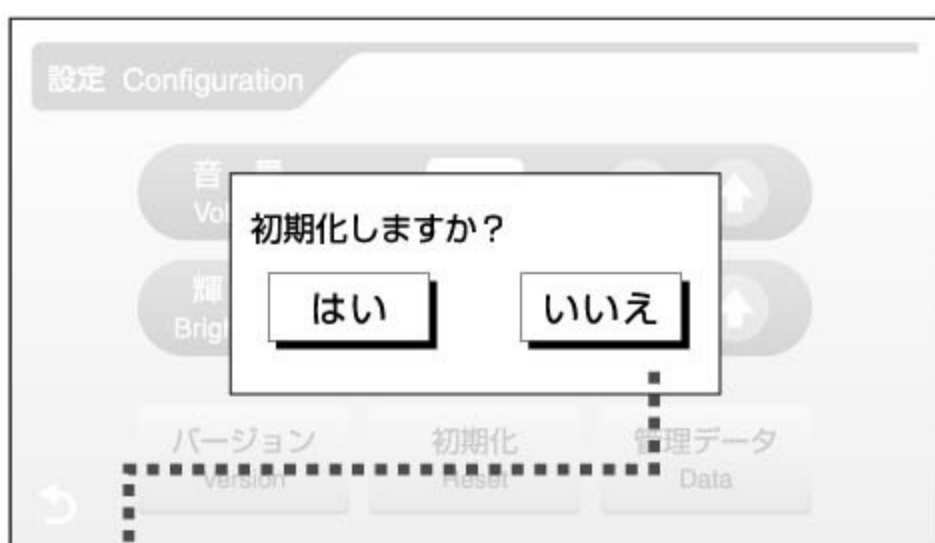
→ メイン画面の「設定ボタン」から移行

※こちらの初期化は注意が必要です。
必ずメーカーの指示にて行ってください。
(工場出荷状態に初期化されます。)



「初期化」ボタンを押すと
「初期化」画面に移行します。

設定画面／初期化



※こちらは「パスワード」は
ありません。



●プログラムの不具合の場合

→ モード画面の「設定ボタン」から移行

- ・MCCIV自体の調子(動き)が悪い
- ・ポンプの動きがおかしい…等



「初期化」ボタンを押すと
「初期化」画面に移行します。

設定画面／初期化



設オプションを解放されている方は、
パスワードのを入れないでくだ
さい。初期化に伴い全てのオプショ
ンがロックされてしまいます。



「初期化しました」の表示で初期化完了です。

RICモードで使用する

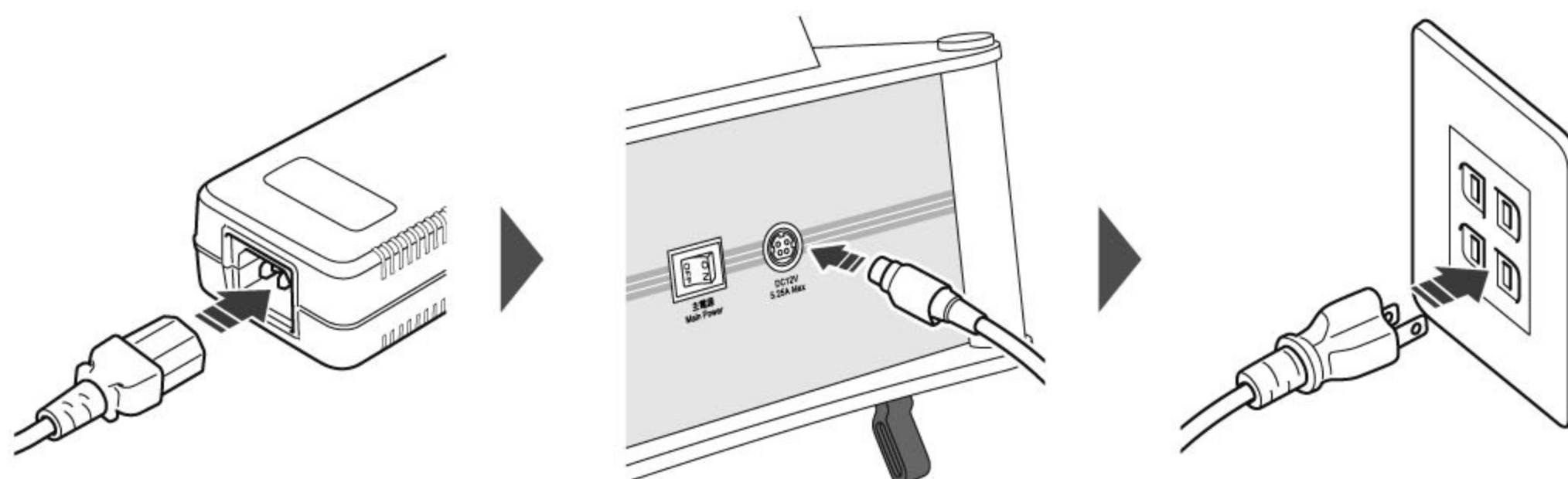
RICモードには、リックオート・リックマニュアル・リックマニュアルオルタネートの3つのプログラムがあります。

リックオートは[下肢]で、リックマニュアルは[上肢]で使用します。

下肢 リックオートモードで使用する

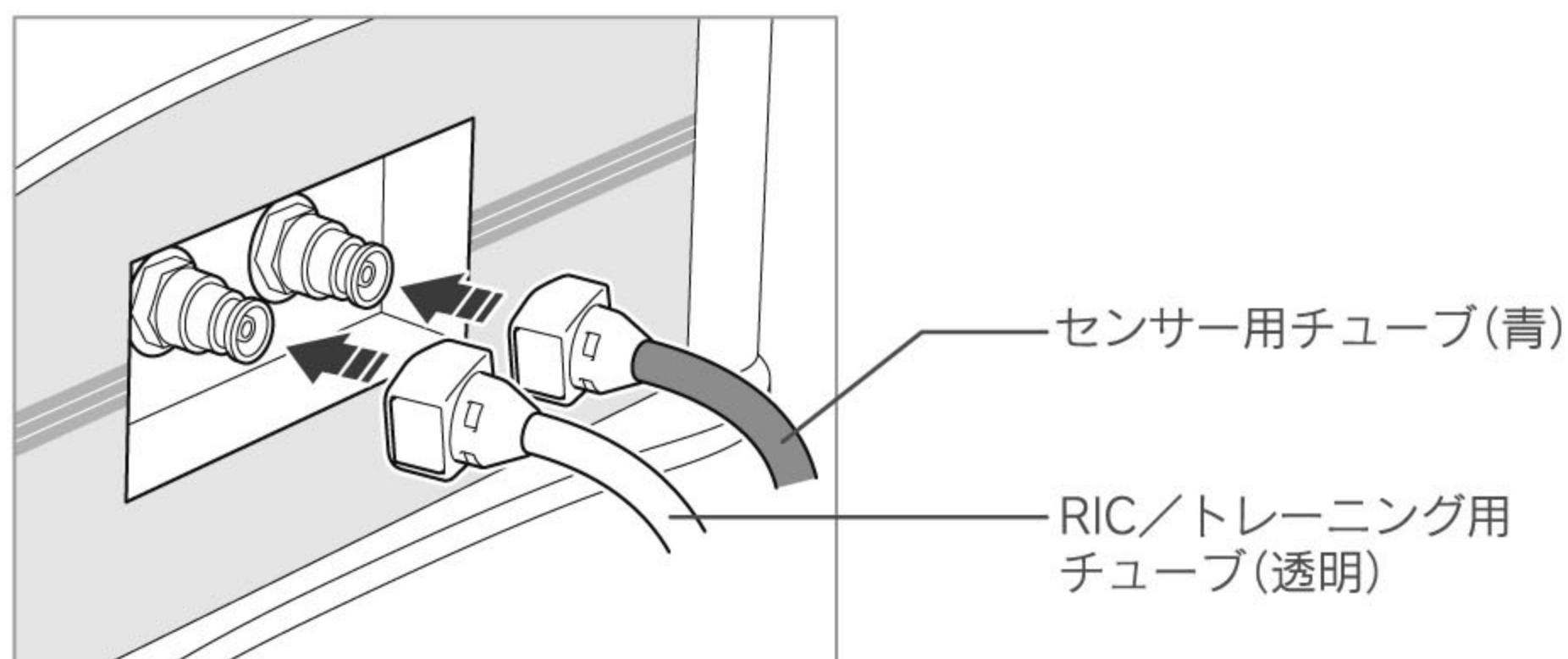
1

ACアダプターと電源コードをつなぐ
本体の電源差し込み口に電源プラグを差し込み、
電源コードをコンセントに差し込む



2

センサー用チューブ(青)を本体の
センサー用チューブコネクタに、
RIC/トレーニング用チューブ(透明)を本体の
RIC/トレーニング用チューブコネクタに差し込む



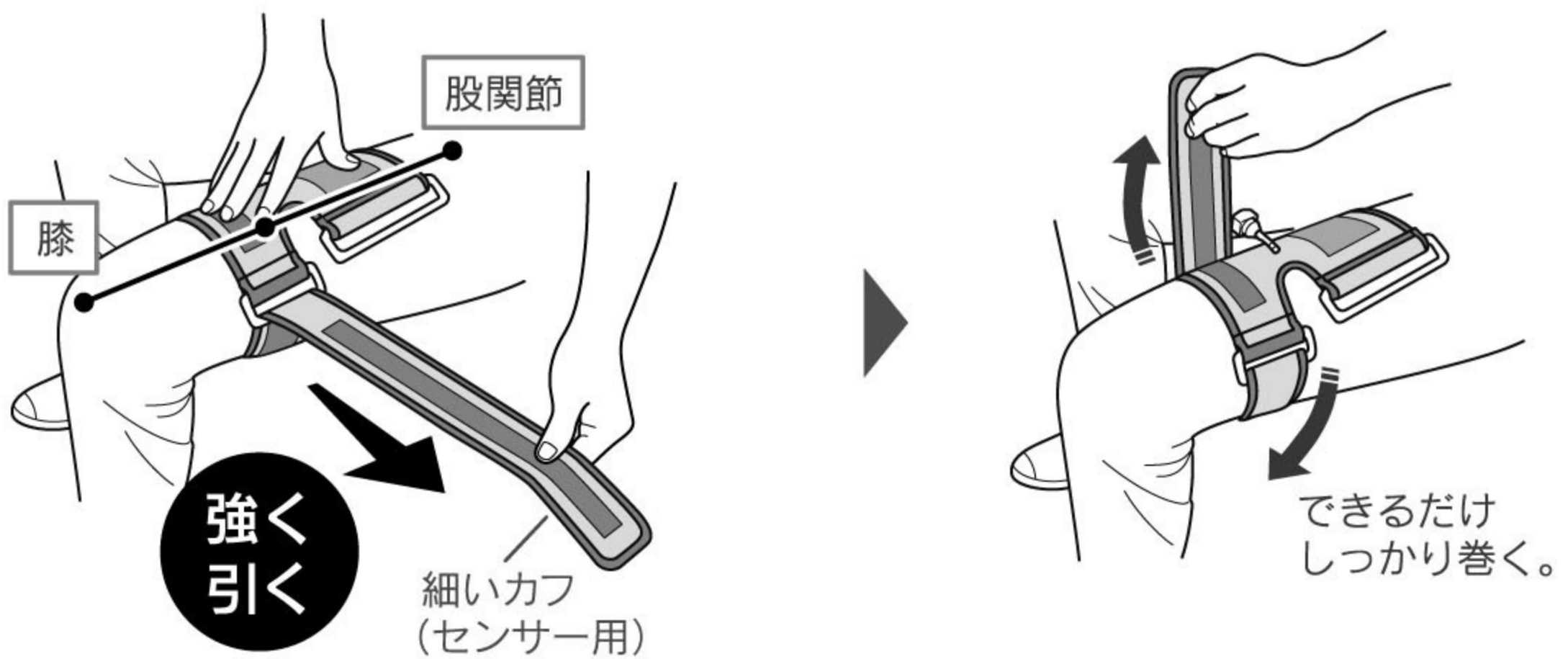
RIC時の脚用2連カフの巻き方

左足 センサーカフ付き(2気室)

3

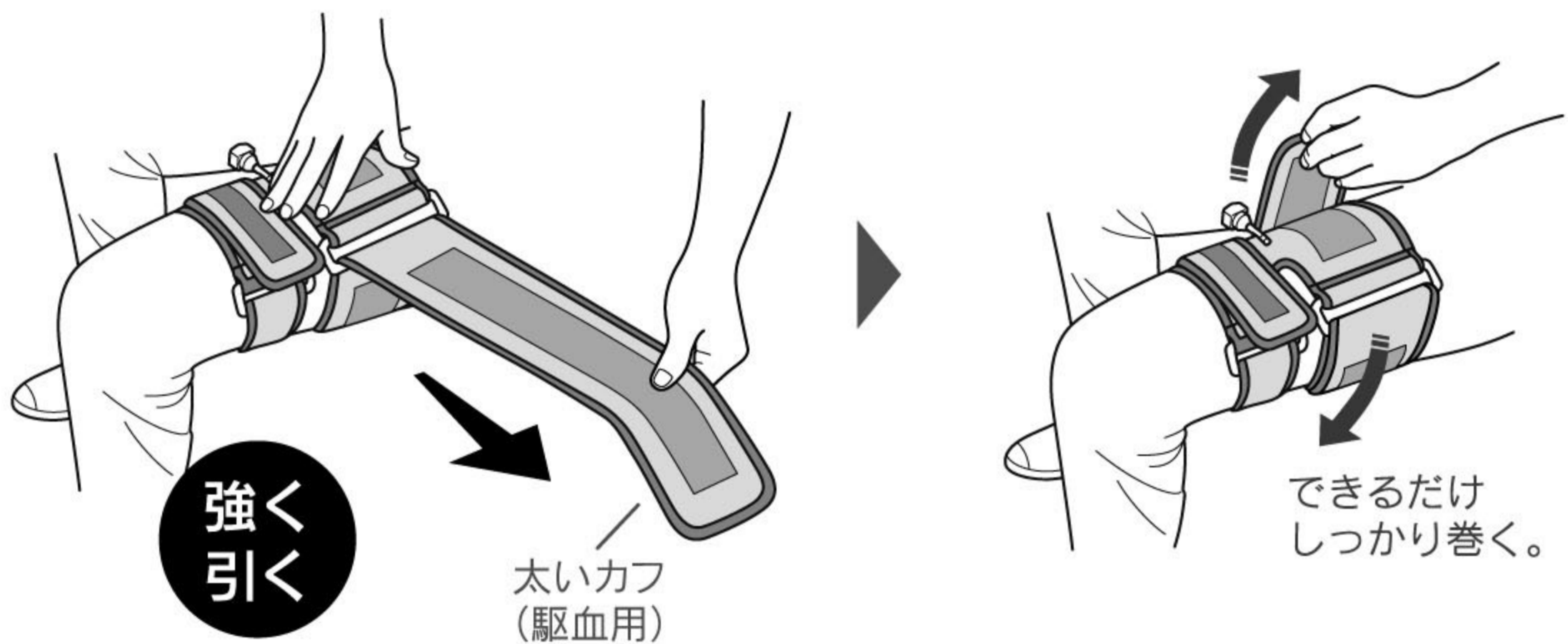
大腿部の中心に、細いカフ(センサー用)を合わせて巻く

(※大腿部の短い方は股関節側に寄せる。)
大腿部の外側から巻き始め、外側を押さえながら**強く引っ張る**。



4

太いカフ(駆血用)を外側を押さえながら**強く引っ張る**。



! 注意

素肌で使用しないでください。皮膚を挟んでけがをするおそれがあります。

RIC時の脚用2連カフの巻き方

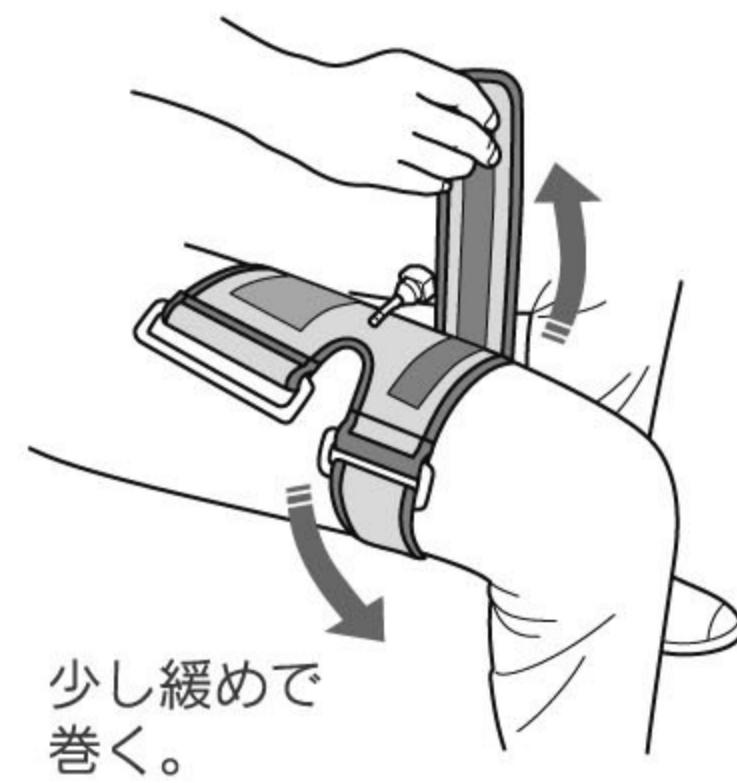
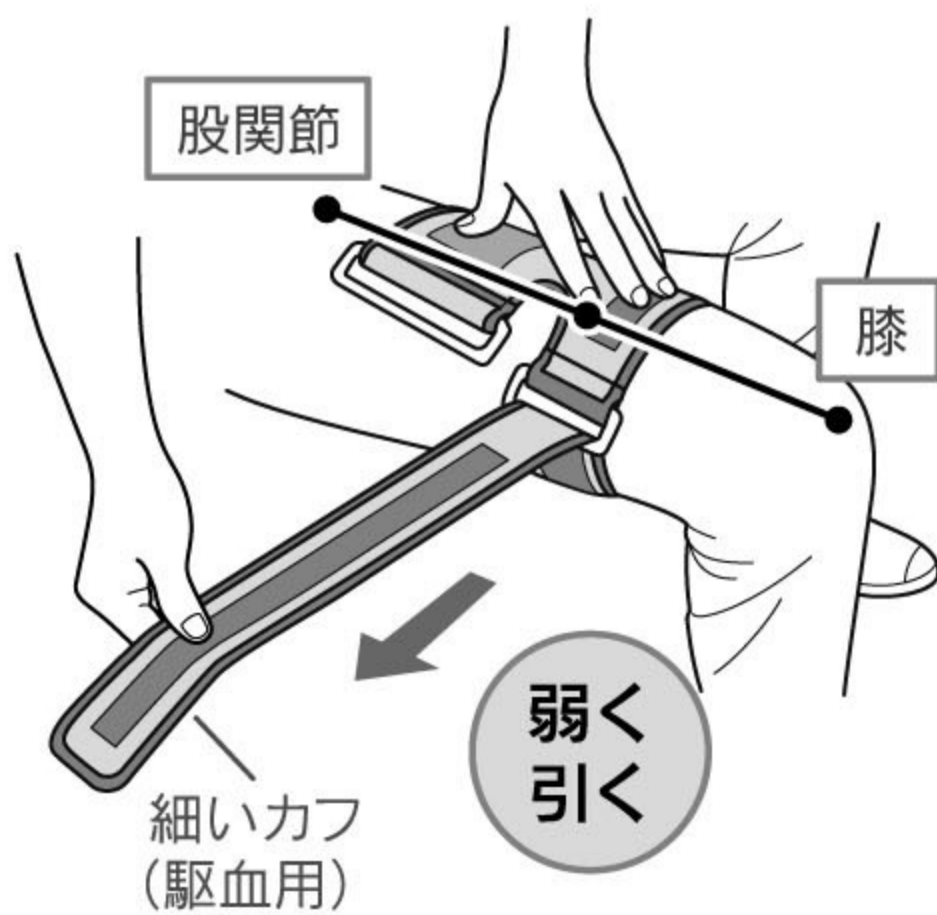
右足 センサーカフなし(1気室)

5

大腿部の中心に、細いカフ(駆血用)を合わせて巻く

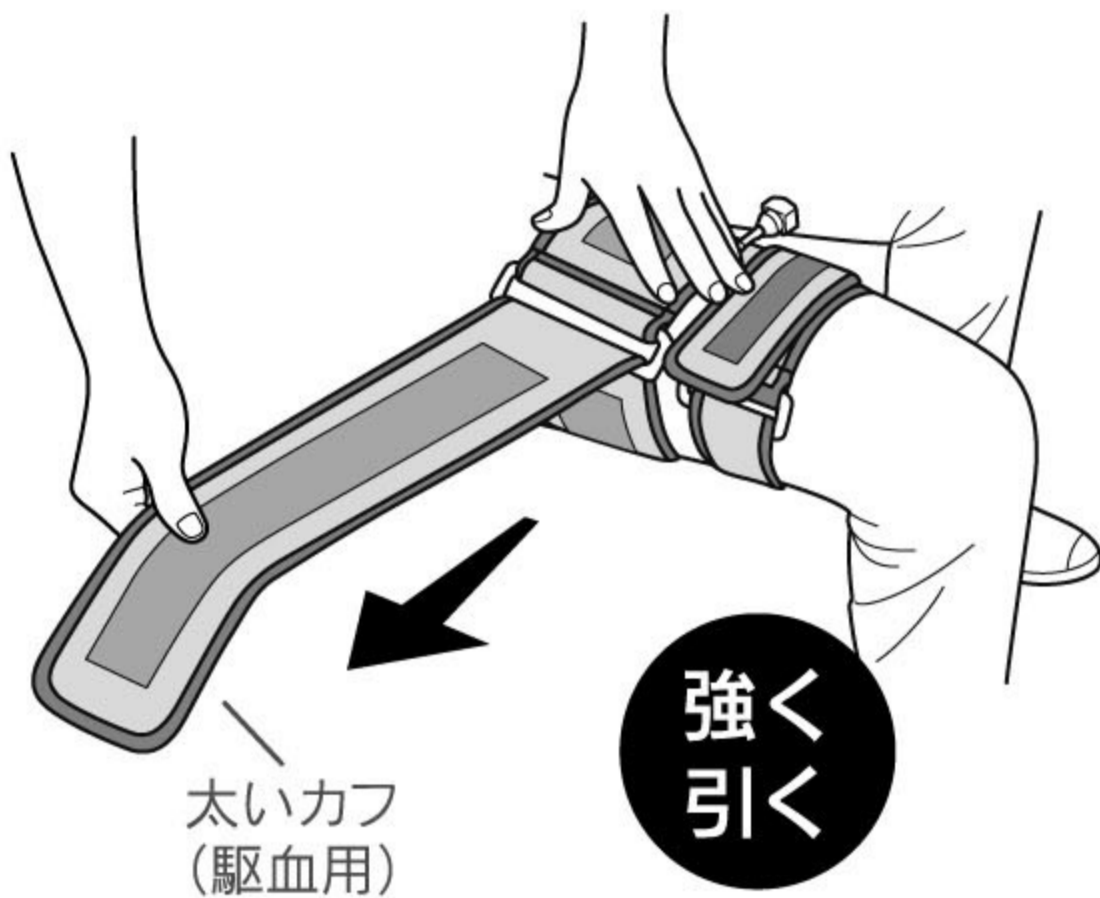
(※大腿部の短い方は股関節側に寄せる。)

大腿部の外側から巻き始め、外側を押さえながら**弱く引っ張る**。



6

太いカフ(駆血用)を外側を押さえながら**強く引っ張る**。



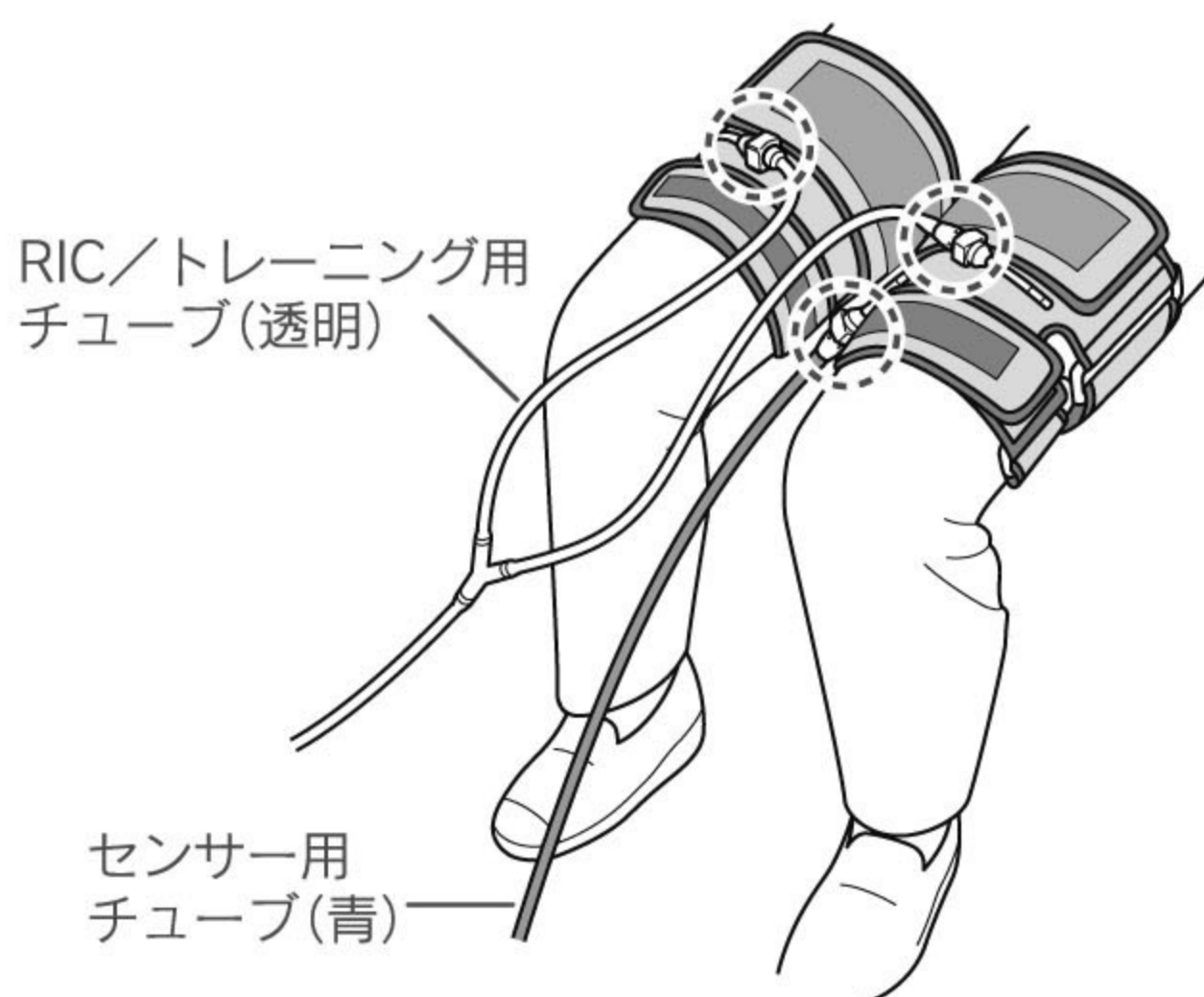
! 注意

素肌で使用しないでください。皮膚を挟んでけがを
おそれがあります。

RICモードで
使用する

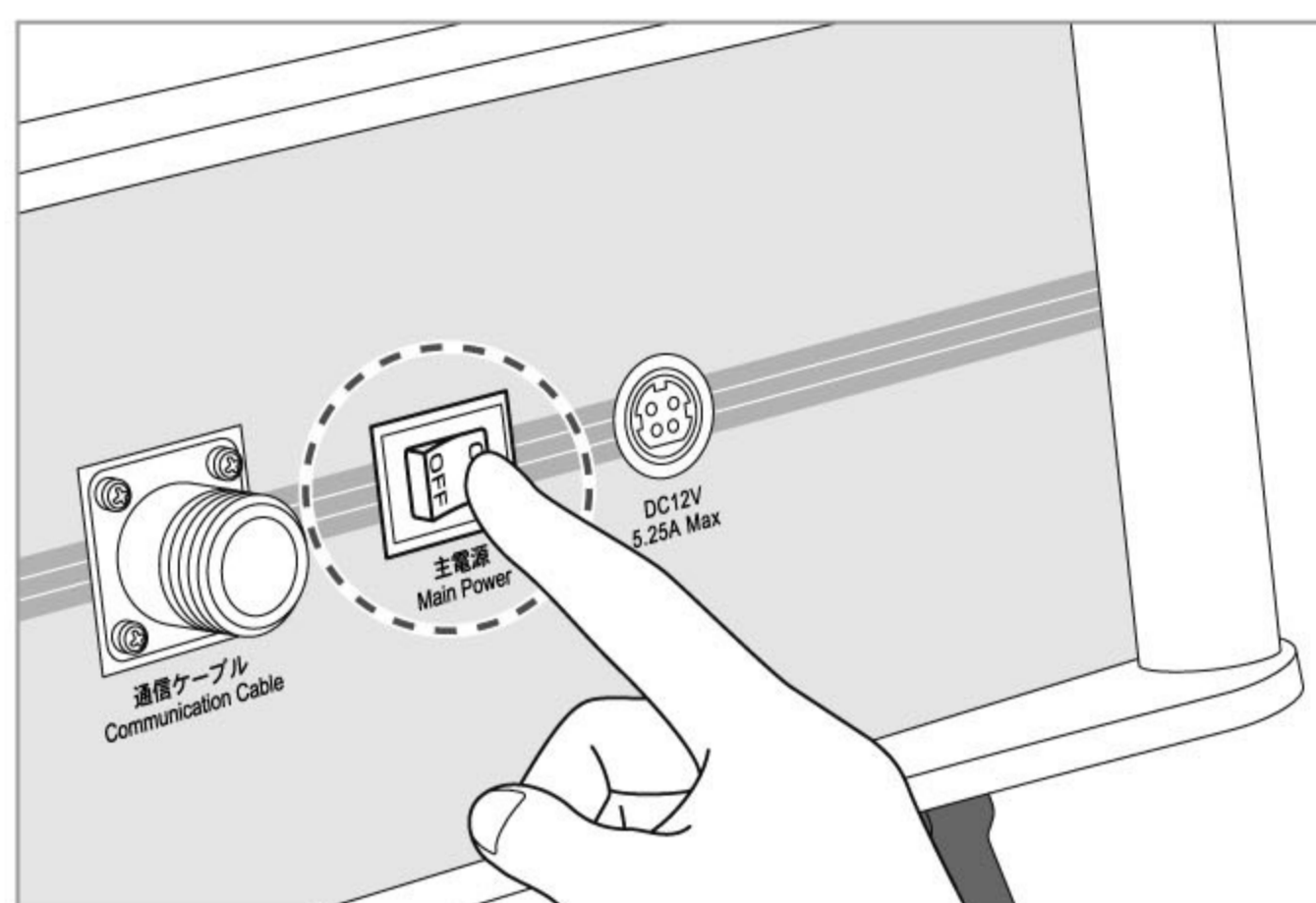
7

センサー用チューブ(青)を
センサー用のチューブコネクタに、
RIC/トレーニング用チューブ(透明)を
RIC/トレーニング用チューブコネクタに差し込む



8

メインスイッチをONにし、電源を入れる



9

メイン画面から「MCCプログラム」を選び
「モード画面」に移行したら「リックオート」を選ぶ

モードの切り替えは、(P23)を参照してください。

メイン画面



モード画面



10

リックオートの「値の設定画面」が表示されるので、
変更が必要な場合は設定を行う

変更したい設定項目の「数値変更ボタン」
↓ ↑
で設定値を変更してください。



- ① 「モード」ボタン
モード切り替え画面に
移行します。
- ② 「戻る」ボタン
前の画面に
戻ります。
- ③ 「設定」ボタン
設定画面に移行します。
- ④ 「両側/片側」ボタン
- ⑤ 「ページ前後」ボタン
- ⑥ 「START」ボタン

1
ページ
「スタート圧力値」：100～300mmHg
「センサーカフ圧力値」：80～150mmHg
「駆血時間」：30～600sec
「駆血回数」：1～20times

2
ページ
「除圧時間」：30～600sec
「圧力調整」：0～99mmHg
「駆血中継続センシング」：ON/OFF
「検圧」：ON/OFF

下肢 リックオートモードで使用する場合、以下の値を設定してください。

設定項目		設定値
両側／片側 Bilateral / Unilateral		両側または片側
「ページ前後ボタン」1	スタート圧力値 Start Pressure	250mmHg ※1
	センサーカフ圧力 Sens Cuff Pressure	100mmHg
	駆血時間 Press Time	120sec ※1
	駆血回数 Count	2～5times
「ページ前後ボタン」2	除圧時間 Sleep Time	30sec ※1
	圧力調整 Pressure adjustment	+50mmHg
	駆血中継続センシング Continuous observation	ON ※2
	検圧 Pressure inspection	OFF ※3

※1：対象者の状態に合わせて調整してください。

200mmHg以下にはしないでください。

※2：OFFにすると駆血できる最小圧力決定後にセンサーカフの機能を停止します。

※3：ONにすると加圧開始毎に駆血できる最小圧力を検圧します。

OFFにすると2回目以降は前回の終了時の圧力を継承します。



MEMO

設定の変更が不要な場合は、次の手順に進んでください。

11

「START」ボタンを押して加圧をスタートする



加圧がスタートすると下記画面に移行します

駆血カフ 設定値 を
「数値変更ボタン」
で変更すると
・ 駆血カフ 現状値
・ センサーカフ 設定値
・ センサーカフ 現状値
が連動して変更されます。



① 状態表示



② 「END」ボタン

加圧を中止する。



「音量」ボタンを押すと、音量設定画面に移行します。



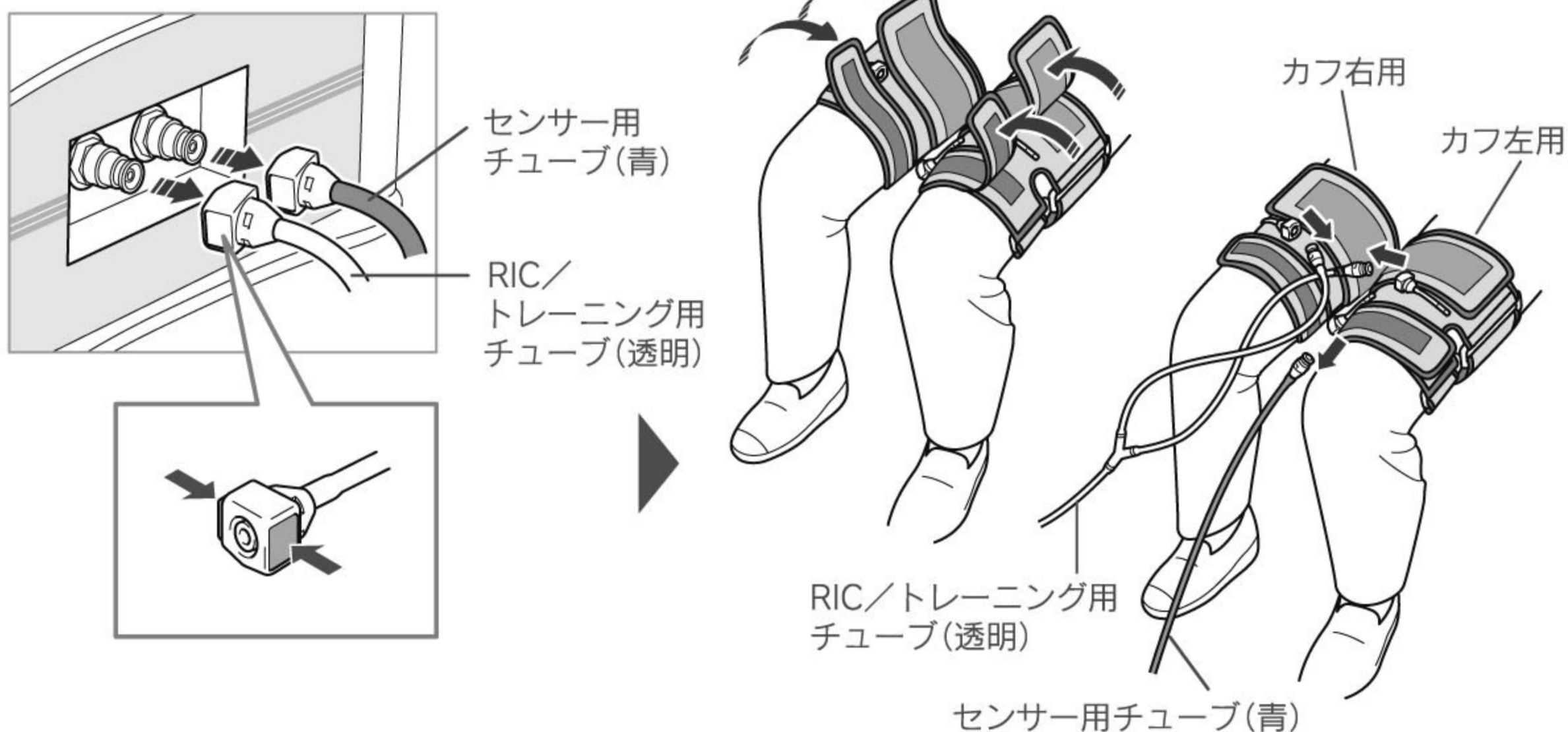
「操作音量」：0～10
「動作音量」：0～10
「終了音量」：0～10
「休止音量」：0～10
「カフロック音量」：0～10

⚠ 注意

- 加圧中はできる限り力を抜いてください。力が入っていると、センサーカフが拍動を感知せず誤作動してしまいます。
- 加圧中は、極力動かないようにしてください。動きをセンサーカフが感知すると、カフの圧力が上昇します。どうしても動いてしまうときは、「駆血中継続センシング」でOFFを選択してください。
- 加圧中は使用者が痛みを訴えた場合でも、絶対に圧を下げないでください。加圧中に体調の不良や痛みを感じたときは、「END」ボタンを押して圧を完全に下げてください。

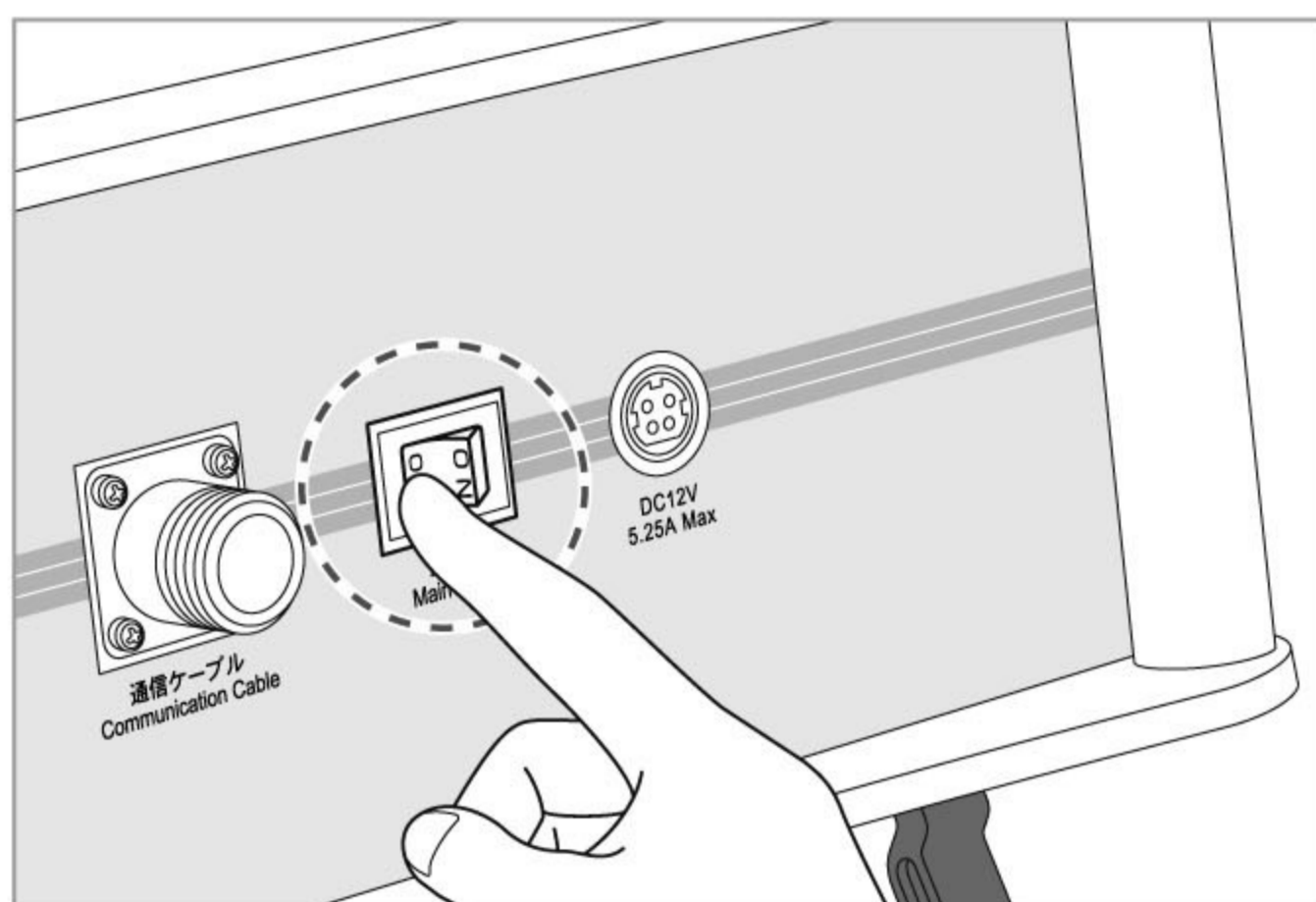
12

加圧が終了したらカフを外し、
カフ側と本体側のチューブコネクタからチューブを抜く
チューブはカプラソケットの青色の箇所を押しながら抜いてください。



13

メインスイッチをOFFにし、電源を切る



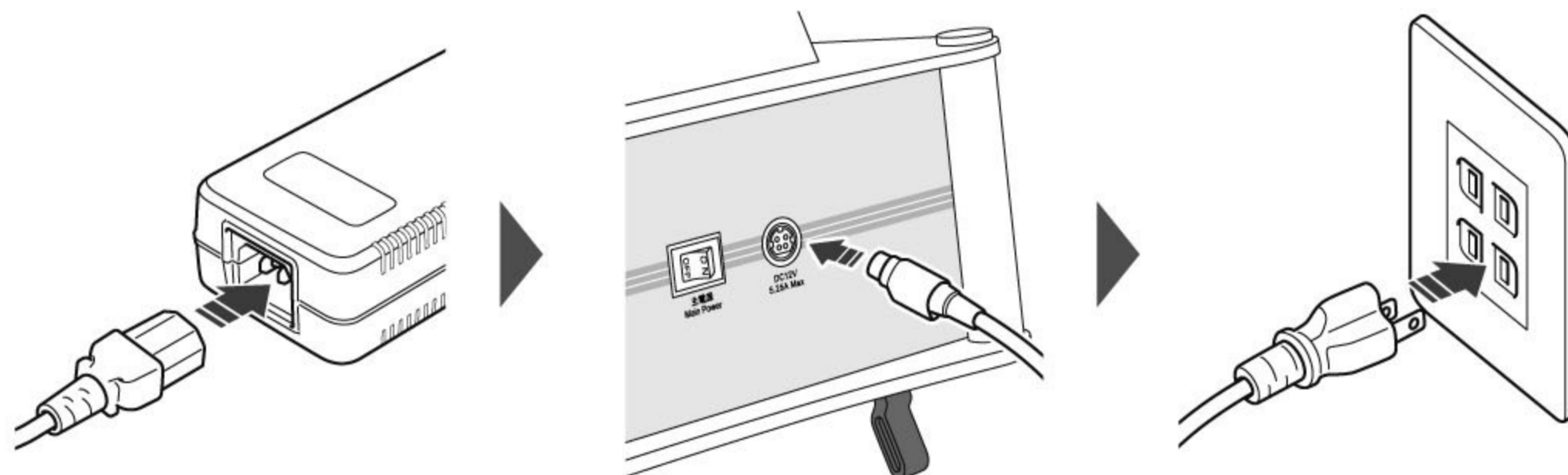
⚠ 注意

使用しないときは、必ずコンセントを抜いた状態で保管
してください。

上肢 リックマニュアルモードで使用する

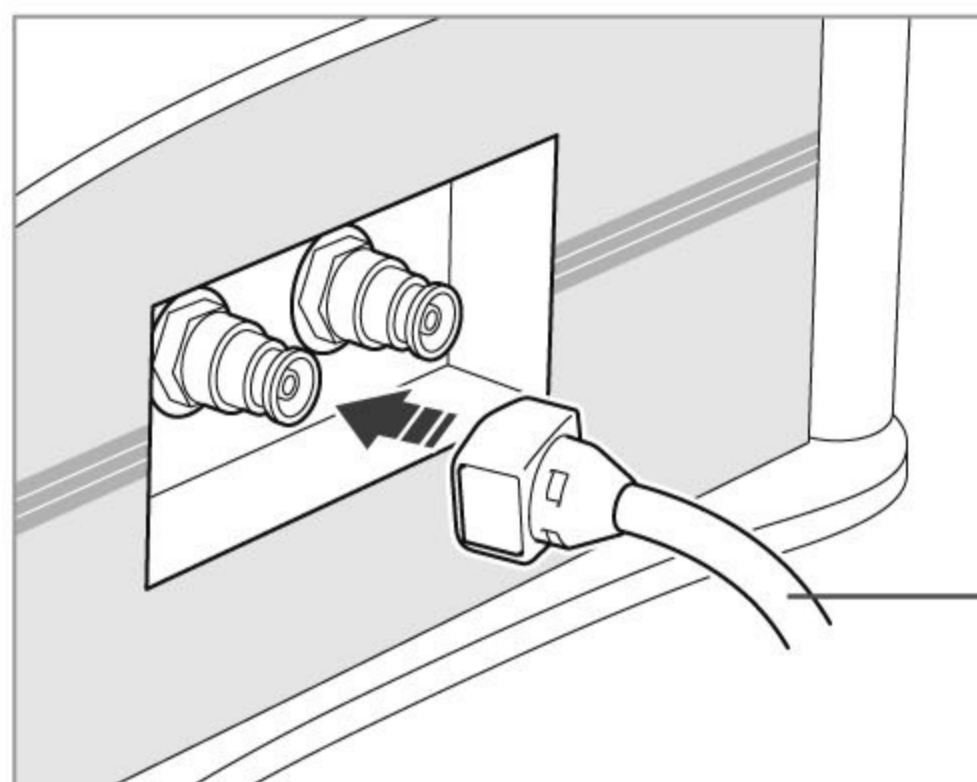
1

ACアダプターと電源コードをつなぐ
本体の電源差し込み口に電源プラグを差し込み、
電源コードをコンセントに差し込む



2

RIC/トレーニング用チューブ(透明)を本体の
RIC/トレーニング用チューブコネクタに差し込む

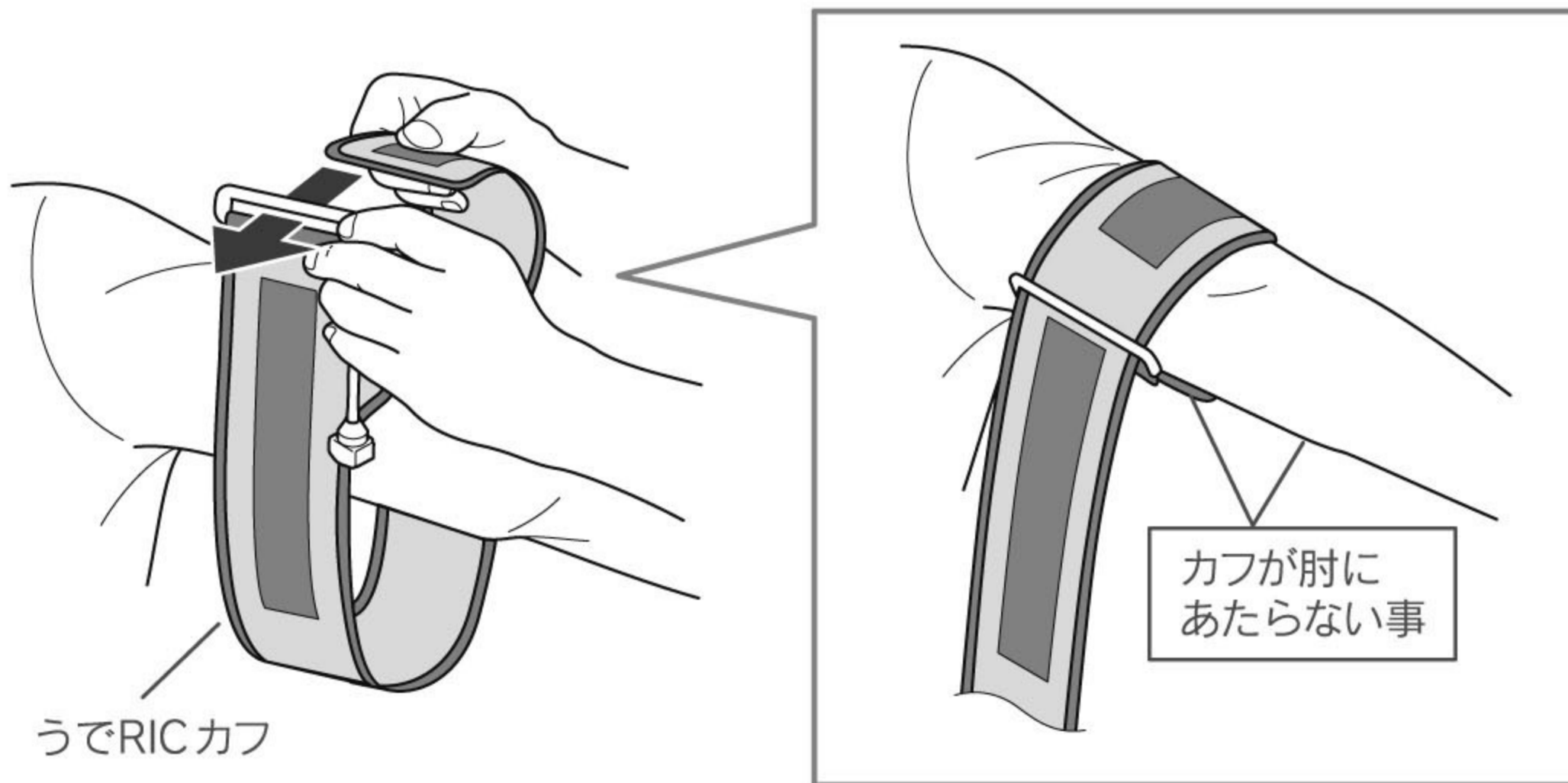


RIC/トレーニング用
チューブ(透明)

3

うでRICカフを広げ、上腕部に位置を合わせる

肘にあたらぬ位置に合わせます。



⚠ 注意

- 素肌で使用しないでください。皮膚を挟んでけがをするおそれがあります。
- 上腕のRIC は片腕ずつで行ってください。



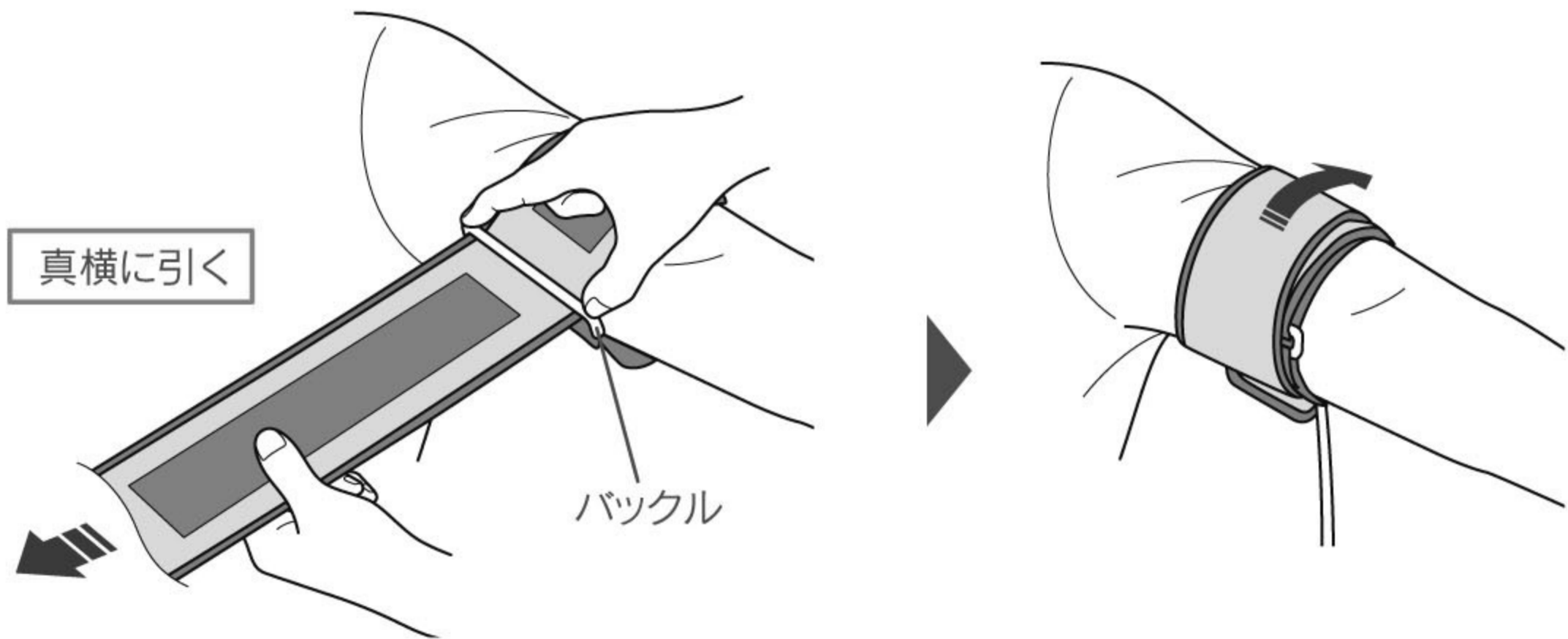
MEMO

センサーカフは使用しません。

4

うでRICカフを巻く

バックルを横の位置に合わせ、カフを真横に引っ張ってください。



⚠ 注意

- バックル部分にサビやメッキの剥がれがないか、ご使用前に点検してください。
事故やけがのおそれがあります。
- カフを巻く際は、真横に引っ張って締めてください。
斜めの方向に引っ張ると皮膚がよじれたり、バックル部分に皮膚が巻き込まれるおそれがあります。

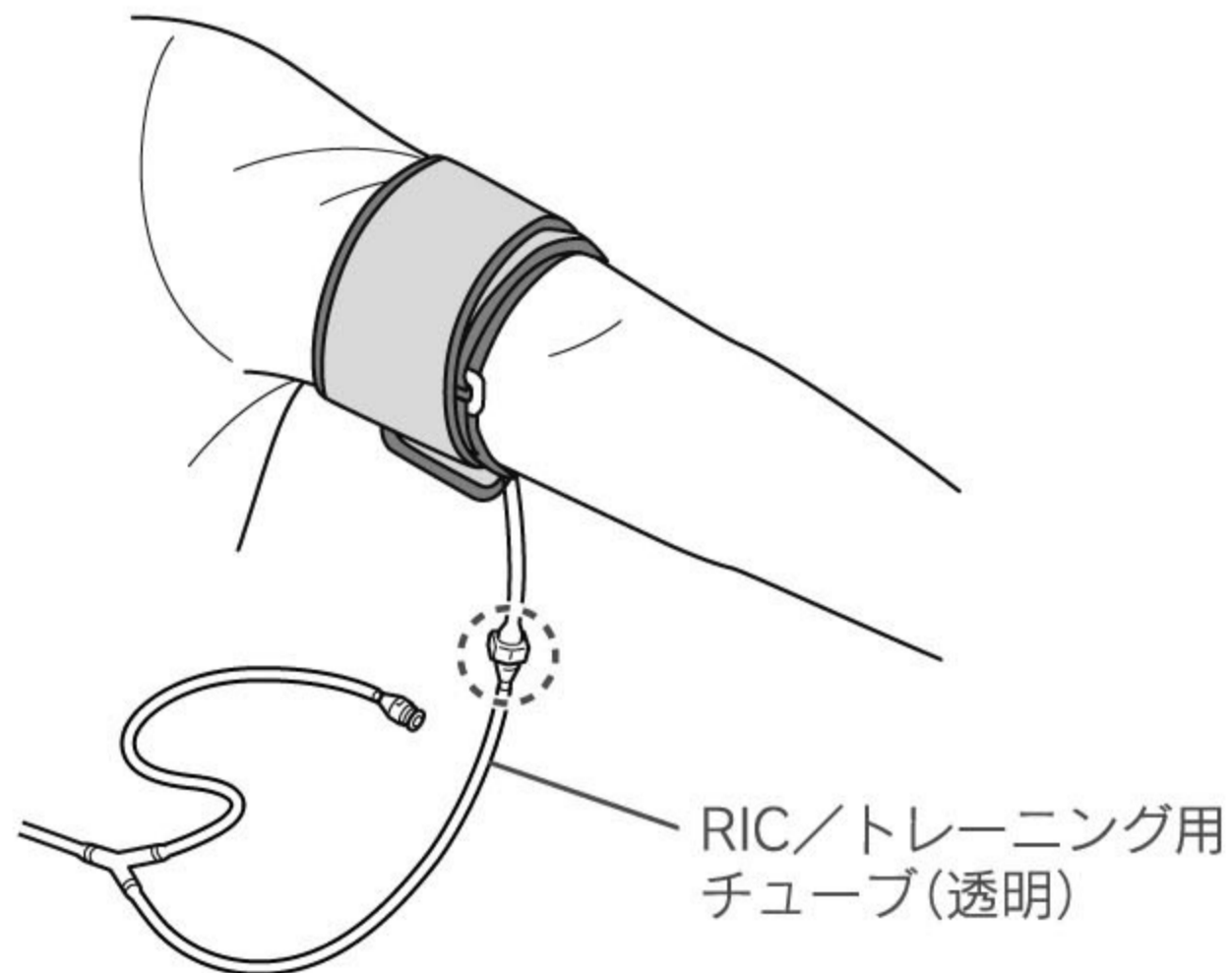


MEMO

RICカフはしっかりと、できる限り強く巻きつけてください。
巻きつけが弱いと、加圧した際の痛みがかえって強くなります。

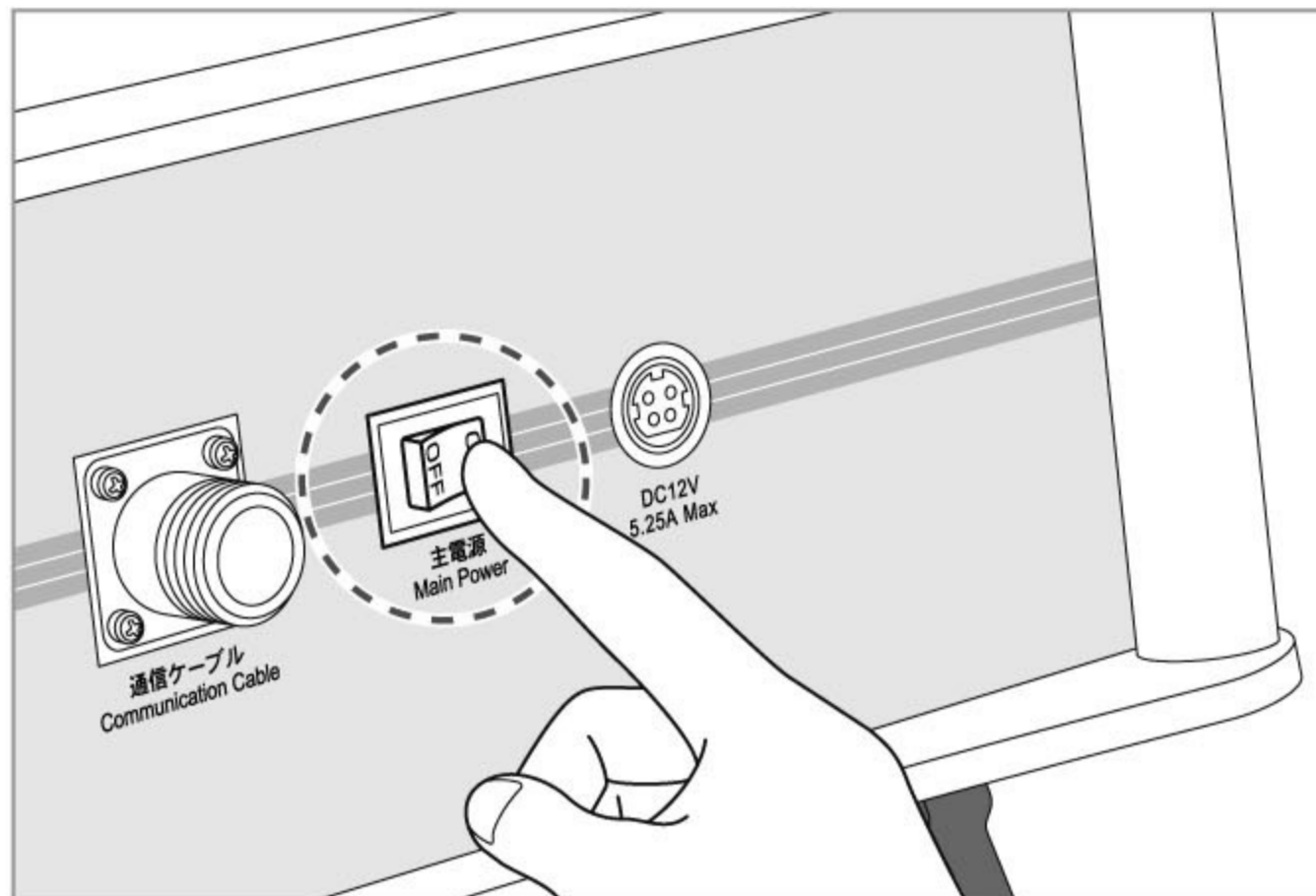
5

RIC/トレーニング用チューブ(透明)を
RIC/トレーニング用チューブコネクタに差し込む



6

メインスイッチをONにし、電源を入れる



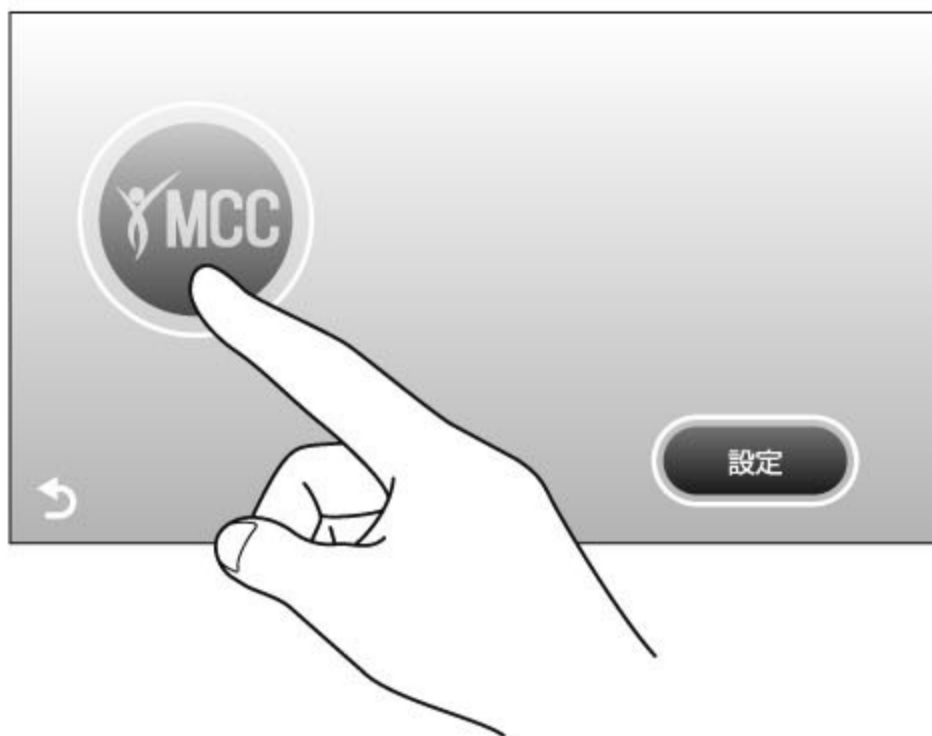
RICモードで
使用する

7

メイン画面から「MCCプログラム」を選び
「モード画面」に移行したら「リックマニュアル」を選ぶ

モードの切り替えは、(P23)を参照してください。

メイン画面



モード画面



8

リックマニュアルの「値の設定画面」が表示されるので、
変更が必要な場合は設定を行う

変更したい設定項目の「数値変更ボタン」
で設定値を変更してください。



- ① 「モード」ボタン
モード切り替え画面に移行します。
- ② 「戻る」ボタン
前の画面に戻ります。
- ③ 「設定」ボタン
設定画面に移行します。
- ④ 「両側/片側」ボタン
- ⑤ 「START」ボタン

1 ページ
「加圧力値」：80～300mmHg
「駆血時間」：30～600sec

2 ページ
「除圧時間」：30～600sec
「駆血回数」：1～20times

上肢 リックマニュアルモードで使用する場合、以下の値を設定してください。

設定項目	設定値
両側／片側 Bilateral / Unilateral	片側
加圧力値 Cure Cuff Pressure	200mmHg ※1
駆血時間 Press Time	120sec ※2
除圧時間 Sleep Time	30sec ※2
駆血回数 Count	2～5times

※1：腕が細い人は-10mmHg 程度、腕が太い人は+10～30mmHg程度で調整してください。
これより低い圧では行わないでください。内出血する可能性があります。

※2：対象者の状態に合わせて調整してください。



MEMO

設定の変更が不要な場合は、次の手順に進んでください。

9

「START」ボタンを押す前に
腕を約15秒間上げておく



頭の上まで
約15秒間上げる

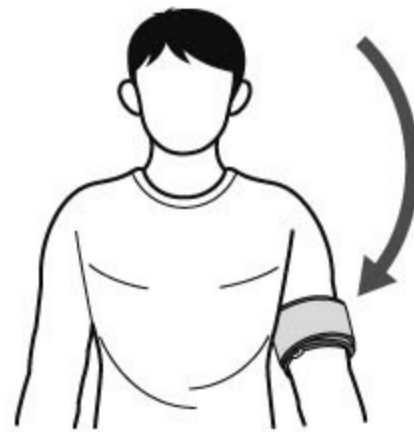
RICモードで
使用する

10

腕を上げたまま
「START」ボタンを押して加圧をスタートする



脈が止まっている(手が白くなる)のを確認後(約10秒程度)、腕を下ろす。



P43下図
加圧の流れ 参照

加圧がスタートすると下記画面に移行します

駆血カフ圧力を
「数値変更ボタン」
で変更すると
・ 駆血カフ 現状値
が連動して変更されます。



① 状態表示



② 「END」ボタン 加圧を中止する。



「音量」ボタンを押すと、音量設定画面に移行します。



「操作音量」：0～10
「動作音量」：0～10
「終了音量」：0～10
「休止音量」：0～10
「カフロック音量」：0～10

⚠ 注意

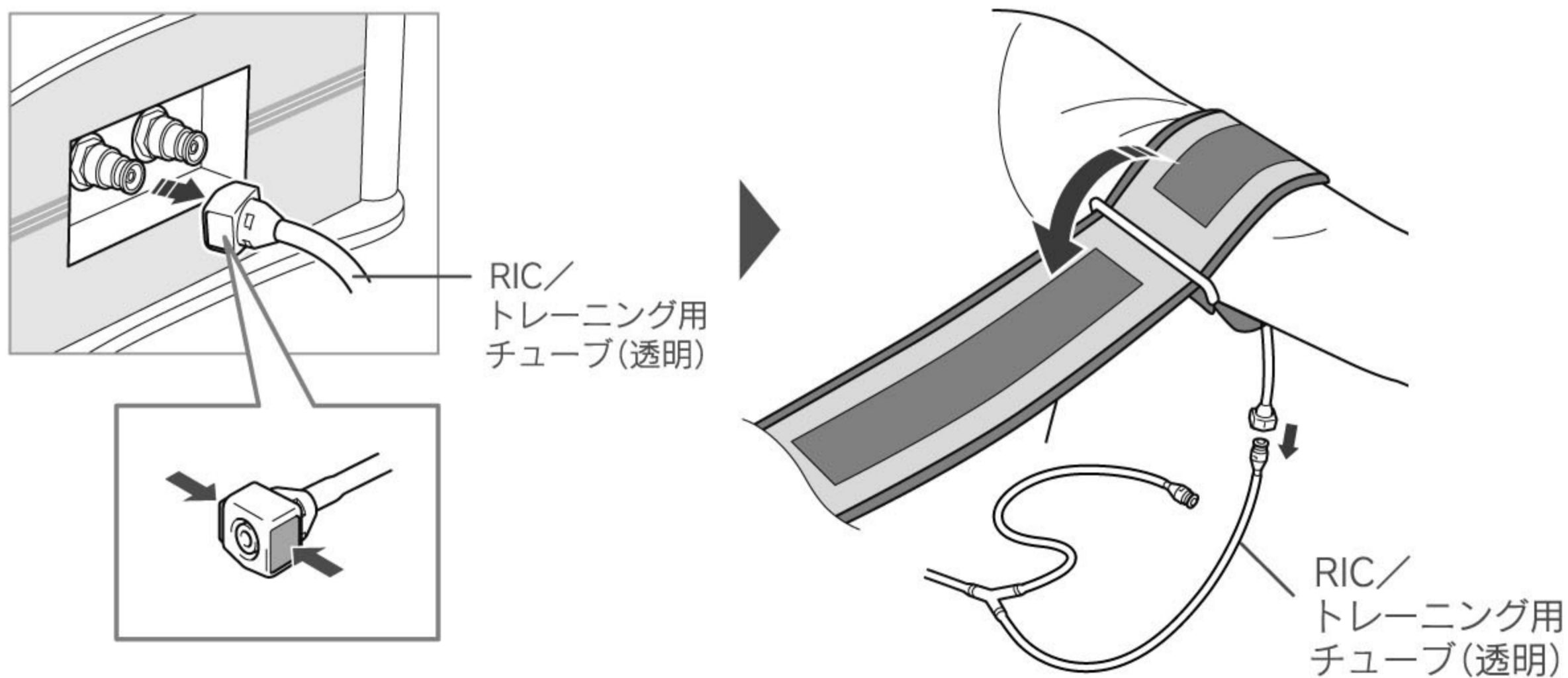
加圧中は使用者が痛みを訴えた場合でも、絶対に圧を下げないでください。加圧中に体調の不良や痛みを感じたときは、「END」ボタンを押して圧を完全に下げてください。

加圧の流れ

- ① 開始15秒前 腕を上げる ▶ **START** ボタンを押して加圧スタート
- ↓
- ② 約10秒後 脈が止まっている(手が白くなる)のを確認後、腕を下ろす
- ↓
- ③ 休憩 除圧中 ▶ **SLEEP**
- ↓
- ④ 開始15秒前 腕を上げる ▶ **START** ボタンを押して加圧スタート
→以後設定 ②～を繰り返す。

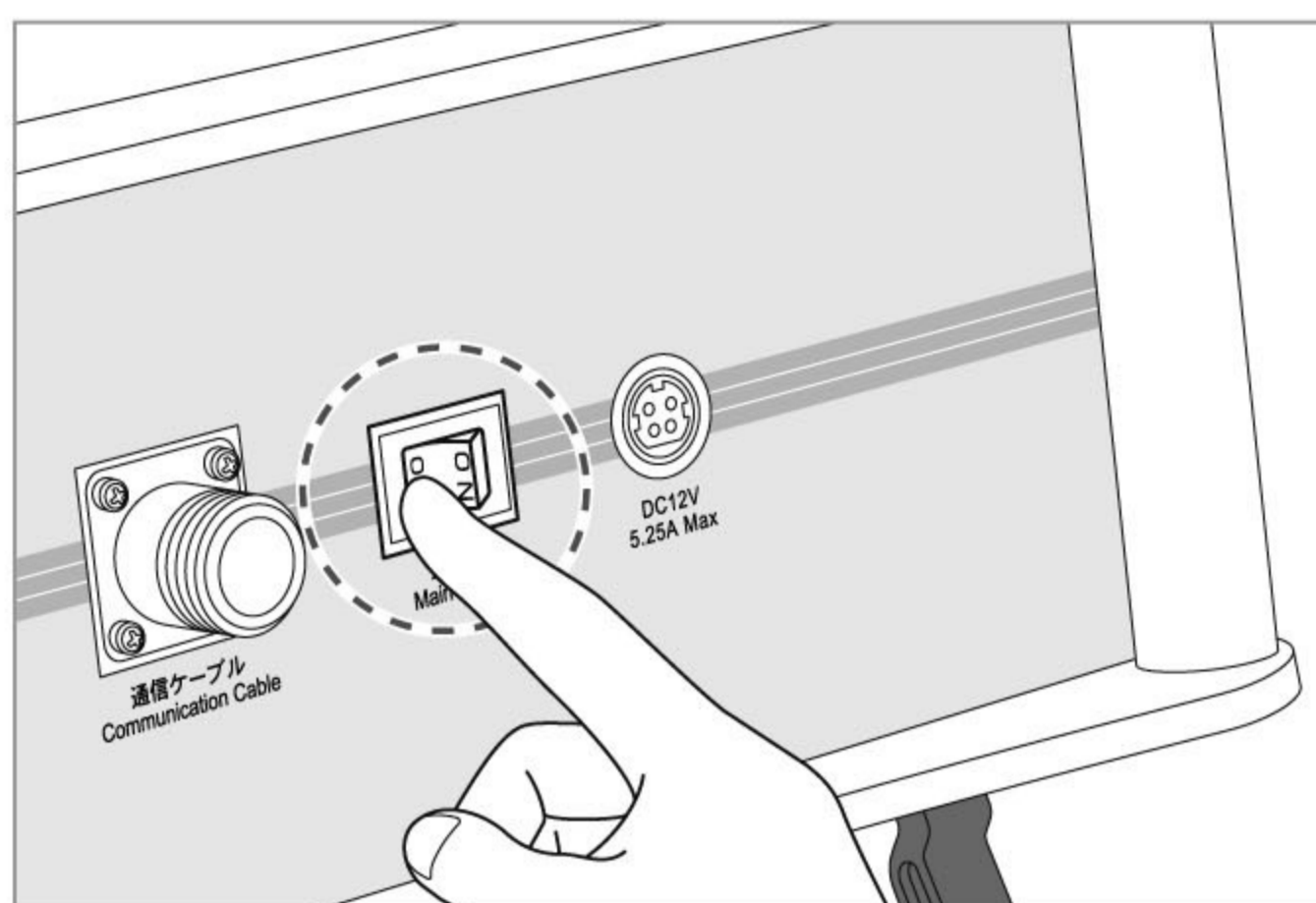
11

加圧が終了したらカフを外し、
カフ側と本体側のチューブコネクタからチューブを抜く
チューブはカプラソケットの青色の箇所を押しながら抜いてください。



12

メインスイッチをOFFにし、電源を切る



⚠ 注意

使用しないときは、必ずコンセントを抜いた状態で保管してください。

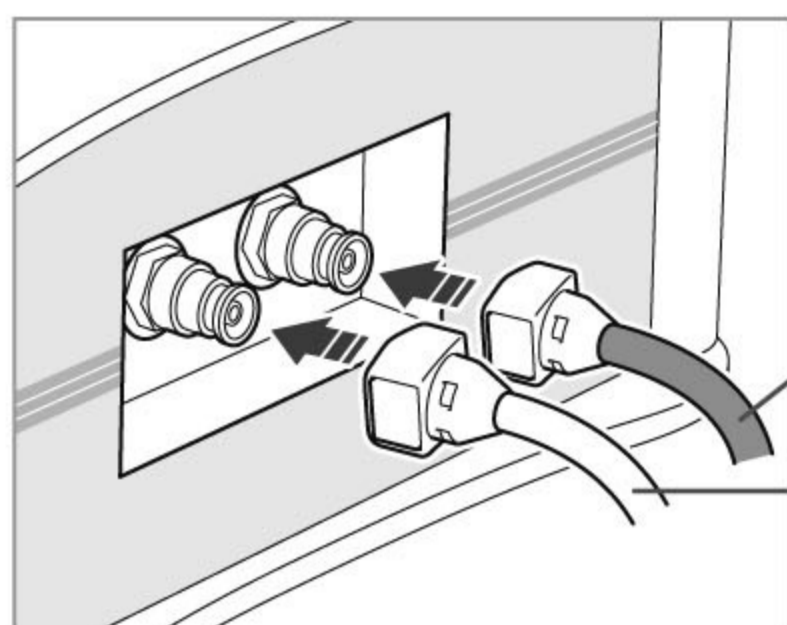
リックマニュアルオルタネートモードで使用する

【カフを1本ずつ交互に駆血するモード】

はじめに、駆血ポンプのみを設定圧力に加圧圧力を維持しながら設定した時間経過後、駆血ポンプを除圧しながらセンサーポンプの加圧を行い、設定圧力に加圧圧力を維持しながら設定した時間を加圧する。駆血ポンプ・センサーポンプの順に加圧を行うことを1セットとし、設定した回数を行う。

1

センサー用チューブ(青)を本体のセンサー用チューブコネクタに、RIC/トレーニング用チューブ(透明)を本体のRIC/トレーニング用チューブコネクタに差し込む



センサー用チューブ(青)

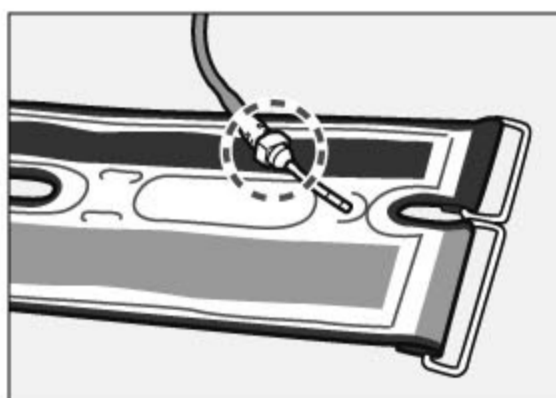
RIC/トレーニング用チューブ(透明)

センサー側 L (左)

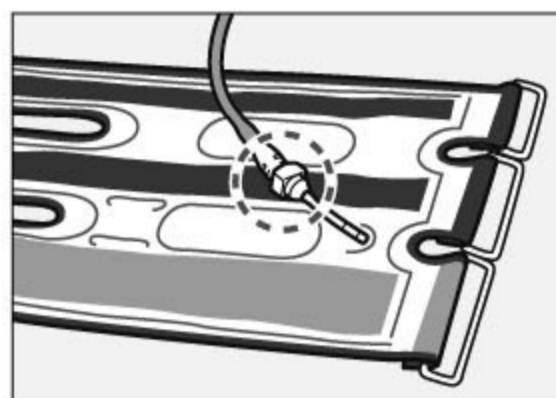
●センサー用チューブ(青)を接続



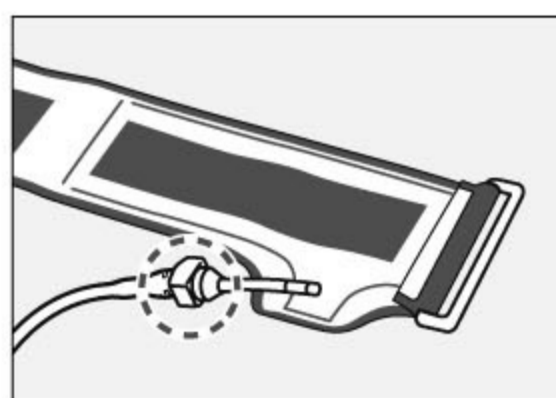
① 脚用2連カフ L



② 脚用3連カフ L

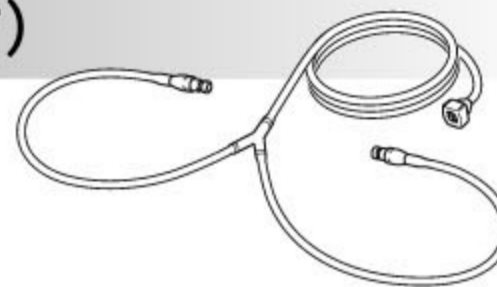


③ RICうで用シングルカフ(1本)

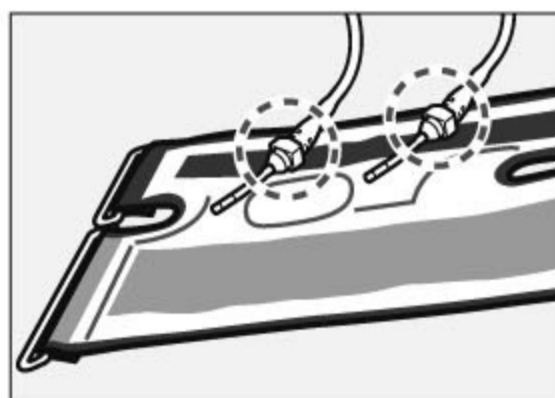


RIC(駆血)側 R (右)

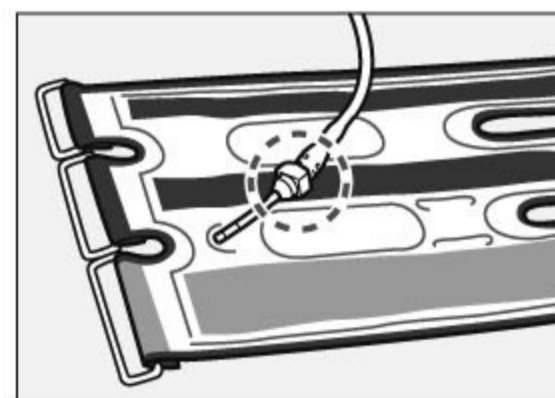
●RIC/トレーニング用チューブ(透明)を接続



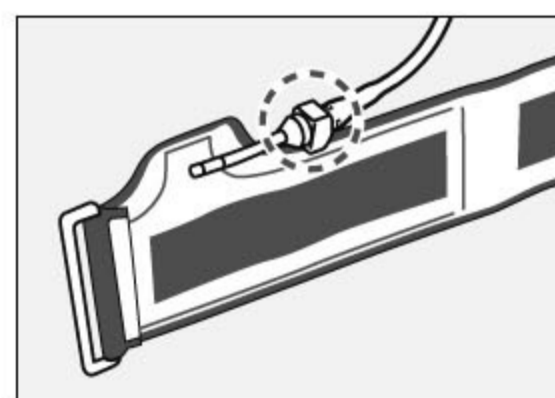
① 脚用2連カフ R



② 脚用3連カフ R



③ RICうで用シングルカフ(1本)



RICモードで使用する

2

メイン画面から「MCCプログラム」を選び、「モード画面」に移行したら「リックマニュアルオルタネート」を選ぶ

モードの切り替えは、(P23)を参照してください。

メイン画面





モード画面



3

リックマニュアルオルタネートの「値の設定画面」が表示されるので、変更が必要な場合は設定を行う

変更したい設定項目の「数値変更ボタン」  で設定値を変更してください。



- ① 「モード」ボタン
モード切り替え画面に移行します。
- ② 「戻る」ボタン
前の画面に戻ります。 
- ③ 「設定」ボタン
設定画面に移行します。
- ④ 「カフ選択」ボタン
太腿
他
設定
- ⑤ 「START」ボタン

1 ページ 「加圧力値」：80～300mmHg
「駆血時間」：30～600sec

2 ページ 「駆血回数」：1～20times
「最小加圧時間」：0.0～5.0sec

リックマニュアルオルタネート時の最小加圧時間の設定



最小加圧時間の設定



※オルタネートは **太腿** と **他** で変更する。

「カフ選択」ボタンを **設定** にすると適用

範囲：0.0 sec ~ 5.0 sec

※最低でも設定時間は空気が入り続ける。

最初入りすぎて痛い → 時間を短く
 なかなか空気が入らない → 時間を長く

リモートで
使用する

4

「START」ボタンを押して駆血側加圧をスタートする



加圧がスタートすると
下記画面に移行します

START ▶ 駆血側加圧 ▶ 設定時間経過したら駆血側を除圧しながら
センサー側加圧 ▶ 再度設定時間経過したらセンサー側を除圧しながら
駆血側加圧 ▶ 設定回数繰り返す

☞ 最初は【90秒 3セット】ほどの短時間から慣れさせる。
1回最長時間：腕10分 脚7分

RICE-PORT
使用する

駆血カフ 設定値 を
「数値変更ボタン」
で変更すると

- ・ 駆血カフ 現状値
- ・ センサーカフ 設定値
- ・ センサーカフ 現状値

が連動して変更されます。



① 状態表示

検圧中は **READY**

駆血中は **駆血** と表示され、駆血側のポンプを指示。

センサー と表示され、センサー側のポンプを指示。

② 「END」ボタン

加圧を中止する。



「音量」ボタンを押すと、音量設定画面に移行します。



「操作音量」：0～10
「動作音量」：0～10
「終了音量」：0～10
「休止音量」：0～10
「カフロック音量」：0～10

⚠ 注意

加圧中は使用者が痛みを訴えた場合でも、絶対に圧を下げないでください。加圧中に体調の不良や痛みを感じたときは、「END」ボタンを押して圧を完全に下げてください。

トレーニングモードで使用する

トレーニングモードには、リックオートトレーニング2・MCトレーニング・MCフィールドトレーニングの3つのプログラムがあります。

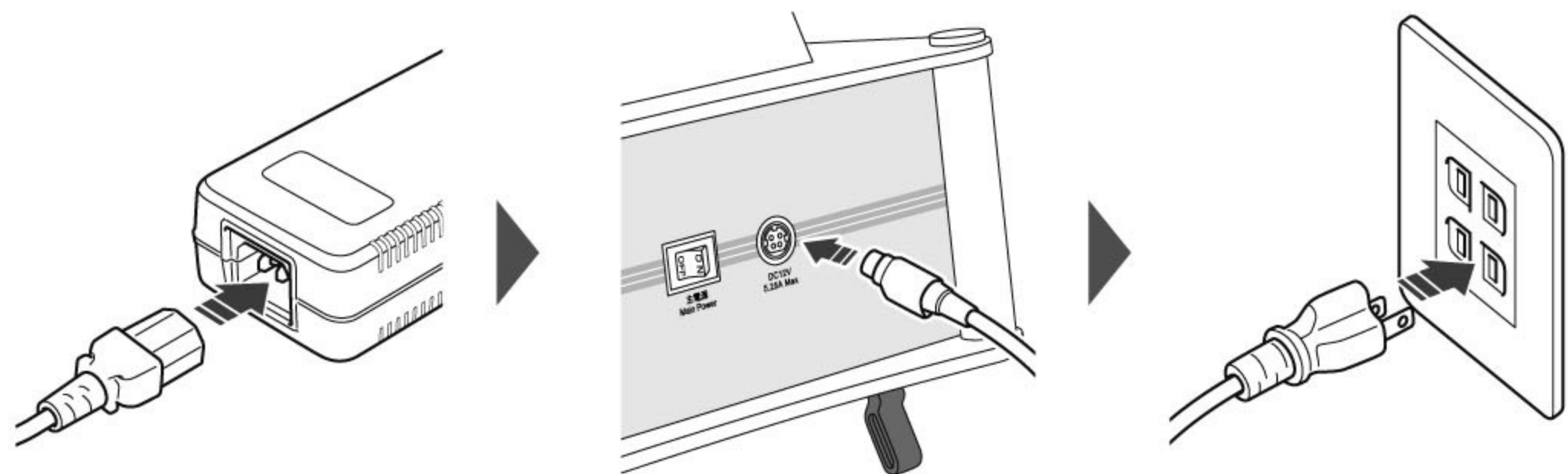
リックオートトレーニング2モードの操作

基本操作はリックオートモードと同じ（画面の操作は P31~P34を参照）

MCトレーニングモードの操作

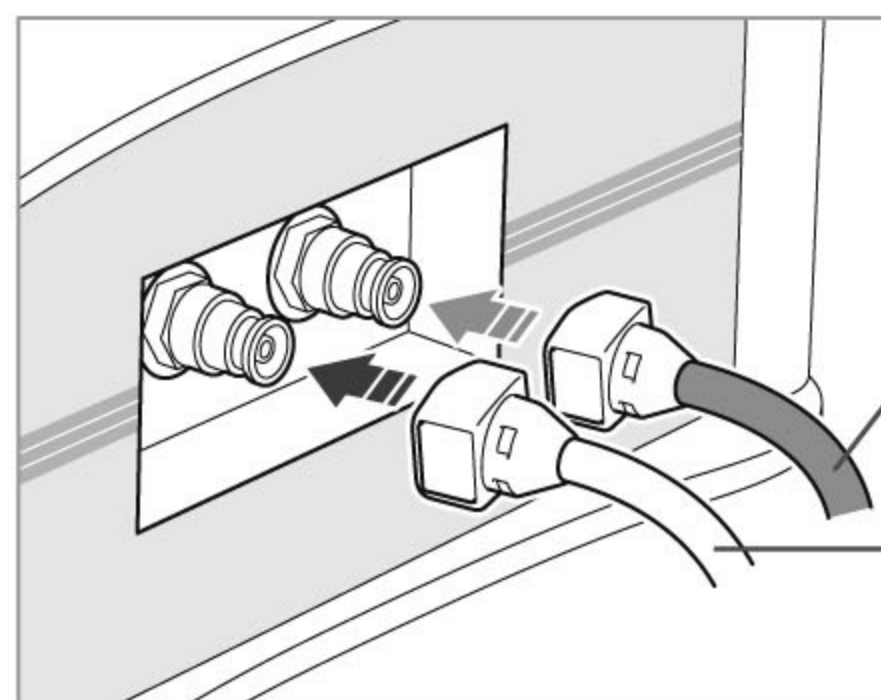
1

ACアダプターと電源コードをつなぐ
本体の電源差し込み口に電源プラグを差し込み、
電源コードをコンセントに差し込む



2

RIC/トレーニング用チューブ(透明)を本体の
RIC/トレーニング用チューブコネクタに差し込む



センサー用チューブ(青)

※2連カフの時は、センサー用チューブ
も使用する

RIC/トレーニング用
チューブ(透明)

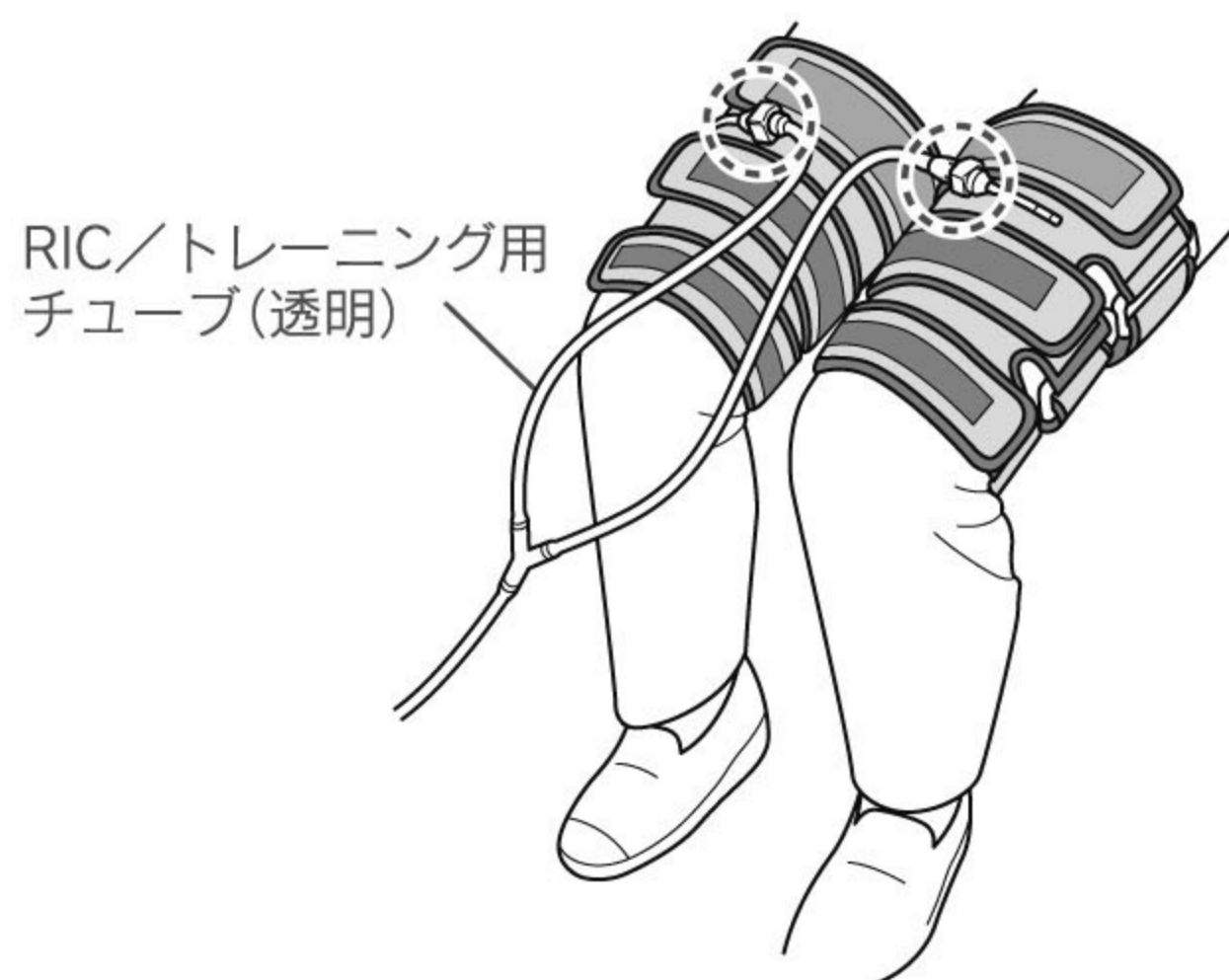
3

トレーニング用カフを巻く

カフの巻き方は、MCトレーニング用カフを巻く(☞ P58)を参照してください。

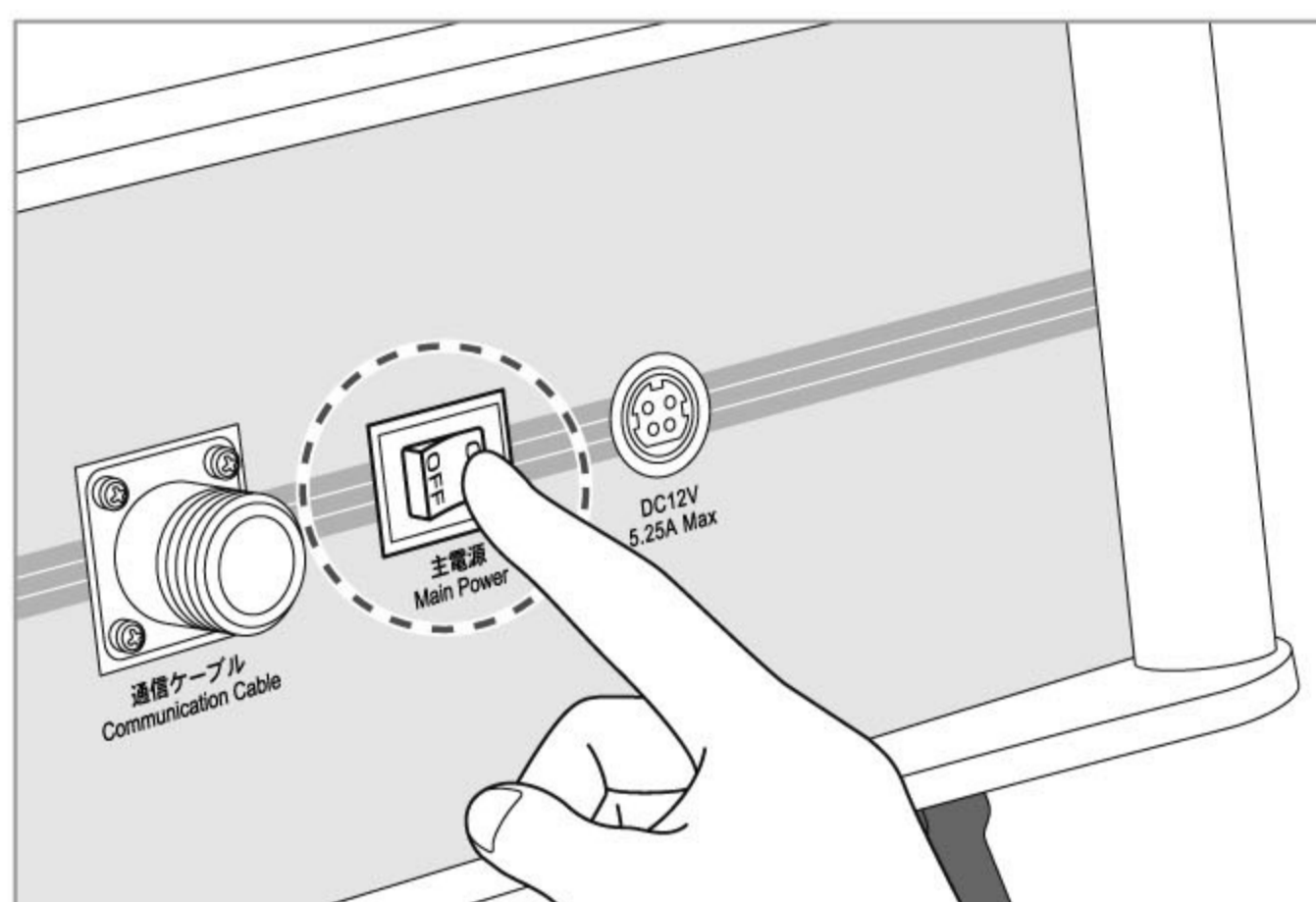
4

RIC/トレーニング用チューブ(透明)を RIC/トレーニング用チューブコネクタに差し込む



5

メインスイッチをONにし、電源を入れる



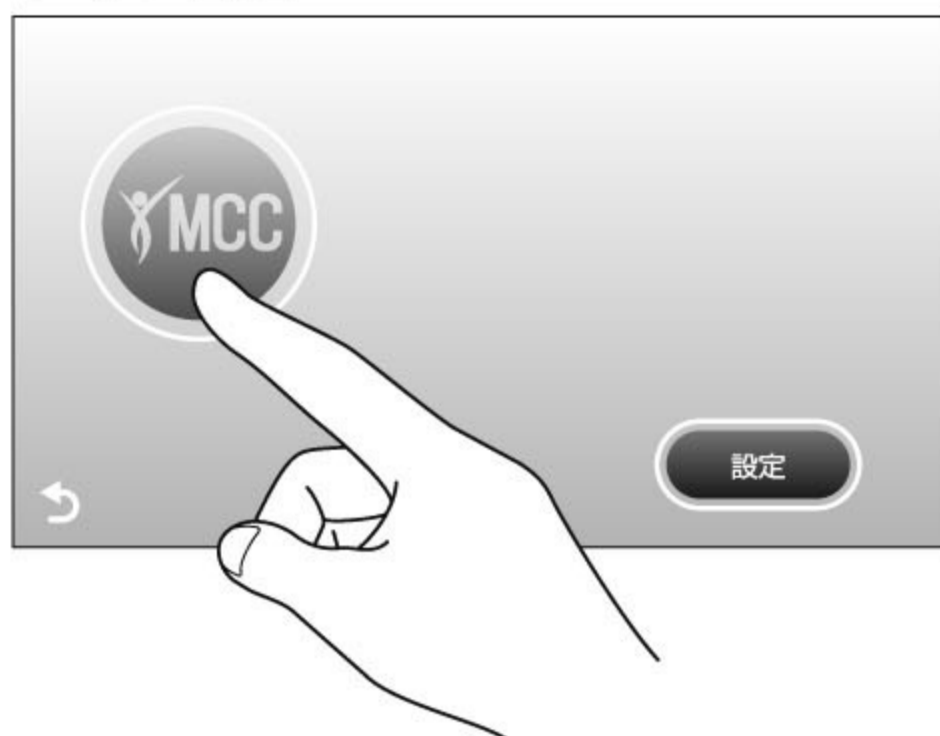
トレーニングモード
で使用する

6

メイン画面から「MCCプログラム」を選び
「モード画面」に移行したら「MCトレーニング」を選ぶ

モードの切り替えは、(P23)を参照してください。

メイン画面



モード画面



7

MCトレーニングの「値の設定画面」が表示されるので、
変更が必要な場合は設定を行う

変更したい設定項目の「数値変更ボタン」
で設定値を変更してください。



- ① 「モード」ボタン
モード切り替え画面に移行します。
- ② 「戻る」ボタン
前の画面に戻ります。
- ③ 「設定」ボタン
設定画面に移行します。
- ④ 「カフ選択」ボタン
脚2連
脚3連
腕
設定
- ⑤ 「START」ボタン

「加圧力値」：80～300mmHg

※MCトレーニングの現在の設定ではカフの違いはなく、
すべて0.0secとしています。

MCトレーニングモードで使用する場合、以下の値を設定してください。

使用部位	設定項目	設定値
大腿部	加圧力値 Cure Cuff Pressure	160~250mmHg
下腿部		150~250mmHg
上腕		120~200mmHg
前腕		120~200mmHg



MEMO

- 上記の値は一例です。対象者の体格、年齢、運動経験などに合わせて値を調整してください。初回は低めの値で設定し、徐々に身体を慣らしてください。
- トレーニング中でも、加圧力の値を変更することができます。変更する場合は数値変更ボタン を押してください。

最小加圧時間の設定



「カフ選択」ボタンを **設定** にすると適用

範囲：0.0sec ~ 5.0sec ※最低でも設定時間は空気が入り続ける。

最初入りすぎて痛い → 時間を短く
 なかなか空気が入らない → 時間を長く



詳細に関しては、基礎講習会にて配布の資料を必ず参照
 とするようお願いします。



トレーニングモード
 で使用する

8

「START」ボタンを押して加圧をスタートする



加圧がスタートすると下記画面に移行します

駆血カフ 設定値 を
「数値変更ボタン」 
で変更すると
・ 駆血カフ 現状値
が連動して変更されます。



① 状態表示

駆血中は **RUN** と表示されます。

② 「END」ボタン

加圧を中止する。



「音量」ボタンを押すと、音量設定画面に移行します。



「操作音量」：0～10
「動作音量」：0～10
「終了音量」：0～10
「休止音量」：0～10
「カフロック音量」：0～10

9

トレーニングが終了したら、「END」ボタンを押して除圧する



! 注意

トレーニングは無理のない範囲で行ってください。



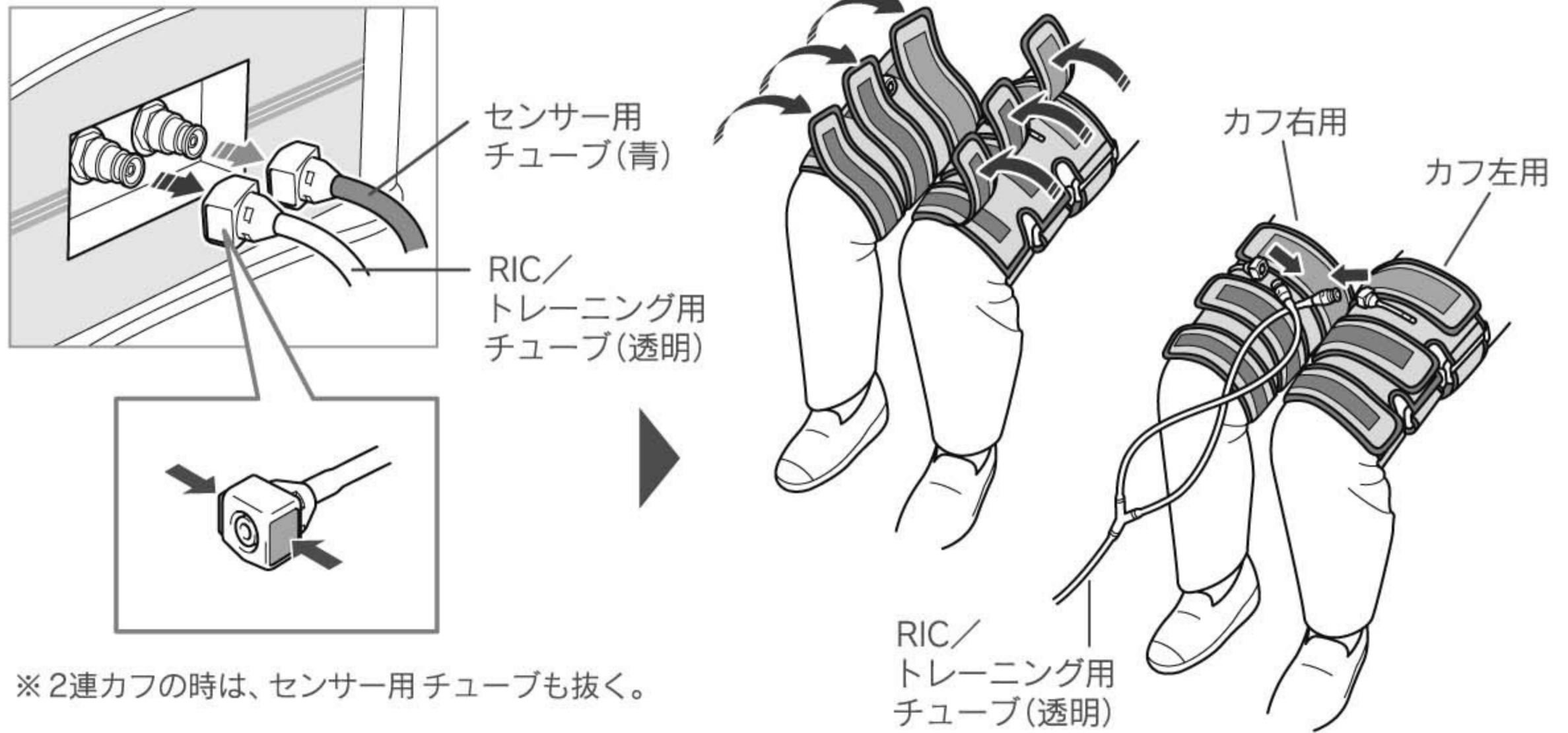
MEMO

トレーニングモードでは、最大10分間加圧し続けます。加圧が継続していても、トレーニングが終了したら、「END」ボタンで除圧してください。

トレーニングモード
で使用する

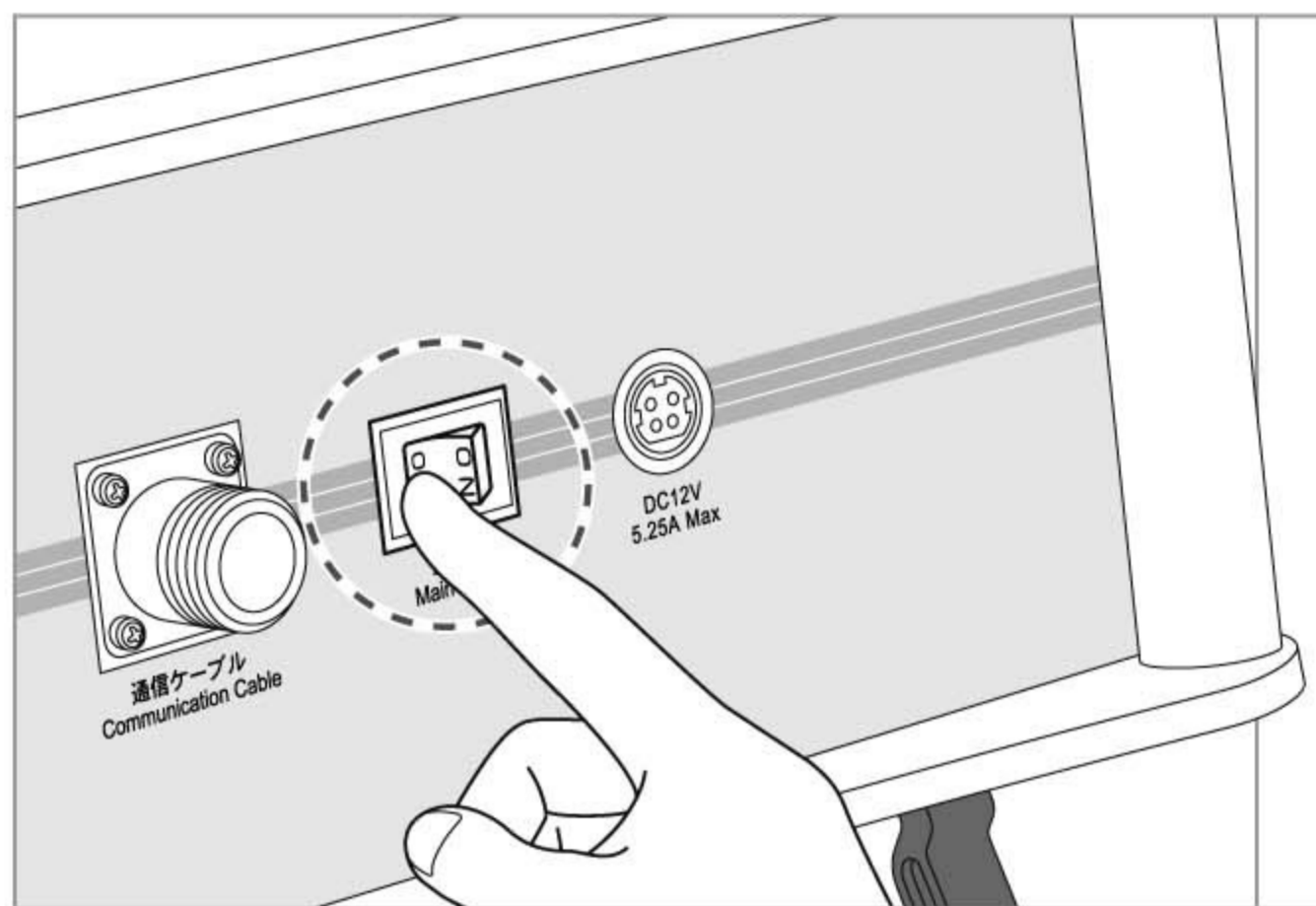
11

加圧が終了したらカフを外し、
カフ側と本体側のチューブコネクタからチューブを抜く
チューブはカプラソケットの青色の箇所を押しながら抜いてください。



12

メインスイッチをOFFにし、電源を切る



⚠ 注意

使用しないときは、必ずコンセントを抜いた状態で保管してください。

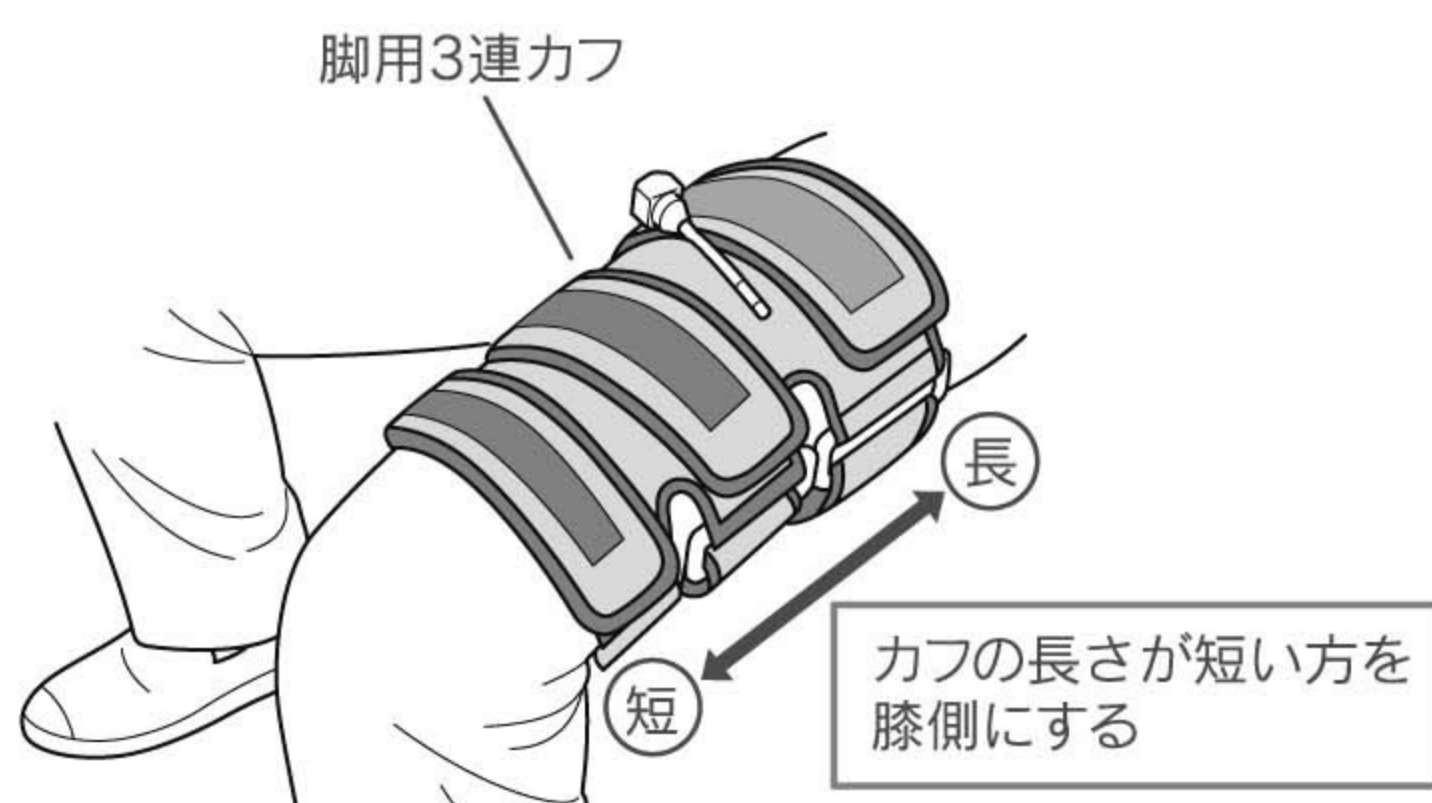
トレーニング用カフを巻く

大腿部に巻く場合

1

トレーニング 脚用3連カフまたは2連カフを広げ、
大腿部に位置を合わせる

カフの長さが短い方を、膝の上の骨にあたらぬ位置に合わせます。



⚠ 注意

素肌で使用しないでください。皮膚を挟んでけがをするおそれがあります。



MEMO

- 通常、背の高い方は3連カフ、小柄な方は2連カフを使用します。
- MCトレーニングモードで使用する場合、センサーカフは使用しません。

2

トレーニング用カフを巻く

カフの長さが短い方から順番に巻いてください。
左右の脚両方に同様の手順でカフを巻いてください。



⚠ 注意

カフはずれない程度にしっかりと巻きつけてください。

下腿部に巻く場合

1

トレーニング 脚用3連カフまたは2連カフを広げ、
下腿部に位置を合わせる

カフの長さが長い方を、膝の下の骨にあたらぬ位置に合わせます。



! 注意

素肌で使用しないでください。皮膚を挟んでけがを
おそれがあります。



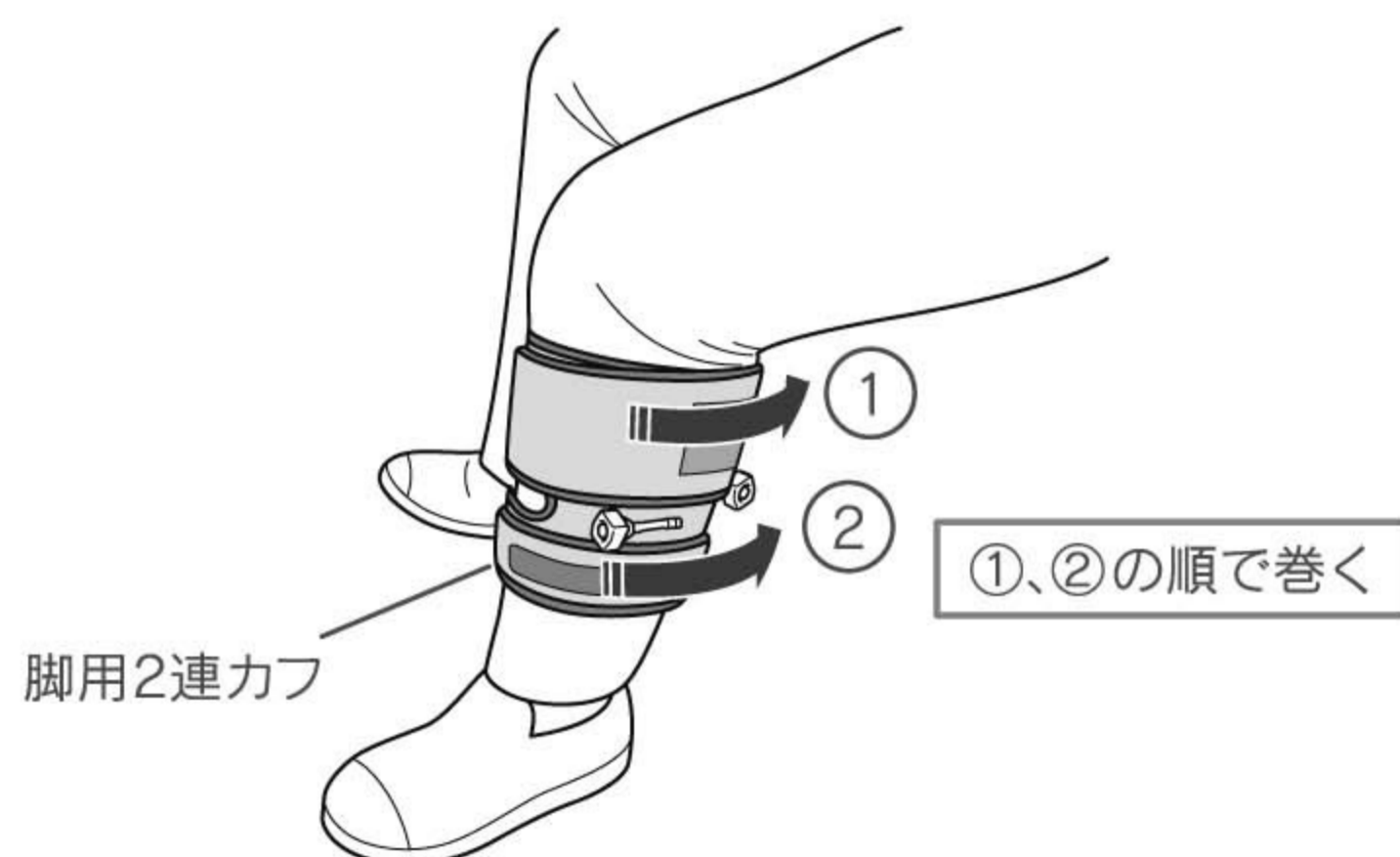
MEMO

MCTレーニンクモードで使用する場合、センサーカフは使用しません。

2

トレーニング用カフを巻く

カフの長さが長い方から順番に巻いてください。
左右の脚両方に同様の手順でカフを巻いてください。



⚠ 注意

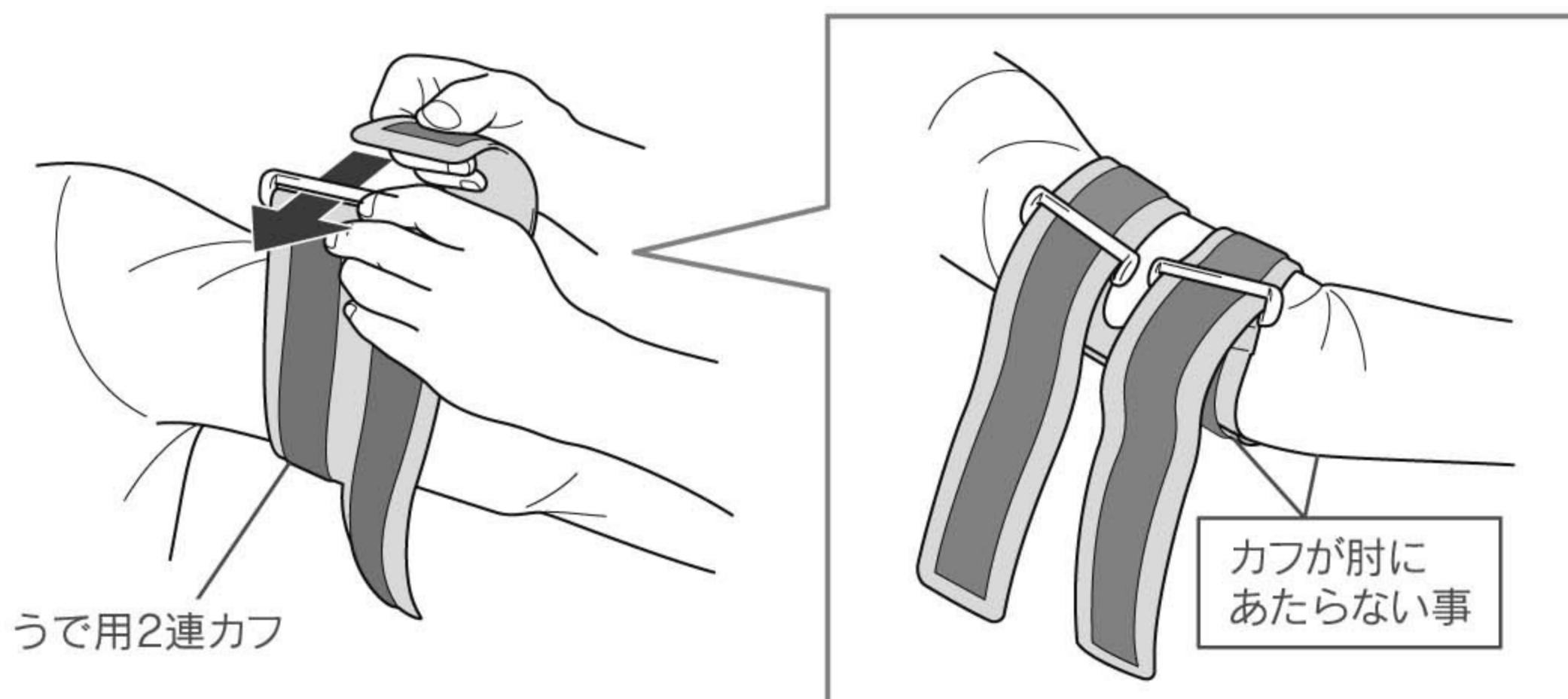
カフはずれない程度にしっかりと巻きつけてください。

上腕部に巻く場合

1

トレーニング うで用2連カフを広げ、
上腕部に位置を合わせる

肘にあたらぬ位置に合わせます。



⚠ 注意

素肌で使用しないでください。皮膚を挟んでけがをするおそれがあります。



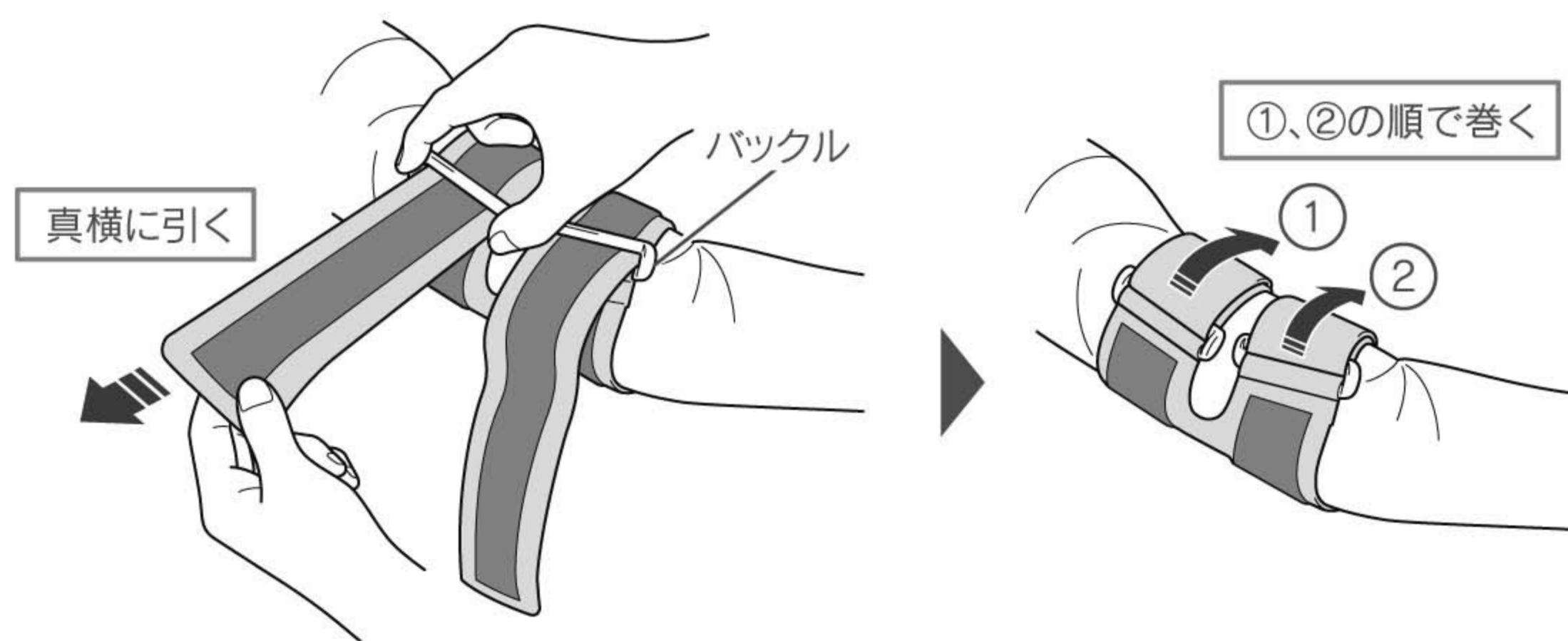
MEMO

MCTレーニンクモードで使用する場合、センサーカフは使用しません。

2

トレーニング用カフを巻く

バックルを横の位置に合わせ、カフを真横に引っ張ってください。
肘から遠い側のカフから順番に巻いてください。
左右の腕両方に同様の手順でカフを巻いてください。



⚠ 注意

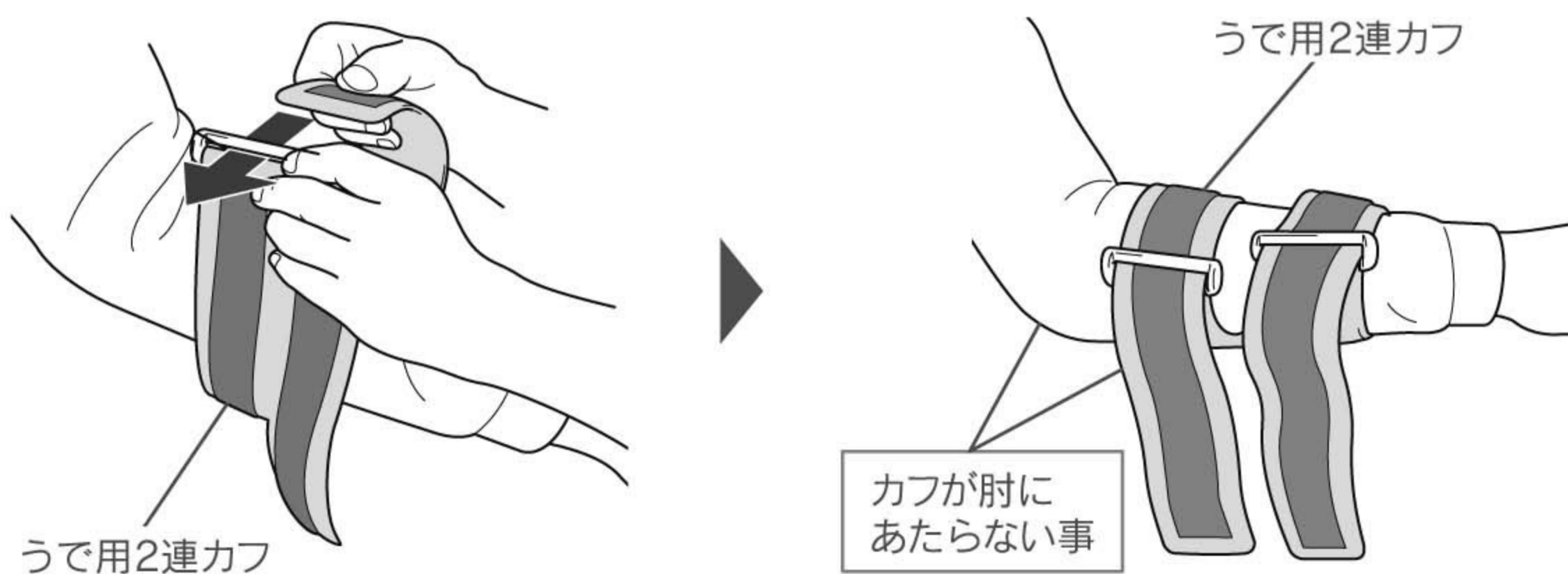
- カフはずれない程度にしっかりと巻きつけてください。
- カフを巻く際は、真横に引っ張って締めてください。斜めの方向に引っ張ると皮膚がよじれたり、バックル部分に皮膚が巻き込まれるおそれがあります。

前腕部に巻く場合

1

トレーニング うで用2連カフを広げ、
前腕部に位置を合わせる

肘にあたらぬ位置に合わせます。



⚠ 注意

素肌で使用しないでください。皮膚を挟んでけがをするおそれがあります。



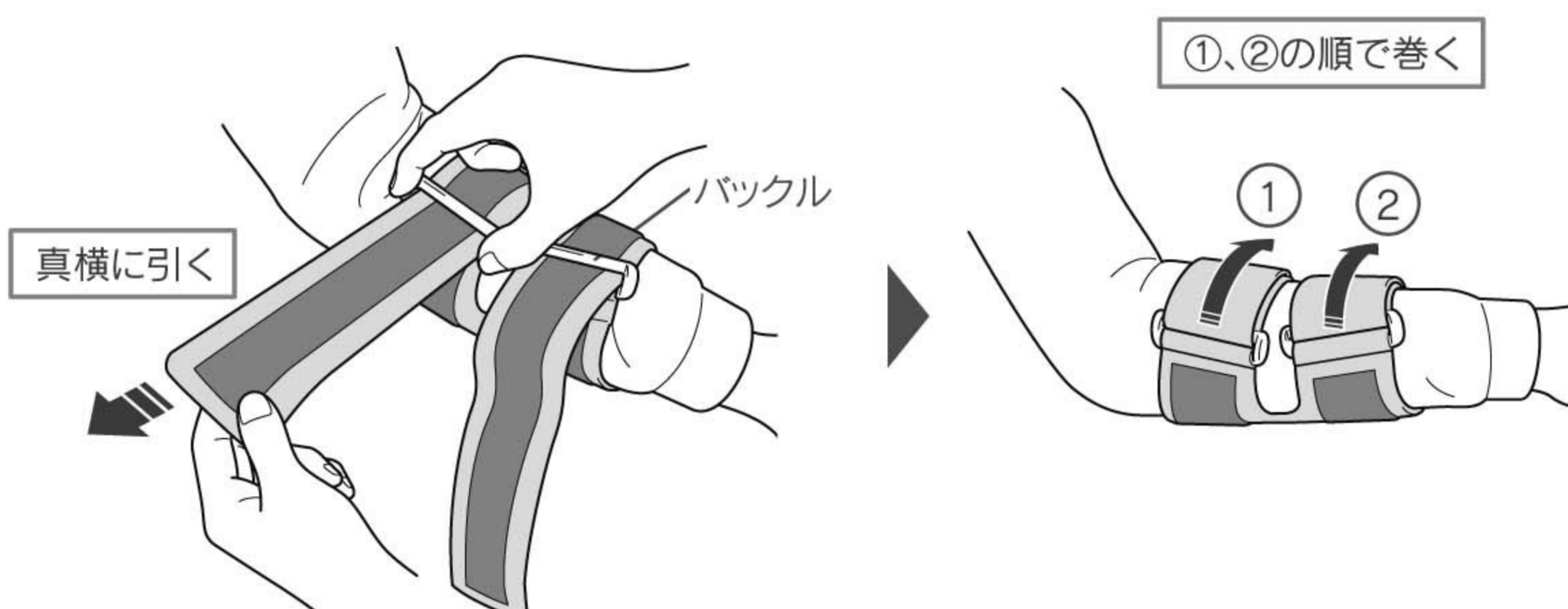
MEMO

MCTレーニンクモードで使用する場合、センサーカフは使用しません。

2

トレーニング用カフを巻く

バックルを横の位置に合わせ、カフを真横に引っ張ってください。
肘に近い側のカフから順番に巻いてください。
左右の腕両方に同様の手順でカフを巻いてください。



⚠ 注意

- カフはずれない程度にしっかりと巻きつけてください。巻きつけが緩いと、加圧した際に痛みを感じる場合があります。
- カフを巻く際は、真横に引っ張って締めてください。斜めの方向に引っ張ると皮膚がよじれたり、バックル部分に皮膚が巻き込まれるおそれがあります。

トレーニングをする

MCトレーニングモードで使用する場合、
以降を参考にトレーニングを行ってください。

⚠ 注意

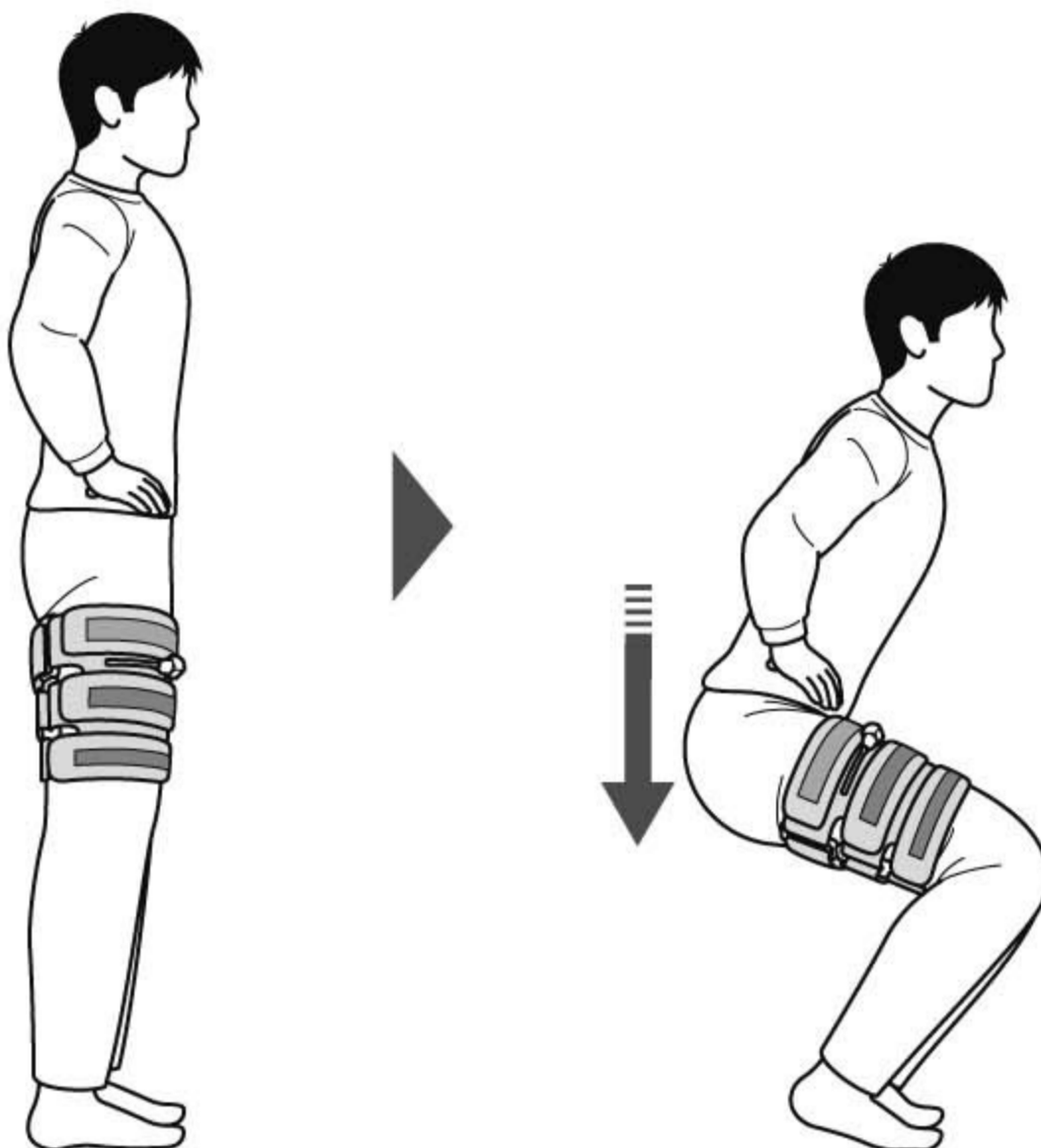
- トレーニングは無理のない範囲で行ってください。
- トレーニングの回数や時間は、対象者に合わせて調整してください。
- 正しいトレーニングフォームで行わないと、けがをしたり効果が出ない場合があります。
正しいトレーニング方法を確認したうえでトレーニングを行ってください。



MEMO

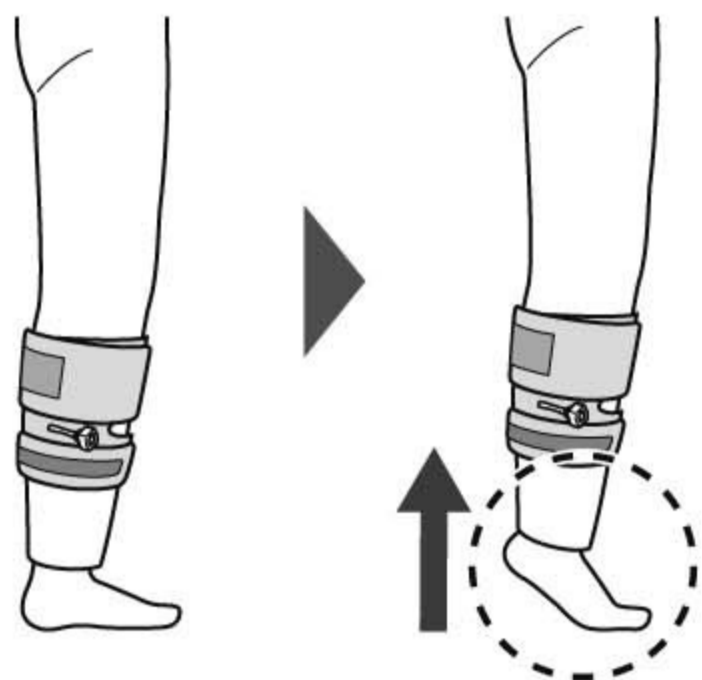
紹介するトレーニングは、推奨の方法です。
他の方法でトレーニングしても問題ありません。

大腿部に使用する場合



大腿部に使用する場合、代表的なトレーニングとしてスクワットでのトレーニングがあります。
足を肩幅に開き、腰をまっすぐ下ろします。前かがみにならないように注意してください。

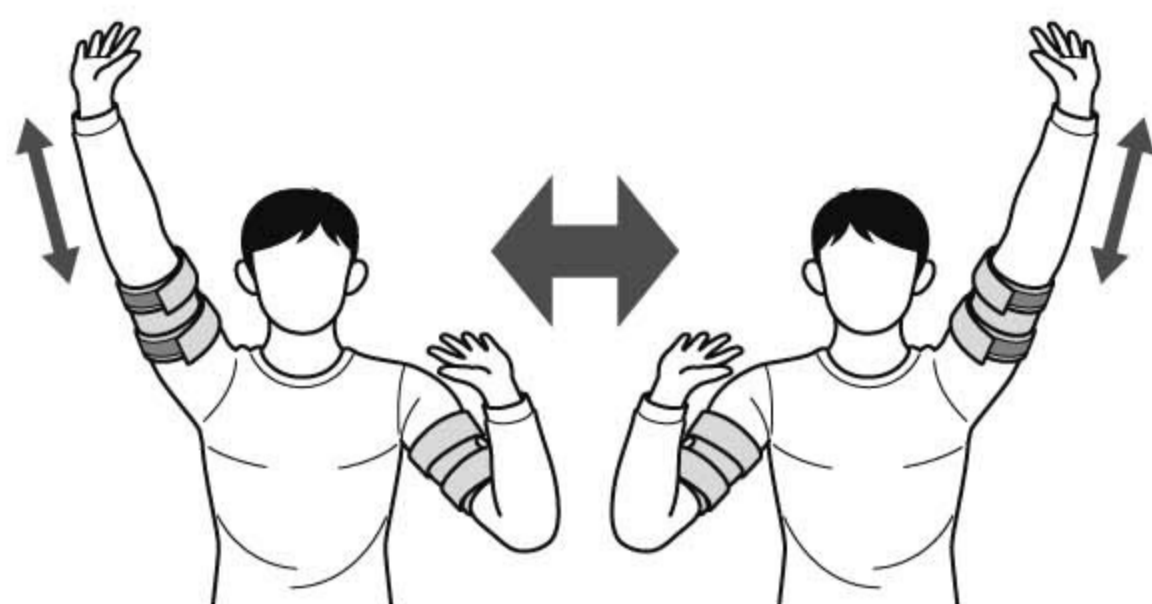
下腿部に使用する場合



下腿部に使用する場合、代表的なトレーニングとしてカーフレイズでのトレーニングがあります。

かかとの上げ下げを繰り返します。かかとを垂直に動かします。

上腕に使用する場合

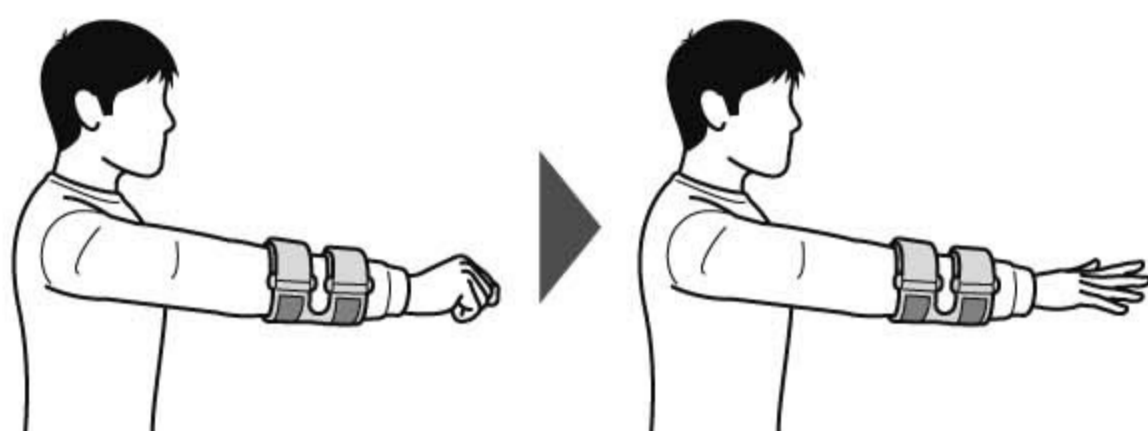


上腕に使用する場合、代表的なトレーニングとしてショルダープレスでのトレーニングがあります。

掌を上に向け、まっすぐ上にあげるイメージで腕を上下します。

上腕のトレーニングは、左右交互に行った方が圧が安定します。

前腕に使用する場合



前腕に使用する場合、代表的なトレーニングとしてグーパー運動でのトレーニングがあります。

腕を前に出してグーパーを繰り返します。掌を握るときに力を入れます。

お手入れ方法

記載している注意事項、その他の正しい方法を守ってお手入れを行ってください。

お手入れと保管

本体、チューブのお手入れ

本体、チューブに汚れが付着した場合は、乾いたやわらかい布で拭きとってください。から拭きで汚れが取れない場合は、少量の中性洗剤を溶かしたぬるま湯にやわらかい布をひたし、かたくしぼってから拭きとってください。その後、洗剤が残らないように乾いた布で拭いてください。

注意

- お手入れをする際は、必ず電源がOFFの状態で行ってください。
- シンナーやベンジン、アルコール類、その他の溶剤、みがき粉などは絶対に使用しないでください。故障や部品の割れ、変色などの原因となります。

表示パネルのお手入れ

表示パネルに汚れが付着した場合は、乾いたやわらかい布で拭きとってください。

注意

絶対に濡れたタオルなどで拭かないでください。故障の原因となります。

カフのお手入れ

カフにゴミが絡まった場合は、粘着テープなどで取り除いてください。カフに汚れが付着した場合は、濡れたタオルなどで拭きとり陰干ししてください。

注意

- チューブ差し込み口には異物を入れないでください。
- 水洗いはしないでください。破損の原因となります。
- チューブに水が入らないように注意してください。

保管時の注意

- 汚れやほこりを取った後、湿気の少ない場所に保管してください。
- 使用しないときは、カバーなどをかけてほこりが付かないように保管してください。
- 保管中も本製品の周辺にペットを近付けないようにしてください。
- カフおよびチューブを無理に折り曲げないように注意して保管してください。
- 保管時に電源コードを本体やACアダプターに巻きつけないでください。
電源コードに負荷がかかり断線し、ショートによる火災や感電の原因となります。

廃棄する

お住まいの地域の自治体が指定している廃棄方法にしたがってください。
お買い上げの代理店または巻末の連絡先までご連絡いただければ、回収いたします。

困ったときは

修理をご依頼される前に、困ったときはの内容をご確認ください。

故障かな？と思ったら

こんなときは	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	コンセントはささっていますか？	ACアダプターと電源コードをつないでください。 本体の電源差し込み口に電源プラグを差し込み、電源コードをコンセントに差し込んでください。
	電源ボタンはONになっていますか？	電源ボタンをONの位置にしてください。
圧が上がらない	コンセントはささっていますか？	ACアダプターと電源コードをつないでください。 本体の電源差し込み口に電源プラグを差し込み、電源コードをコンセントに差し込んでください。
	連結チューブがしっかり接続されていますか？	連結チューブの本体側コネクタを本体と、カフ側コネクタをカフと正しく接続してください。
	センサーカフとRICカフに正しい連結チューブが接続されていますか？	センサーカフにはセンサーカフ用チューブ(青)を接続してください。 RICカフにはRIC/トレーニング用チューブ(透明)を接続してください。
	カフが破れたり、穴が開いたりしていませんか？	カフに傷がある場合は、お買い上げの代理店または巻末の連絡先までご連絡ください。
圧が抜けない	—	「END」ボタンを押し、ただちに使用を中止してください。 カフを外してチューブコネクタからチューブを抜き、除圧してください。 お買い上げの代理店または巻末の連絡先までご連絡ください。

こんなときは	考えられる原因	対処方法
異音がする	モーター音で、構造上やむを得ず発生するものです。普段と違う異音が生ずるときは、モーターなどの故障の可能性があります。	普段使用している際のモーター音とは違う異音が発生する場合は、お買い上げの代理店または巻末の連絡先までご連絡ください。
ランプがつかない	コンセントはささっていますか？	ACアダプターと電源コードをつないでください。 本体の電源差し込み口に電源プラグを差し込み、電源コードをコンセントに差し込んでください。
	準備中ランプから実行中ランプに移行しない場合、センサーカフが正しく巻かれていますか？ センサーカフを使用した検圧が完了しないと、加圧が始まりません。	センサーカフを正しく巻いてください。 センサーカフの巻き方は、下肢 リックオートモードで使用する(P28~29)の手順3~4を参照してください。
タッチパネルがつかない	—	接続に不具合が出た場合、タッチパネルに「通信エラー」が表示され、ポンプが停止、バルブが開放されます。 お買い上げの代理店または巻末の連絡先までご連絡ください。
警報音が鳴る	—	ポンプが加圧を始めて10秒以上停止しなければ、ポンプが停止、バルブが開放され、警報音が鳴り待機画面に移行します。 お買い上げの代理店または巻末の連絡先までご連絡ください。

よくあるご質問

Q 誰にでも使用できますか？

A

- 基本的にどなたでも使用していただけますが、現在治療中の病気のある方は、必ずかかりつけの医師とよく相談のうえ、影響のないことを確認してから使用してください。
- 風邪やインフルエンザなど、全身的感染症で熱がある場合は使用しないでください。

Q 何歳から使用できますか？

A

カフが正しく巻ける状態であれば、基本的に何歳からでも使用していただけます。
必ずご本人あるいはご家族の同意のうえ使用してください。

Q 生理中でも使用できますか？

A

基本的に使用しても問題はありませんが、出血が増える可能性があります。
出血があまりにも増えるようであれば、ご使用を控えてください。

Q トレーニング前とトレーニング後、どちらにRICを行うとよいですか？

A

トレーニング前後で行うのが一般的です。
ウォーミングアップとしてRICモードで使用し、トレーニングモードでトレーニング、クールダウンとしてトレーニング後にRICモードを行います。
あくまで一例ですので、対象者に合わせてご使用ください。

Q

使用回数や時間に制限はありますか？

A

1回のRICはインターバルを含め、10分以内で行ってください。1日の使用回数に特に制限はありませんが、過剰に行うと疲労や体調の不良を感じる場合があります。適度な使用を心がけてください。

Q

傷がある場所に使用してもよいですか？

A

- 医師の診断を受けている場合は、必ずかかりつけの医師とよく相談のうえ、影響のないことを確認してから使用してください。
- 受傷後5日以内は、出血することがあるので使用しないでください。
- 肉離れや出血している箇所に、カフを巻いて使用しないでください。

Q

血栓が詰まることはありませんか？

A

取扱説明書の指示通りに使用していただければ、MCCが原因で血栓が詰まることはないと考えられます。投薬治療中や医師の診断を受けている場合は、必ずかかりつけの医師とよく相談のうえ、影響のないことを確認してから使用してください。

Q

カフのチューブ部分が白っぽくなっていますが、使用しても問題ありませんか？

A

チューブが破れる、穴が開くなど破損していなければ、問題なく使用できます。

仕様・保証書

仕様

販売名	マルチカフケア4 (MCCIV)
一般的用途	駆血用自動調圧装置
定格入力	ACアダプタ : AC100V-240V 1.4A MAX 50-60Hz
出力	DC12V 5A
外形寸法	幅340mm 高さ190mm 奥行300mm
質量	4.5kg
付属品	<ul style="list-style-type: none">・ ACアダプター ・ 電源コード・ うでRICカフ(1本)・ 脚用3連カフ L.R(2本)・ 脚用2連カフ L.R(2本)・ うで用2連カフ(2本)・ RIC/トレーニング用チューブ(透明)(1本)・ センサー用チューブ(青)(1本)・ 取扱説明書(保証書付き)
安全規格	過電流時電圧低下検出機能
	過渡動作時自動初期化機能
	電源ヒューズ : 2.5A
輸送及び保存場所 の環境条件	温度 : -10℃~50℃
	湿度 : 10%~90%
	気圧 : 700hPa~1060hPa
総販売元	愛知電子工業株式会社 名古屋市天白区池見2-88

保証規定

1 取扱説明書に従った使用状態で、保証期間内に万一故障した場合には、無償修理をさせていただきます。

- 1) 無償修理をご依頼になる場合には、取扱説明書から切り離した保証書を商品に添えて、お買い上げの代理店にお申し付けください。
- 2) お買い上げの代理店で無償修理をご依頼できない場合には、巻末の連絡先までご連絡ください。

2 保証期間内においても、次の場合には原則として有償修理とさせていただきます。

- 1) 誤ったご使用やお取り扱いによる故障および損傷
- 2) お買い上げ後の輸送、落下などによる故障および損傷
- 3) 天災、地震、水害、落雷、異常電圧、指定外の電源使用およびその他の天災地変、公害による故障または損傷
- 4) 不適切な修理、改造および分解、その他のお手入れによる故障または損傷
- 5) 取扱説明書に記載されていない方法で使用した場合の故障および損傷
- 6) 保証書のご提示がない場合
- 7) 保証書にお買い上げ年月日、お客様のお名前、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
- 8) お買い上げ後の外装面の傷および破損

3 保証書は日本国内においてのみ有効です。

4 保証書の再発行はいたしませんので、大切に保管してください。

保証書

取扱説明書に基づく通常のお取り扱いにおいて、万一保証期間内に故障した場合には、保証規定に基づき、保証期間内に限り無償で修理いたします。

販売名	マルチカフケア4 (MCCV)		
お客様お名前	様		
ご住所	〒 _____		
お電話番号			
ご購入年月日	年	月	日
販売店名			
保証期間	ご購入日より1年間		

— 製品の使用方法などのお問い合わせは —



愛知電子工業株式会社

フリーダイヤル：**0120-055-180**

携帯からは：**052-835-0055**

月～金 9:30～17:00(年末年始・夏季休業日・祝日を除く)

<http://www.aichidenshi.jp/>

■ 開発元



POWERFUL LIFE
for Healthy Life, All the People.

パワフルライフ株式会社

〒486-0846 愛知県春日井市朝宮町2-19-7
TEL(0568)33-4175 FAX(0568)33-4176

■ 製造元



愛知電子工業株式会社

営業本部 〒468-0067 名古屋市天白区池見2丁目88
ショールーム TEL(052)835-0055(代) FAX(052)835-2777
東京営業所 〒136-0071 東京都江東区亀戸2丁目35-4 ソフィア亀戸101
ショールーム TEL(03)5875-5412(代)
九州営業所 〒816-0981 福岡県大野城市若草4丁目3-23
ショールーム TEL(092)589-2275(代) FAX(092)589-2290
サポートセンター／東北・甲信越・関西

製品の使用方法などのお問い合わせは――

フリーダイヤル：0120-055-180

携帯からは：052-835-0055

月～金 9:30～17:00(年末年始・夏季休業日・祝日を除く)

<http://www.aichidenshi.jp/>